

令和5年度 5年次授業時間割表

	1～4時限	5～10時限
期 間	8:50 ～ 11:40	12:50 ～ 17:10
4/3 ～ 7/14 (1週 ～ 14週)	臨床実習(C C 1) ※毎週金曜日4・5コマ目(7・8・9・10時限)は医学医療総合講義	
夏季休業 7/15 ～ 8/13		
8/14 ～ 9/8 (15週 ～ 18週)	臨床実習(C C 1) ※毎週金曜日4・5コマ目(7・8・9・10時限)は医学医療総合講義	
9/11 ～ 9/15 (19週)	中間試験期間(試験日:9/15(金)予定)	
9/19 ～ 10/6 (20週 ～ 22週)	秋田県研修病院実習	
10/10 ～ 12/15 (23週 ～ 32週)	臨床実習(C C 2) I期:10/10 ～ 11/10 II期:11/13 ～ 12/15	
冬季休業 12/16 ～ 1/3		
1/4 ～ 3/1 (33週 ～ 41週)	臨床実習(C C 2) III期:1/4 ～ 1/26 IV期:1/29 ～ 3/1	
春季休業 3/2 ～		

事前準備が必要な科目もありますので、必ず講義前に各科目のページで詳細を確認してください。

分類：臨床医学V(CC1)

授業科目名：消化器内科学（内科学1）臨床実習（消化器内科学（内科学1）臨床実習(Gastroenterology)）

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-01

1. 主任教員

飯島克則（教授、消化器内科、6573）

2. 担当教員

飯島克則（教授、消化器内科、6573）

後藤隆（准教授、消化器内科、6104）

松橋保（准教授、消化器内科、6104）

佐藤亘（特任講師、消化器内科、6104）

小泉重仁（講師、消化器内科、6104）

下平陽介（助教、消化器内科、6104）

千葉充（助教、消化器内科、6104）

高橋健一（助教、消化器内科、6104）

南慎一郎（特任助教、消化器内科、6104）

福田翔（特任助教、消化器内科、6104）

渡邊健太（特任助教、消化器内科、6104）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

1. 診療参加型臨床実習 CC1 の概要・ねらい

チームの一員として病棟や外来患者さんへの診療を通して、将来、どのような分野の医師にも必要な内科領域、特に消化器内科を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実戦力を習得する。プロフェッショナルリズム、倫理、医療行動学、医療安全、医療法（制度）、EBM について実践的に学ぶ。(1-1,1-2,2-1,2-2,2-3,2-4,2-5,2-6,4-1,4-2,4-3,4-4,4-5,4-6,4-7)

1) 病棟診療

各学生は各診療チームに2週間配属され、指導医のもと数名の病棟患者さんを担当する。指導医の監督のもとに、日々、病棟担当患者さんの回診を行い、医療面接、身体診察による課題抽出・文献検索による臨床推論、検査・治療方針の提案、日々の診療内容や他科頼診券、ウイークリーサマリー、紹介状などカルテへの記載（指導医の確認必須）、カンファレンス時の各種プレゼンテーション、患者・家族への説明への参加など、チームの一員としてEBMに基づいた基本的な診療を実践的に学ぶ。

2) 外来診療、各種検査、治療への参加

このような病棟の担当患者診療の合間には、外来の新患、再来患者さんの診療や各種検査、治療に参加しながら、診療チームの一員として臨床推論・検査・治療の過程を実践的に学ぶ。

2. 学修目標

上記1の概要・ねらいを中心に実習を進めるが、本診療科で特に経験保証する症候、病態、各種手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態 臨床推論 (3-5,4-1,4-2,4-3,4-4,4-5,4-6)

(1) 黄疸 (2) 腹痛 (3) 悪心・嘔吐 (4) 食思不振 (5) 便秘・下痢・血便 (6) 吐血・下血 (7) 腹部膨隆（腹水を含む）・膨満・腫瘍

2) 基本的臨床手技 (3-1,3-2,3-3,4-1,4-2,4-3,4-4,4-5,4-6,4-7)

(1) 体位交換、移送ができる (2) 皮膚消毒ができる (3) 静脈採血を実施できる (4) 胃管の挿入と抜去ができる (5) 尿道カテーテルの挿入と抜去を実施できる (6) 注射（皮内、皮下、筋肉、静脈内）を実施できる (7) 末梢静脈の血管確保を実施できる (8) 診療録（カルテ）を作成する。

3) 検査手技 (3-1,3-2,3-3,4-1,4-2,4-3)

(1) 腹部の超音波検査を実施できる。

(2) 経皮的酸素飽和度を測定できる。

(3) エックス線撮影、コンピュータ断層撮影（CT）、磁気共鳴画像法（MRI）、核医学検査、内視鏡検査を見学し、介助する。

4) シミュレーション教育 (2-1,2-2,2-3,2-4,2-5,2-6,2-7,4-1,4-2,4-3,4-4,4-5,4-6,4-7)

(1) 腹部エコーシミュレータを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。

(2) 腹部内視鏡シミュレータを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。

5) 医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法（医療制度）、EBMI について (1-1,1-2,3-1,3-2,3-3,3-4,3-5,3-6,3-7,4-1,4-2,4-3,4-4,4-5,4-6,5-1,5-2,5-3,5-4,5-5)

(1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント

(2) 困難な患者 急変患者・家族への説明

(3) 各種侵襲的な検査・治療時の安全性への配慮

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

内科学（朝倉書店）、内科学（西村書店）、標準消化器病学（医学書院）

5. 成績評価の方法

実習中の学習態度、CC-EPOC、口頭試問、miniCEX（実際の患者さんへの診療を評価）、レポート発表、レポート提出、セミナーへの出席状況に基づいて総合的に評価する

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ・ 授業プリントを中心に十分復習してから実習に臨むこと
- ・ 経験記録、手帳の記載を行うこと
- ・ 若干のスケジュールの可能性があるので医局で確認すること

消化器内科学（内科学1）臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [9:00-18:00] 副題 担当	9:00-12:00 オリエンテーション/セミナー肝臓/腹部超音波実習 13:00-16:00 入院報告・総回診 16:00-17:00 病棟実習 17:00-18:00 内視鏡カンファレンス
第 2 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	9:00-12:00 病棟実習 13:00-15:00 病棟実習 15:00-17:00 肝胆膵検査見学
第 3 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	9:00-12:00 下部消化管内視鏡モデル実習 13:30-15:00 セミナー画像診断 15:00-17:00 内視鏡的粘膜下層剥離術見学
第 4 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	9:30-12:00 A 班：外来実習 B 班：病棟実習 13:00-14:30 胆・膵セミナー 14:30-17:00 病棟実習
第 5 回 金曜日 [9:00-17:10] 副題 担当	9:00-11:00 消化管造影検査見学 11:00-12:00 病棟実習 13:00-14:20 病棟実習 14:20-17:10 医学医療総合講義
第 6 回 月曜日 [9:00-18:00] 副題 担当	9:00-11:30 病棟実習 13:00-16:00 入院報告・総回診 16:00-17:00 上部消化管内視鏡モデル実習 17:00- 内視鏡カンファレンス
第 7 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	9:00-12:00 A 班:超音波検査見学 B 班:病棟実習 13:00-17:00 病棟実習
第 8 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	9:00-11:30 A 班:病棟実習 B 班:超音波検査見学 13:30-15:00 消化管セミナー 15:00-17:00 病棟実習
第 9 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	9:30-12:00 A 班：病棟実習 B 班：外来実習 13:00-14:00 病棟実習 13:00-16:00 発表会
第 10 回 金曜日 [9:00-17:10] 副題 担当	9:00-11:00 病棟実習 13:00-14:20 病棟実習 14:20-17:10 医学医療総合講義

分類：臨床医学V(CC1)

授業科目名：神経内科学(内科学1) 臨床実習(Neurology CC1)

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-02

1. 主任教員

飯島克則(教授、消化器内科学・神経内科学講座、6099)

2. 担当教員

飯島克則(教授、消化器内科学・神経内科学講座、6099)

菅原正伯(医学部講師、附属病院 脳神経内科、6101、オフィスアワー：8:30-18:00)

華園 晃(助教、消化器内科学・神経内科学講座、6104、オフィスアワー：8:30-18:00)

3. 授業のねらい及び概要(学修目標)

1. ねらい(大まかな全体目標)

チームの一員として病棟や外来患者さんへの診療を通して、将来、どのような分野の医師にも必要な内科領域、特に神経内科学を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実戦力を習得する。また、関連する医療行動科学、医療倫理、医療安全、医療法(医療制度)、EBMについて実践的に学ぶ。

2. 概要(大まかな学修目標(項目))

・神経内科疾患の診療に関する基本的な知識と技能を修得するために、指導医を中心とした医療チームの一員として能動的に実習に取り組む。(4-1~4-7)

・臨床実習の中で自ら情報を収集し、患者さんのニーズ・問題点の抽出、整理、解釈を行い(臨床的推論)、解決法(診断、治療)を立案するための基本的訓練を行う(problem based learning:PBL)。(3-3, 4-4, 5-1~5-5, 6-1~6-2)

・神経内科疾患の診察、検査、治療の実際を体験し、ポートフォリオを作成する。ロールプレイ学習と組み合わせることによって疾患を深く理解し、受け持ち患者さんの特異性を抽出しやすくする。

・ロールプレイ学習で患者役と医師役を演じることによって、テキスト上の知識を実体化し、神経疾患と神経疾患患者についての理解を深める。

・診療チームの日常診療に参加し、神経内科の診察、検査、治療の実際を体験し、ポートフォリオを作成する。

・ロールプレイ学習で得た技能を実際の患者診療に適用できる。

1) 病棟診療

各学生は1週間配属され、指導医のもと病棟の担当患者さんを毎日回診して、診療内容をカルテに記載する。指導医の監督のもとに、医療面接、身体診察を行って、問題を抽出し、作業仮説を立ててEBMに基づいた検証を繰り返す(必要に応じて文献を検索する)。臨床推論に基づいて、診断、鑑別に必要な検査を立案し、担当患者さんの重症度、合併症を勘案して治療方針の選択を試みる。他科頼診券、ウイークリーサマリー、紹介状などのカルテへの記載(指導医の確認必須)、総回診時のプレゼンテーション、患者・家族への説明への参加など、チームの一員として基本的な診療を実践的に学び、医師としてのプロフェッショナルリズムを身に付けるために必要な知識、学習プロセスを身に付ける。(1-1~1-2, 2-1~2-7, 3-1~3-7, 4-1~4-8, 6-1)

2) 外来診療、各種検査、治療への参加

実習期間が5日と短いため、CC1では半日だけ外来診療への参加機会をつくる。(CC2では外来新患の、医療面接、身体診察を指導医のもとで行い、臨床推論に則った検査、治療立案を行う。)

ロールプレイ OSCEを行い、実習最終日に実習の成果を確認する。指導者からのフィードバックの他、動画記録して自己評価、振り返りを行う。

新型コロナウイルス感染症予防のために対面実習が困難な場合は、課題学習とする。質量分析、iPS細胞、オートファジーが病態解明や、治療にどのように応用可能かを検討し、研究立案を試みる。(3-3~3-5, 4-3~4-4, 5-1~5-5, 6-1)

3) 各種検査・手術等の治療への参加

診療チームの一員として各種検査、治療に参加しながら、臨床推論・検査・治療の実際を経験し、検査成績の評価を自ら試み、記録する。(3-1～3-3, 4-2～4-5)

3. (詳細な) 学修目標・項目

上記1の概要・ねらいを中心に実習を進めるが、本診療科で特に経験保証する症候、病態、各種手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態 臨床推論 (3-5, 4-1～4-6)

(1) けいれん (2) 意識障害・失神 (3) めまい (4) 頭痛 (5) 運動麻痺・筋力低下 (6) 嚥下困難・障害 (7) もの忘れ (8) 歩行障害 (9) 複視 (10) しびれ (11) 失語 (12) 構音障害 (13) 運動失調

2) 基本的臨床手技 (3-1～3-3, 3-5, 4-1～4-7)

(1) 体位交換、移送ができる (2) 皮膚消毒ができる (3) 静脈採血を実施できる (4) 末梢静脈の血管確保を実施できる (5) 腰椎穿刺を見学し、介助する (6) 注射 (皮下、筋肉、静脈内) を実施できる (7) 診療録 (カルテ) を作成する (8) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査・治療手技 (3-1～3-3, 4-1～4-3)

(1) 視力、視野、聴力、平衡機能検査を実施できる。

(2) 経皮的酸素飽和度を測定できる。

(3) エックス線撮影、コンピュータ断層撮影 (CT)、磁気共鳴画像法 (MRI)、核医学検査、内視鏡検査を見学し、介助する。

4) シミュレーション教育 (ロールプレイ・OSCE など)

(1) 自分が作成したシナリオに従って患者を演じ、ペアになった学生が医師役として、医療面接、身体・神経診察を行って、疑わしい疾患、診断に必要な検査、治療選択について患者さんにわかりやすい言葉で説明する。実習のアウトカム評価が可能になる。(1-1～1-2, 2-1～2-4, 3-1～3-4, 4-1～4-3)

(2) 他の実習メンバーは演技に矛盾がないか、医師役の診察手技が正確か、評価しながら参加する。

(3) 動画による振り返りによって自己省察能力を高める。(6-1)

(4) 3年次のロールプレイ OSCE に加えて、CCI でロールプレイ OSCE を行い、臨床実習終了時 OSCE に備える。(6-1～6-2)

5) プロフェッショナリズム、医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (制度)、EBM について

(1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント (見学、ロールプレイ OSCE)。(2-1～2-4, 2-7, 3-5)

(2) 困難な患者 急変患者・家族への説明 (見学)。(2-7)

(3) 患者さんの生活環境 (家庭、職場) に配慮した、診療計画を検討できる。(1-2, 3-7)

(4) インペアメント、ディスアビリティ、ハンディキャップを説明できる (4-3)

(5) 生活習慣に潜むリスクを列挙して、患者指導の在り方を考えられる。(1-2, 3-2～3-4)

(6) 遺伝カウンセリングに必要な情報提供ができる。(3-4～3-6)

(7) 治癒を見込むことが困難な進行性の疾患を持つ患者さんの意思決定支援、事前指示のタイミング、苦痛の緩和について理解する。(1-1～1-2, 2-1～2-3, 2-7, 3-5)

(8) 各種侵襲的な検査・治療時の安全性への配慮ができる。(3-5)

(9) 難病法、介護保険制度、障害者自立支援法、障害者差別解消法、身体障害者福祉法、認知症基本法を概説できる。(3-7, 4-7～4-8)

(10) 各種診療ガイドラインを適宜参照し、活用できる。(3-3～3-4, 4-3～4-4, 6-1)

(11) 文献から得られた情報の批判的吟味ができる。(3-3, 4-4, 5-2)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

3年次神経内科講義資料、診察実習時の資料 (神経疾患診察法)、OSCE クリニカルクラークシップガイドを常に参照できるようにすること。

必要に応じて、診断・治療ガイドラインを参照、活用すること。

後藤、天野著：臨床のための神経機能解剖学 中外医学社

水野美邦編集：神経内科ハンドブック 医学書院

鈴木則宏、荒木信夫編集：講義録神経内科 MEDICAL VIEW

Louis, Mayer, Rowland: Merritt's Neurology 13th Ed. Wolters Kluwer

Kandel, Schwartz, Jessell, Siegelbaum, Hudspeth: カンデル神経科学 5th Ed. メディカル・サイエンス・インターナショナル

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問、ミニ CEX（水曜日のミニプレゼンテーション）、ロールプレイ OSCE、レポート、出席、その他（カルテ記録、ポートフォリオ；CC-EPOC）で総合評価する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

オリエンテーションを省略する。WebClass でスケジュール確認、予習をして実習に臨んでください。

クリクラ概要書をよく読んで、WebClass で予習すること。神経診察手技を動画教材で復習しておくこと。また、OSCE クリニカルクラークシップガイドの 実習直前に必ず復習してくる事項【必修（コア）事項】を学習して実習に臨むこと。実習開始前に医師国家試験出題基準に目を通すこと。できれば実習早々に国家試験過去問を解いて、不得手な領域を明らかにして、実習でそれを克服する工夫をすべきです。

毎日診療録を記載し、病棟医と discussion をして、出席簿にサインをもらうこと。診療録のフィードバックを確認して追記・訂正を行って承認を得ること。

経験記録、手帳の記載をポートフォリオとして、充実させること。

金曜のロールプレイ発表後に、1. クリクラ自己評価、2. ロールプレイシナリオ・神経所見・鑑別シート・チェックリスト、3. ポートフォリオ（経験記録）を医局秘書に提出する。ポートフォリオを返却するので、翌週木曜以降に医局秘書まで取りに来てください（代表者でもかまいません）。

講演会、研究会があるときは、告知するので、積極的に参加してください。

キーワード：診療参加型実習、ロールプレイ、ポートフォリオ、Problem Based Learning; PBL、Problem-Oriented Medical-Record; POMR、自己評価

神経内科学（内科学1）臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第1回	月曜日 [8:30-19:00] 副題 神経内科クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:40-09:00 受け持ち患者ふりわけ、1-8病棟（華園） 09:00-17:00 担当患者回診、病棟実習 18:00-19:00 病棟カンファレンス、1-8病棟カンファ室
第2回	火曜日 [8:30-18:00] 副題 神経内科クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30-13:00 担当患者回診、病棟実習 13:00-15:00 ミニレクチャー、1-8病棟カンファ室（菅原） 15:00-18:00 ミニプレゼンテーションの準備
第3回	水曜日 [8:30-18:00] 副題 神経内科クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30-09:00 担当患者回診 09:00-10:30 神経回診（ミニプレゼンテーション mini-CEX）、1-8病棟 10:30-11:30 症例カンファレンス、1-8病棟（菅原） 13:00-18:00 担当患者回診、病棟実習、ロールプレシナリオ作成
第4回	木曜日 [8:30-18:00] 副題 神経内科クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30-12:00 担当患者回診、病棟実習 09:00-12:00 ミニレクチャー、1-8病棟カンファ室（華園） 13:00-18:00 病棟実習、ロールプレイブラッシュアップ
第5回	金曜日 [8:30-18:00] 副題 神経内科クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30-13:00 ロールプレイ発表、1-8病棟 研修室（菅原） 14:20-17:10 医学医療総合講義（多目的室） 14:00-18:00 担当患者回診、病棟実習

分類：臨床医学V(CC1)

授業科目名：循環器内科学（内科学2）臨床実習（Cardiovascular）

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-03

1. 主任教員

渡邊 博之（教授、南臨床棟5階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント）

2. 担当教員

渡邊 博之（教授、南臨床棟5階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント）

長谷川仁志（教授、基礎棟3階、6226、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント）

寺田 健（講師、南臨床棟5階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント）

鈴木 智人（助教、南臨床棟5階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント）

高木 祐介（助教、南臨床棟5階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント）

佐藤 輝紀（助教、南臨床棟5階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント）

佐藤 和奏（助教、南臨床棟5階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント）

岩川 英弘（助教、南臨床棟5階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

1. 診療参加型臨床実習CC1の概要・ねらい

チームの一員として診療に参加し、病棟や外来の患者さんを通して内科領域、特に循環器内科を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実践力を修得する。(1, 2, 3, 4, 5, 6)

1) 病棟診療(1, 2, 3, 4, 5, 6)

各学生は各診療チームに2週間配属され、指導医のもと病棟患者さんを担当する。指導医の監督の下に、日々、病棟担当患者さんの回診を行い、医療面接、身体診察による課題抽出・文献検索による臨床推論、検査・治療方針の提案、日々の診療内容や他科来診券、ウイークリーサマリー、紹介状などカルテへの記載（指導医の確認必須）、カンファレンス時等の各種プレゼンテーション、患者家族への説明への参加など、チームの一員としてEBMに基づいた基本的な診療を実践的に学ぶ。

2) 外来診療、各種検査、手術などの治療への参加(1, 2, 3, 4, 5, 6)

このような病棟診療の合間には、外来の新患、再来患者さんの診療や各種検査・治療に参加しながら、診療チームの一員として臨床推論・検査・治療の過程を実践的に学ぶ。

以上の実習により、将来、何科の医師になっても必要な循環器内科領域の基本的な診療能力（医療行動科学、医療倫理、医療安全を含む）を実践修得する。

2. 学修目標

上記1) 2)を中心に実習を進めるが、この期間に本診療科で特に経験する症候・病態、各種手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態(3-1.2.3.4.5)

(1) 発熱、(2) 全身倦怠感、(3) 食思(欲)不振、(4) 体重減少・体重増加、(5) ショック、(6) 意識障害・失神、(7) けいれん、(8) めまい、(9) 浮腫、(10) 咳・痰、(11) 呼吸困難、(12) 胸痛、(13) 動悸、(14) 胸水、(15) 嚥下困難・障害、(16) 腹痛、(17) 悪心・嘔吐、(18) 頭痛、(19) 腰背部痛、(20) 心停止

2) 基本的臨床手技(4-6)

- (1) 皮膚消毒ができる。
- (2) 静脈採血を実施できる。
- (3) 末梢静脈の血管確保を実施できる。
- (4) 中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助する。
- (5) 動脈血採血・動脈ラインの確保を見学し、介助する。
- (6) 注射（皮内、皮下、筋肉、静脈内）を実施できる。
- (7) 診療録（カルテ）を作成する。来診券、紹介状を記載する。
- (8) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査手技（4-2, 4-6）

- (1) 12誘導心電図を記録できる。
- (2) 心臓の超音波検査を実施できる。
- (3) 経皮的酸素飽和度を測定できる。
- (4) 心エコー、運動負荷心電図、心筋シンチグラフィ、心臓カテーテルを見学し、介助する

4) 外科手技（4-6）

- (1) 無菌操作を実施できる。
- (2) 手術や手技のための手洗いができる。
- (3) 手術室におけるガウンテクニックができる。
- (4) 基本的な縫合と抜糸ができる。
- (5) 創の消毒やガーゼ交換ができる。
- (6) 手術、術前・術中・術後管理を見学し、介助する。

5) 救命処置（2-1.2.3.4.5.6.7, 4-1.2.3.4.5.6.7）

- (1) 身体徴候、バイタルサインから緊急性の高い状況であることを判断できる。
- (2) 一次救命処置を実施できる。
- (3) 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

6) シミュレーション教育（4-2, 4-6）

- (1) 心エコーシミュレーターを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。
- (2) シムマン 3G を用いて、軽症から重症まで約 20 例の胸部症状シナリオを用いたシミュレーショントレーニングを通して、各種胸部症状患者への初期対応の経験をする。
- (3) 心臓カテーテルシミュレーターを用いて、冠動脈造影中の医療安全に関する様々な意識を実験する。
- (4) エコーガイド下、中心静脈確保をシミュレーターを用いて経験する。

7) 医療行動科学、医療倫理、医療安全、医療法について（2-1.2.3.4.5.6.7.8, 3.5.6）

- (1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント
- (2) 困難な患者 急変患者・家族への説明、
- (3) 各種検査時の安全への配慮

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

内科診断学（医学書院）
内科学（朝倉書店）
内科診断学（南江堂）
内科診断学（医学書院）

Navigate 循環器疾患 (医学書院)

病気が見える循環器 (メディックメディア)

臨床循環器学 (文光堂)

集中講義 胸痛 (メジカルビュー社)

クリニカルクラークシップガイド等、講義・演習資料

5. 成績評価の方法

CC-EPOC 入力状況、実習評価表、miniCEX、最終日の学生カンファランスの場で発表・ディスカッション、
実習中 OSCE (シミュレーション、模擬画像など) および卒業時の PCC-OSCE

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ・クリニカルクラークシップガイドの実習直前に必ず復習してくる事項【必修 (コア) 事項】を学習してくること。
- ・経験記録、手帳の記載を行うこと

循環器内科学（内科学2）臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 担当	09:00 オリエンテーション（渡邊）：第二病棟4階カンファレンスルーム 10:00 担当医紹介 11:00 病棟実習 13:30 身体所見セミナー（鈴木）：第二病棟4階カンファレンスルーム 14:30 病棟実習／心臓カテーテル実習 15:00 エコーセミナー（佐藤和奏）：南臨床棟5階カンファレンスルーム 16:00 臨床推論セミナー（寺田）：南臨床棟5階カンファレンスルーム
第2回 火曜日 [8:00-17:00] 副題 担当	08:00 急変シミュレーター実習（長谷川）：シミュレーション教育センター 11:00 病棟実習 13:00 病棟実習／心臓カテーテル実習
第3回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	09:00 病棟実習 13:00 病棟実習／心臓カテーテル実習
第4回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	09:00 病棟実習 13:00 病棟実習／心臓カテーテル実習
第5回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	09:30 大動脈弁狭窄症のカテーテル治療（高木）：南臨床棟5階カンファレンスルーム 10:00 病棟実習 14:20 医学医療総合講義
第6回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 担当	09:00 病棟実習 13:30 心臓リハビリセミナー（鈴木）：第二病棟4階カンファレンスルーム 14:30 薬物療法（佐藤輝紀）：第二病棟4階カンファレンスルーム 15:30 心電図セミナー（寺田）：第二病棟4階カンファレンスルーム
第7回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	09:00 病棟実習 13:30 徐脈性不整脈セミナー（岩川）：第二病棟4階カンファレンスルーム 14:30 病棟実習／心臓カテーテル実習
第8回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	09:00 病棟実習 13:00 病棟実習／心臓カテーテル実習
第9回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	09:00 病棟実習 13:00 病棟実習／心臓カテーテル実習
第10回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	09:00 病棟実習 10:30 試問（渡邊）：第二病棟4階カンファレンスルーム 14:20 医学医療総合講義

分類：臨床医学V(CC1)

授業科目名：呼吸器内科学 臨床実習 (Respiratory Medicine)

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-04

1. 主任教員

中山勝敏 (教授、呼吸器内科学講座、7510)

2. 担当教員

中山勝敏 (教授、呼吸器内科学講座、7510)

佐藤一洋 (特任准教授、呼吸器内科学講座、7510)

竹田正秀 (講師、呼吸器内科学講座、7510)

奥田佑道 (特任助教、高齢者医療先端研究センター、7510)

浅野真理子 (特任助教、高齢者医療先端研究センター、7510)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい

病棟や外来患者さんへの診療を通して、呼吸器領域の症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実践力を修得する。診療チームの一員として内科領域、特に呼吸器を中心とした患者の診断・治療の過程を経験し、講義・クリニカルクラークシップ実習を通じて深く理解習得する。また、関連するプロフェッショナルリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法(制度)、EBMについて学ぶ。

2. 概要 (1-1~1-2、3-1~3-7、4-1~4-8、5-1~5-5、6-1~6-2)

呼吸器内科疾患の診療に関する基本的な知識と技能を修得するために、指導医を中心とした医療チームの一員として能動的に実習に取り組む。臨床実習の中で自ら情報を収集し、患者さんのニーズ・問題点の抽出、整理、解釈を行い(臨床的推論)、解決法(診断、治療)を立案するための基本的訓練を行う (problem based learning:PBL)

1) 病棟診療 (1-1~1-2、2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

指導医チームに加わり、チーム内の病棟患者さん全員の診療を行う。日々回診し、問診、身体診察を行い、臨床課題を抽出し、臨床推論を行う。指導医とともにカルテ記載、検査および治療方針の決定を行う。病棟カンファレンスでは担当のなかから1名についてプレゼンテーションと質疑応答を行い、エビデンスに基づいた診療を経験する。さらに文献的な考察も含め病態の理解を深める。

2) 外来診療 (1-1~1-2、2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

外来指導医のもと、新患患者さんの問診、身体診察を行い、指導医とともにカルテ記載、鑑別疾患の検討、および必要な検査の提案を行う。病態を把握し指導医とともに治療方針を検討する。

3) 検査への参加 (2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

気管支鏡検査の見学を行う。検査前に指導医とともに当該症例の画像を読影し、鑑別診断の検討および検査方針を立てる。検査後の検体の取り扱いも理解する。

4) 臨床実習レポート発表 (3-1~3-7、5-1~5-5、6-1~6-2)

担当症例について病歴、検査値、経過、治療方針などをまとめ、発表を行う。文献的考察も行うことで、エビデンス収集能力および医学的な分析能力を養う。

3. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

上記のねらい及び概要を中心に実習をすすめるが、本診療科で特に経験保証する症候、病態、各種手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態、臨床推論 (3-1~3-7、4-1~4-8)

(1) 発熱、(2) 全身倦怠感、(3) 食思(欲)不振、(4) 体重増加・体重減少、(5) 意識障害・失神、(6) 脱水、(7) 浮腫、(8) 咳・痰、(9) 血痰・咯血、(10) 呼吸困難、(11) 胸痛、(12) 胸水、(13) 嚥下困難・障害、(14) リンパ節腫脹

2) 基本的臨床手技 (1-1~1-2、2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

(1) 体位交換、移送ができる。
(2) 皮膚消毒ができる。
(3) 気道内吸引、ネブライザーを実施できる。
(4) 静脈採血を実施できる。
(5) 末梢静脈の血管確保を実施できる。
(6) 中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助する。
(7) 動脈血採血・動脈ラインの確保を見学し、介助する。
(8) ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助する。
(9) 診療録(カルテ)を作成する。
(10) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査手技 (2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

(1) 微生物学検査を評価できる。
(2) 12誘導心電図を記録できる。
(3) 胸部の超音波検査を実施できる。
(4) 経皮的酸素飽和度を測定できる。
(5) エックス線撮影、CT、MRI、核医学検査、気管支鏡検査を見学し、介助する。

4) 外科的手技 (2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

(1) 無菌操作を実施できる。
(2) 基本的な縫合と抜糸ができる。
(3) 創の消毒やガーゼ交換ができる。

5) 救命処置 (2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

(1) 身体徴候、バイタルサインから緊急性の高い状況であることを判断できる。
(2) 一次救命処置を実施できる。
(3) 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

6) シミュレーション教育 (3-1~3-7、6-1~6-2)

(1) 気管支鏡シミュレータを用いて反復練習をすることで、検査の意義を学び技術を磨く。
(2) 胸腔穿刺シミュレータを用いて反復練習をすることで、検査の意義を学び技術を磨く。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

内科学(朝倉書店)、内科診断学(南江堂)、呼吸器領域の各種診療ガイドラインまたは診断と治療の手引き[肺癌(金原出版)、COPD(メディカルレビュー)、喘息(協和企画)、特発性肺線維症(南江堂)、成人肺炎(メディカルレビュー)]

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問、ミニ CEX、出席、学生症例プレゼンテーションでの発表など。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

指定の教科書・参考書等に則り予習をし、同教科書・参考書および実習時に指導された内容をもとに復習すること。

呼吸器内科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [8:30 - 17:00] 副題 担当 スタッフ全員	<ul style="list-style-type: none"> ・08:30～ オリエンテーション(第2病棟7階カンファレンス室) ・09:30～ 患者紹介(第2病棟7階)/病歴・身体所見(呼吸器内科外来) ・15:30～ 病棟カンファレンス(第2病棟7階カンファレンス室)
第2回 火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 担当 スタッフ全員	<ul style="list-style-type: none"> ・08:30～ 学生回診(第2病棟7階) ・09:00～ 病棟診療(第2病棟7階) ・11:00～ 気管支鏡前実習(シミュレーション教育センター) ・14:00～ 気管支鏡検査(中央放射線部透視室)/胸部レントゲン読影セミナー(第2病棟7階カンファレンス室)
第3回 水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 担当 スタッフ全員	<ul style="list-style-type: none"> ・08:30～ 学生回診(第2病棟7階) ・09:00～ 病棟診療(第2病棟7階) ・14:00～ 症例検討/教授回診(第2病棟7階カンファレンス室/第2病棟7階)
第4回 木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 担当 スタッフ全員	<ul style="list-style-type: none"> ・08:30～ 学生回診(第2病棟7階) ・09:00～ 病棟診療(第2病棟7階) ・11:00～ 血ガス・人工呼吸器セミナー(第2病棟7階カンファレンス室) ・13:30～ 気管支鏡検査(中央放射線部透視室) ・17:30～ 3科合同カンファレンス(放射線科カンファレンス室)
第5回 金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 担当 スタッフ全員	<ul style="list-style-type: none"> ・08:30～ 学生回診(第2病棟7階) ・09:00～ 病棟診療(第2病棟7階) ・11:00～ 胸腔穿刺実習(シミュレーション教育センター) ・14:20～ 医学医療総合講義
第6回 月曜日 [8:30 - 17:00] 副題 担当 スタッフ全員	<ul style="list-style-type: none"> ・08:30～ 学生回診(第2病棟7階) ・09:00～ 受持患者症例検討会(第2病棟7階カンファレンス室)/病歴・身体所見(呼吸器内科外来) ・14:30～ COPD・喘息セミナー(第2病棟7階カンファレンス室) ・15:30～ 病棟カンファレンス(第2病棟7階カンファレンス室)
第7回 火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 担当 スタッフ全員	<ul style="list-style-type: none"> ・08:30～ 学生回診(第2病棟7階) ・09:00～ 病棟診療(第2病棟7階) ・14:00～ 気管支鏡検査(中央放射線部透視室)/肺炎・間質性肺炎セミナー(第2病棟7階処置室)
第8回 水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 担当 スタッフ全員	<ul style="list-style-type: none"> ・08:30～ 学生回診(第2病棟7階) ・09:00～ 病棟診療(第2病棟7階) ・11:00～ 肺癌セミナー(第2病棟7階カンファレンス室) ・14:00～ 症例検討/教授回診(第2病棟7階カンファレンス室/第2病棟7階)
第9回 木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 担当 スタッフ全員	<ul style="list-style-type: none"> ・08:30～ 学生回診(第2病棟7階) ・09:00～ 病棟診療(第2病棟7階) ・11:00～ 咳・痰セミナー(第2病棟7階カンファレンス室) ・13:30～ 気管支鏡検査(中央放射線部透視室)/呼吸器症例プレゼンテーション(第2病棟7階カンファレンス室) ・17:30～ 3科合同カンファレンス(放射線科カンファレンス室)
第10回 金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 担当 スタッフ全員	<ul style="list-style-type: none"> ・08:30～ 学生回診(第2病棟7階) ・09:00～ 病棟診療(第2病棟7階) ・10:00～ 臨床実地問題解説セミナー(第2病棟7階カンファレンス室) ・14:20～ 医学医療総合講義

分 類：臨床医学 V (CC1)

授業科目名：血液・腎臓・膠原病内科学（内科学3）臨床実習（Internal Medicine 3 ; Hematology, Nephrology, and Rheumatology）

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-05

1. 主任教員

高橋直人（教授、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6111、オフィスアワー：8:30-17:00）

2. 担当教員

高橋直人（教授、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6111、オフィスアワー：8:30-17:00）

亀岡吉弘（准教授、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6113、オフィスアワー：8:30-17:00）

奈良美保（講師、輸血部、6313、オフィスアワー：8:30-17:00）

池田翔（講師、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

北舘明宏（講師、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

山下鷹也（助教、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

小林敬宏（助教、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

齋藤雅也（助教、臨床研究支援センター、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

阿部史人（助教、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

齋藤綾乃（助教、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

藤岡優樹（助教、中央検査部、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

小林五十鈴（特任助教、総合臨床教育研修センター、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

1. 診療参加型臨床実習 CC1 の概要・ねらい

チームの一員として、将来どのような分野の医師にも必要な血液・腎臓・膠原病領域に関する症候、臨床推論、鑑別診断、検査、治療方針決定等を修得する。（1-1, 1-2, 2-1～2-8）

1) 病棟診療

指導医のもと、2名の病棟患者さんを担当する。日々問診、身体診察、カルテ記載、プレゼンテーションを行い、文献検索により病態理解や治療方針の決定に参加する。（4-1～4-8）

2) 外来診療

指導医のもと、新患者さんの病歴聴取、診察、カルテ記載、鑑別疾患の検討、必要な検査の提案、治療方針の提案を行う。（4-1～4-8）

3) 臨床実習レポートの作成を行い、発表する。症例報告レベルのレポートを作成することで、医学的知識を深め、科学的探究心やエビデンス収集能力、生涯にわたって学ぶ姿勢を身に付ける。（5-1～5-5, 6-1～6-2）

2. 学修目標

1) 症候・病態 臨床推論

(1) 発熱、(2) 全身倦怠感、(3) 黄疸、(4) 貧血、(5) 出血傾向、(6) リンパ節腫脹、(7) 腹部腫瘍

2) 基本的臨床手技

(1) 皮膚消毒、(2) 静脈採血、(3) 末梢静脈の血管確保、(4) 中心静脈カテーテル挿入の見学・介助、(5) 腰椎穿刺の見学・介助、(6) 局所麻酔、輸血の見学・介助、(7) カルテ作成、(8) 診断書・検案書・証明書の作成見学・介助

3) 検査手技

(1) 尿検査（尿沈査含む）の実施、(2) 末梢血塗抹標本作成・観察、(3) 微生物学検査（Gram 染色含む）の実施、(4) 血液型判定の実施、(5) 経皮的酸素飽和度測定、(6) 骨髄穿刺、腎生検の見学・介助

4) 外科手技

(1) 無菌操作の実施、(2) 創消毒の実施

5) 救命処置

(1) 身体徴候・バイタルサインから、緊急性の高い状況を判断できる、(2) 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

6) 医療行動科学、医療倫理、医療安全、医療法、EBM について

(1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント (2-4)、(2) 悪性腫瘍の患者・家族への病状説明 (2-4, 2-7)、(3) 認知症や老々介護、生活困窮者に対する支援センターとの連携 (2-5, 2-6)、(4) up to date や PubMed 使用によるエビデンス検索 (4-4, 5-3)

詳細については第 1 週目月曜日のオリエンテーションで解説する。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

朝倉内科学、ハリソン内科学、本学のクリニカルクラークシップガイド、講義資料

5. 成績評価の方法

態度、ミニ CEX、レポート、出席

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ・本学のクリニカルクラークシップガイドの、実習直前に必ず復習してくる事項【必修 (コア) 事項】を学習してくること。
- ・経験記録、手帳の記載を行うこと。
- ・予定は変更になることがあります。

血液・腎臓・膠原病内科学（内科学3）臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容	
第1回	月曜日 [8:15 - 17:00] 副題 オリエンテーション、確認試験、クルズス、血液カンファ、病棟実習 担当 各担当教官	08:15-10:00 オリエンテーション 13:00-14:00 確認試験 14:00-15:00 クルズス 15:00-16:00 血液カンファ カンファでのプレゼン評価	上記外の時間は病棟実習を行う
第2回	火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 総回診、病棟実習 担当 各担当教官	13:30- 総回診 カンファでのプレゼン評価	上記外の時間は病棟実習を行う
第3回	水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 腎・リウマチ内科外来実習、クルズス、腎カンファ、病棟実習 担当 各担当教官	09:30-12:00 腎・リウマチ内科外来実習 13:00-14:00 クルズス 16:00-16:30 腎カンファ カンファでのプレゼン評価	上記外の時間は病棟実習を行う
第4回	木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 血液内科外来実習、クルズス、病棟実習 担当 各担当教官	09:30-12:00 血液内科外来実習 13:00-14:00 クルズス	上記外の時間は病棟実習を行う
第5回	金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 採血・フローサイト実習、病棟実習、医学医療総合講義 担当 各担当教官	09:30-12:00 採血・フローサイト実習 14:20-17:00 医学医療総合講義	上記外の時間は病棟実習を行う
第6回	月曜日 [8:30 - 17:00] 副題 血液内科外来実習、クルズス、血液カンファ、病棟実習 担当 各担当教官	09:30-12:00 血液内科外来実習 13:00-14:00 クルズス 15:00-16:00 血液カンファ カンファでのプレゼン評価	上記外の時間は病棟実習を行う 病棟実習時 ミニ CEX
第7回	火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 総回診、病棟実習 担当 各担当教官	13:30- 総回診 カンファでのプレゼン評価	上記外の時間は病棟実習を行う 病棟実習時 ミニ CEX
第8回	水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 腎・リウマチ内科外来実習、LTFU 外来実習、腎カンファ、病棟実習 担当 各担当教官	09:30-12:00 腎・リウマチ内科外来実習 14:00-14:50 LTFU 外来実習 16:00-16:30 腎カンファ カンファでのプレゼン評価	上記外の時間は病棟実習を行う 病棟実習時 ミニ CEX
第9回	木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 血液内科外来実習、クルズス、病棟実習 担当 各担当教官	09:30-12:00 血液内科外来実習 13:00-14:00 クルズス	上記外の時間は病棟実習を行う 病棟実習時 ミニ CEX
第10回	金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 レポート発表(質疑応答)、総括、医学医療総合講義 担当 各担当教官	08:30-12:00 レポート発表および質疑応答 13:00-14:00 総括 14:20-17:00 医学医療総合講義	

分類：臨床医学V(CC1)
授業科目名：精神科学臨床実習 (Clinical Clerkship in Psychiatry)
対象学年：5年次必修
時間割コード：71643002-06

1. 主任教員

三島 和夫 (教授、精神科学講座 北臨床棟4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)

2. 担当教員

三島 和夫 (教授、精神科学講座 北臨床棟4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
竹島 正浩 (講師、精神科学講座 北臨床棟4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
今西 彩 (助教、精神科学講座 北臨床棟4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
細谷 倫子 (助教、精神科学講座 北臨床棟4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
伊藤 結生 (助教、精神科学講座 北臨床棟4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
吉沢 和久 (助教、精神科学講座 北臨床棟4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
馬越 秋瀬 (助教、精神科学講座 北臨床棟4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
小笠原 正弥 (助教、精神科学講座 北臨床棟4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
石川 勇仁 (医員、精神科学講座 北臨床棟4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
加藤 信之 (医員、精神科学講座 北臨床棟4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
平野 梨聖 (医員、精神科学講座 北臨床棟4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
藤原 大 (医員、精神科学講座 北臨床棟4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい

本クリニカルクラークシップのねらいは臨床実習を通じて精神障害の病態生理、診断、治療に関する知識を深めるとともに、精神障害の患者に対して適切な医療面接や臨床推論を行い、的確な診断やエビデンスに基づく治療を策定することである。また、精神科診療に必須である精神保健福祉法についても学習し、個々の患者に対して適切な入院形態や行動制限を選択できるようにあることである。それに加え、医師の倫理や医師の職責などのプロフェッショナリズムを育み、良好な患者と医師の信頼関係に基づく全人的医療を実践し、チーム医療に必要なコミュニケーション能力を学ぶ。また、臨床実習で実際の患者と触れ合うことによって医学的課題の発見などのリサーチマインドや問題解決能力を高め、絶えず進歩する医学・医療に興味を抱いて学習し、学んだ成果を取り入れる姿勢を涵養する。また、関連する医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法(医療制度)、EBMについて実践的に学ぶ。(1-1~1-2、2-1~2-3、2-5~2-7、3-1~3-3、3-7、4-1~4-5、4-7、5-1~5-3)

2. 概要

到達目標

- (1) 患者-医師の良好な信頼関係に基づく精神科面接の基本を説明できる。(2-1~2-3)
- (2) 診察・検査を通じて精神障害の診断・治療の流れを理解できる。(4-1~4-3)
- (3) 精神保健福祉法に基づく入院形態の区分と適応について理解できる。(3-7)
- (4) 主な精神疾患の主要症状、診断、治療について理解できる。(3-1~3-3)

・精神科疾患の診療に関する基本的な知識と技能を修得するために、指導医を中心とした医療チームの一員として能動的に実習に取り組む。(2-3、4-7)

・臨床実習の中で自ら情報を収集し、患者さんのニーズ・問題点の抽出、整理、解釈を行い(臨床的推論)、解決法(診断、治療)を立案するための基本的訓練を行う(problem based learning; PBL)。(5-1~5-3、6-1)

・診療チームの外来・病棟における日常診療に参加し、精神科の診察、検査、治療の実際を体験し、精神科診療のポートフォリオを作成する。(2-1~2-3、2-5~2-6、3-1~3-3、4-1~4-3、4-7)

- ・精神科疾患の診察、検査、治療の実際を体験し、精神科の定期カンファレンス・総回診に参加し、診断及び治療過程などを学ぶ。(2-1～2-3、2-5～2-6、2-4～2-5、3-1～3-3、4-1～4-3、4-5、4-7)
- ・カンファレンスなどを通して、テキスト上の知識を実体化し、受け持ち患者さんの精神疾患および個別特性を深く理解し、医療チーム内の情報共有を行う。(1-2、2-2、2-4～2-5、4-7)
- ・精神科の日常診療に参加して得た診察、検査、治療技能を実際の患者診療に適用できる。(4-1～4-3、4-6)

1) 病棟診療

CC1 学生は2週間配属され、指導医のもと病棟の担当患者さんを毎日回診して、診療内容をカルテに記載する。指導医の監督のもとに、医療面接、身体診察を行って、問題を抽出し、作業仮説を立てて EBM に基づいた検証を繰り返す(必要に応じて文献を検索する)。臨床推論に基づいて、診断、鑑別に必要な検査を立案し、担当患者さんの重症度、合併症を勘案して治療方針の選択を試みる。他科頼診券、ウイークリーサマリー、カルテへの記載(指導医の確認必須)、総回診の見学、患者・家族への説明への参加など、チームの一員として基本的な診療を実践的に学び、医師としてのプロフェッショナルリズムを身に付けるために必要な知識、学習プロセスを身に付ける。(1-1～1-2、2-1、2-3～2-5、4-1～4-5、4-7、5-1～5-3、6-1)

2) 外来診療

外来新患や再来患者の診察に陪席し、医療面接、身体診察を見学し、臨床推論に則った検査、治療立案を考える。診察患者の診断、状態像、病識などを理解し、入院形態を指導医とともに考え、入院時の告知や説明に陪席する。(3-2～3-3、3-7、4-1～4-3)

3) 各種検査や治療への参加

診療チームの一員として各種検査、治療に参加しながら、臨床推論・検査・治療の実際を経験し、検査成績の評価を自ら試み、記録する。(2-5、4-1～4-7)

3. 学修目標

上記1のねらい・概要を中心に実習を進める。本診療科で特に経験すべき精神疾患、各種検査手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態 臨床推論 (3-1～3-4)

- a. 統合失調症 b. うつ病 c. 双極性障害(躁うつ病)
- d. 症状精神病 e. 認知症 f. 物質使用障害
- g. 不安障害群と心的外傷及びストレス関連障害群
- h. 身体症状症及び関連症群、食行動障害及び摂食障害群 i. 睡眠-覚醒障害
- j. 解離性障害 k. パーソナリティ障害
- l. 神経発達障害群(知的能力障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動障害、運動障害群)

2) 基本的臨床手技 (1-1～1-2、2-1～2-3、4-1～4-6)

- (1) 医師患者関係の在り方を理解する。
- (2) 精神科面接法、精神的力動の基本について理解し、説明できる。
- (3) 修正型電気痙攣療法の適応、装着方法、判定ができる。
- (4) 精神科作業療法の作業内容、治療目的を説明できる。
- (5) 行動制限の種類、必要性などを理解し、診療録に正確に記載できる。
- (6) 診療録(カルテ)を作成する。
- (7) 各種診断書・入退院の届出・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査・治療手技 (4-1～4-5、2-5～2-6)

- (1) 症状評価尺度を実施し、結果を説明できる。
- (2) 神経学的所見や長谷川式簡易知能評価スケール(HDSR)、Mini-Mental State Examinaton(MMSE)をとり、カルテへの記載ができる。
- (3) 睡眠脳波(PSG)や睡眠潜時反復検査(MSLT)を含む脳波検査を見学し、結果を指導医と共に確認し診断及び治療立案

を行う。

(4) アクチグラフの結果を指導医と共に確認する。

(5) エックス線撮影、コンピュータ断層撮影 (CT)、磁気共鳴画像法 (MRI)、核医学検査を見学し、介助する。その結果を指導医と共に確認し、診断及び治療立案を行う。

(6) 心理検査結果を指導医や心理士と共に確認し、診断及び治療立案を行う。

(7) 腰椎穿刺を見学し、介助する。

4) プロフェッショナルリズム、医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (制度)、EBM について (1-1~1-2、2-1~2-7、3-5~3-7、4-4、4-7~4-8、5-1~5-3、5-5、6-1)

(1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント (見学)。

(2) 処遇困難な患者、急変患者・家族への説明 (見学)。

(3) 患者さんの生活環境 (家庭、職場、施設など) やアドヒアランスなどに配慮した診療計画を検討できる。

(4) 生活習慣に潜むリスクを列挙して、患者指導の在り方を考えられる。

(5) 緩和ケアのチームの一員として患者さんの精神的支援、意思決定支援、苦痛の緩和について理解する。

(6) 各種侵襲的な検査・治療時の安全性への配慮ができる。

(7) 自立支援制度、介護保険制度、障害者自立支援法、精神障害者保健福祉手帳、障害者差別解消法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、成年後見制度などを概説できる。(8) 行動制限について指定医からその必要性及び人権への配慮の仕方について学び、説明することができる。

(9) 各種診療ガイドラインを適宜参照し、活用できる。

(10) 文献から得られた情報の批判的吟味ができる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

4 年次精神科講義資料、診察実習時の資料 (神経疾患診察法)、OSCE クリニカルクラークシップガイドを常に参照できるようにすること。必要に応じて、診断・治療ガイドラインを参照、活用すること。

・標準精神医学 (尾崎紀夫 他編 医学書院)

・カプラン臨床精神医学テキスト (井上令一 監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル社)

・DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル (高橋三郎、尾崎紀夫 他訳 医学書院)

・ICD-10 精神及び行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン (融 道男 他訳 医学書院)

・医学専門雑誌、医学文献・活用を奨励する。

5. 成績評価の方法

レポート発表を行う。レポートは受け持ち患者さんについて指導医から指導を受けながら作成する。

レポート発表の内容を踏まえ、当該患者さんの現症、診断、治療方針等について試問を行う。実習中の服装、参加意欲、態度、理解度も含めて総合的に評価する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

・指定教科書は事前に提示するので、予習して受講すること。

・指定教科書に授業の重要なポイントを記載するなどして学修すると、講義後の復習に役立つ。

・担当教員の予定により、若干スケジュール等を変更する場合がある。

精神科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第1回	月曜日 [9:00-17:10] 副題 オリエンテーション・外来診察・病棟診察 担当 三島 和夫	<ul style="list-style-type: none"> ・9:00-9:30: オリエンテーション(外来7番診察室): 指導医と担当する患者の紹介と把握、レポートの課題を決定。 ※第1週月曜が祝日で休みの場合、オリエンテーション・講義(三島教授)は第1週火曜に行います。 ・9:30-午前: 新患診察及び再来診察 ・午後: 病棟実習(指導医との打合わせは事前にメールで確認する) 小講義【藤原 大: 統合失調症】(Web class)
第2回	火曜日 [9:00-17:10] 副題 小講義・外来診察・カンファレンス オリエンテーション予備日 担当 三島 和夫	<ul style="list-style-type: none"> ・9:00-午前: 新患診察及び再来診察(指導医の指示により外来へ移動) ・13:30-: 病棟カンファレンス室 カンファレンス、教授回診(第二病棟3階カンファレンスルームもしくは第二病棟5階カンファレンスルーム※都度、指導医に確認すること)
第3回	水曜日 [9:00-17:10] 副題 小講義・外来診察・病棟診察 担当 小笠原 正弥	<ul style="list-style-type: none"> ・9:00-9:30: 小講義【小笠原 正弥: MSLT 説明】(外来7番診察室) ・9:30-午前: 新患診察及び再来診察 ・11:30-: MSLT 見学(脳波室) ・14:00-: m-ECT 見学(手術室)
第4回	木曜日 [9:00-17:10] 副題 小講義・外来診察・病棟診察 担当 馬越 秋瀬	<ul style="list-style-type: none"> ・9:00-9:30: 小講義【馬越 秋瀬: 児童精神医学】(外来7番診察室) ・9:30-午前: 新患診察及び再来診察 ・14:00-: m-ECT 見学(手術室)
第5回	金曜日 [9:00-17:10] 副題 小講義・外来診察・病棟診察 担当 石川 勇仁	<ul style="list-style-type: none"> ・9:00-9:30: 小講義【石川 勇仁: 認知症】(外来7番診察室) ・9:30-午前: 新患診察及び再来診察 ・14:20-17:10: 医学医療総合講義(第二病棟2階多目的室)
第6回	月曜日 [9:00-17:10] 副題 小講義・外来診察・病棟診察 担当 三島 和夫	<ul style="list-style-type: none"> ・9:00-9:30: 小講義【三島 和夫: 医師患者関係】(外来7番診察室) ・9:30-午前: 新患診察及び再来診察 ・14:00-: 小講義【細谷 倫子: 精神科救急・リエゾン】(Web class)
第7回	火曜日 [9:00-17:10] 副題 小講義・外来診察・カンファレンス 担当 藤原 大	<ul style="list-style-type: none"> ・9:00-9:30: 小講義【加藤 信之: 精神保健福祉法】(外来7番診察室) ・9:30-午前: 新患診察及び再来診察 ・13:30-: 病棟カンファレンス室 カンファレンス、教授回診(第二病棟3階カンファレンスルームもしくは第二病棟5階カンファレンスルーム※都度、指導医に確認すること)
第8回	水曜日 [9:00-17:10] 副題 小講義・外来診察・病棟診察 担当 伊藤 結生	<ul style="list-style-type: none"> ・9:00-午前: 新患診察及び再来診察 ・11:30-: MSLT 見学予備日(脳波室) ・14:00-: m-ECT 見学(手術室) 終了後、小講義【伊藤 結生: 気分障害】
第9回	木曜日 [9:00-17:10] 副題 小講義・外来診察・病棟診察 担当 今西 彩	<ul style="list-style-type: none"> ・9:00-9:30: 小講義【今西 彩: 睡眠-覚醒障害】(外来7番診察室) ・9:30-午前: 新患診察及び再来診察 ・午後: 小講義【竹島 正浩: 器質性精神障害、せん妄】(Web class)
第10回	金曜日 [9:00-17:10] 副題 レポート発表 担当 三島 和夫	<ul style="list-style-type: none"> ・9:00-12:00: レポート発表(医局2) ・14:20-17:10: 医学医療総合講義(第二病棟2階多目的室)

分 類：臨床医学V(CC1)

授業科目名：消化器外科学(外科学1) 臨床実習(CC1:Gastroenterological Surgery) -消化器外科臨床実習1-

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-07

1. 主任教員

有田淳一(教授、消化器外科、6123、オフィスアワー：9:00-17:00)

2. 担当教員

有田淳一(教授、消化器外科、6123、オフィスアワー：9:00-17:00)

打波宇(准教授、消化器外科、6125、オフィスアワー：9:00-17:00)

渡辺剛(講師、消化器外科、6215、オフィスアワー：9:00-17:00)

阿部ゆき(助教、消化器外科、6215、オフィスアワー：9:00-17:00)

中川康彦(助教、消化器外科、6215、オフィスアワー：9:00-17:00)

3. 授業のねらい及び概要(学修目標)

1, ねらい(大まかな全体目標)

診療チームの一員として、入院中の患者さんへの診療を通して、将来どのような分野の医師にも必要な外科領域、特に消化器外科を中心とした症候や病態の推論、鑑別診断、検査・治療方針決定などの実践力を習得し、消化器外科医のイメージを獲得する。また、関連する医療倫理、医療安全、EBMについて実践的に学ぶ。

2, 概要(大まかな学修目標)

・診療チームの一員として入院患者を担当し、日々の回診、総回診、カンファレンスでの症例提示を行う。(1-1~1-2、4-1~4-7)

・ガイドラインを有効に活用する習慣、診療から生じる疑問に対して仮説を立て、それを検証する習慣を身に着ける。(3-3、4-4、5-1~5-3、6-1~6-2)

・患者さんの年齢、生活背景、既往症などを考慮して、病状、診断に必要な検査、最適な治療を考えることができる。(1-2、4-1~4-7)

1) 病棟実習

各学生は診療チームに2週間配属され、指導医のもとで数人の患者さんを担当する。指導医の監督のもとに、毎日、担当患者さんの回診を行い、医療面接、身体診察、検査・治療方針の提案・議論、診療録の記載、カンファレンスでのプレゼンテーションなど、診療チームの一員として実践的な診療を学ぶ。

2) 各種検査・手術等の実習

担当する患者さんの検査や手術に参加し、どのように実際の診療・治療が行われているのかを学ぶ。

3, 学修目標・項目

1) 症候・病態 臨床推論(3-1~3-4)

(1) 黄疸、(2) 腹痛、(3) 悪心・嘔吐、(4) 食思不振、(5) 便秘・下痢、(6) 腹部膨隆・膨満・腫瘤

2) 基本的臨床手技(4-1~4-7)

(1) 体位変換、移送ができる

(2) 胃管の挿入と抜去ができる

(3) 尿道カテーテルの挿入と抜去ができる

(4) 全身麻酔手術を見学し、介助ができる

(5) 診療録を作成する

- 3) 検査手技 (4-2~4-4)
 - (1) 腹部超音波検査を実施できる
 - (2) 各種検査の適応や手技について説明でき、結果の解釈が行える

- 4) 外科手技 (4-6)
 - (1) 無菌操作を実施できる
 - (2) 手術や処置のために手洗いができる
 - (3) 手術室におけるガウンテクニックができる
 - (4) 基本的な縫合と抜糸ができる
 - (5) 創の消毒や包交ができる
 - (6) 手術や、術前・術中・術後管理を見学し、介助する

- 5) リサーチマインド・問題解決能力 (5-1~5-3、6-1~6-2)
 - (1) 担当する患者さんの医学的課題を診療チーム内で共有・理解し、解決する能力を獲得する
 - (2) 振り返りによって、自己省察能力を高める

- 6) 医療行動科学、医療倫理、医療安全 (1-1~1-2、2-1~2-5、3-5~3-6)
 - (1) 各種の検査や手術のインフォームドコンセントを理解する
 - (2) 患者や家族への対応について考えることができる
 - (3) 医師としてのプロフェッショナリズム、医の倫理について理解する
 - (4) 各種の検査や手術などの安全管理に関して説明できる

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

各担当教官と相談すること

5. 成績評価の方法

態度 (実習中の学習態度)

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

クリニカルクラークシップガイドの必修事項を確認してくること

毎日、振り返りを行い、疑問点は学習すること

期間中に1回のセミナーを予定しています

消化器外科学（外科学1）臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第1回 副題 担当	月曜日 [8:30-17:00] 臨床実習1 各指導教官	8:30- オリエンテーション 南臨床棟3階医局 病棟回診・手術への参加
第2回 副題 担当	火曜日 [8:30-17:00] 臨床実習1 各指導教官	病棟回診・手術・検査への参加 16:00- 外来症例カンファレンス 17:00- 消化器合同カンファレンス（カンサーボード）（自由参加）
第3回 副題 担当	水曜日 [8:30-17:00] 臨床実習1 各指導教官	病棟回診・手術への参加
第4回 副題 担当	木曜日 [8:00-17:00] 臨床実習1 各指導教官	8:00- 病棟カンファレンス、術前検討会 病棟回診・検査への参加
第5回 副題 担当	金曜日 [8:30-14:00] 臨床実習1 各指導教官	病棟回診・手術への参加
第6回 副題 担当	月曜日 [8:30-17:00] 臨床実習1 各指導教官	病棟回診・手術への参加
第7回 副題 担当	火曜日 [8:30-17:00] 臨床実習1 各指導教官	病棟回診・手術・検査への参加 16:00- 外来症例カンファレンス 17:00- 消化器合同カンファレンス（カンサーボード）（自由参加）
第8回 副題 担当	水曜日 [8:30-17:00] 臨床実習1 各指導教官	病棟回診・手術への参加
第9回 副題 担当	木曜日 [8:00-17:00] 臨床実習1 各指導教官	8:00- 病棟カンファレンス、術前検討会 病棟回診・検査への参加
第10回 副題 担当	金曜日 [8:30-14:00] 臨床実習1 各指導教官	病棟回診・手術への参加

分類：臨床医学Ⅴ(CC1)
授業科目名：胸部外科学（外科学2）臨床実習（Thoracic Surgery）
対象学年：5年次必修
時間割コード：71643002-08

1. 主任教員

南谷佳弘（教授、胸部外科学講座、6127）

2. 担当教員

南谷佳弘（教授、胸部外科学講座、6127）

今井一博（准教授、胸部外科学講座、6132）

佐藤雄亮（病院准教授、胸部外科学講座、6132）

寺田かおり（講師、乳腺・内分泌外科、6132）

高嶋祉之具（講師、胸部外科学講座、6132）

脇田晃行（医学部講師、胸部外科学講座、6132）

高橋絵梨子（助教、乳腺・内分泌外科、6132）

長岐雄志（助教、食道外科、6132）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

1. 授業の概要及びねらい

診療参加型臨床実習を通して、医師としての知識、思考法、技能、態度の基本を学ぶ。

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

1) 患者に対する適切な態度がとれる。

2) 身体所見、カルテ記載が自分でできる。

3) 診断にいたる倫理的思考、それに基づく適切な治療法を述べることができる。

3. 医療行動科学、医療倫理、医療安全、EBM、医療法(医療制度)について

関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療法(医療制度)について説明できる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

初日のオリエンテーションで、実習日誌・レポートのプリントを配布します。

標準外科学（医学書院）、他

5. 成績評価の方法

呼吸器、食道、乳腺・内分泌の各グループ毎に症例を割り当て、

第2週の木曜の午後より症例検討発表会を行い、その内容や取組みを評価する。

最終日にレポート・日誌を提出する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

初日のオリエンテーションで、3つの領域グループの配属を決定し、スケジュールを説明します。

胸部外科学（外科学2）臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 スタッフ全員	8:30～ オリエンテーション (臨床研究棟南 3F 胸部外科学講座医局) 病棟実習 手術室実習(見学、手洗い、介助等) 症例プレゼンテーションの準備・練習 ※実習内容の連絡(手術の入室、変更や集合など)は医局または担当教員より通知します。
第2回 火曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 スタッフ全員	8:00 集合、8:30～ 総回診、カンファレンス 病棟実習 18:00～ 食道がんカンサ―ボード(放射線科カンファレンス室)
第3回 水曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 スタッフ全員	病棟実習 手術室実習(見学、手洗い、介助等) 呼吸器合同カンファレンス
第4回 木曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 スタッフ全員	病棟回診・実習 検査見学
第5回 金曜日 [8:30-13:00] 副題 担当 スタッフ全員	病棟回診・実習 手術室実習(見学、手洗い、介助等) ※14:20～医学医療総合講義
第6回 月曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 スタッフ全員	8:30～ オリエンテーション (臨床研究棟南 3F 胸部外科学講座医局) 病棟実習 手術室実習(見学、手洗い、介助等) 症例プレゼンテーションの準備・練習
第7回 火曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 スタッフ全員	8:00 集合、8:30～ 総回診、カンファレンス 病棟実習 18:00～ 食道がんカンサ―ボード(放射線科カンファレンス室)
第8回 水曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 スタッフ全員	病棟実習 手術室実習(見学、手洗い、介助等) 呼吸器合同カンファレンス
第9回 木曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 スタッフ全員	病棟回診・実習 検査見学 ※午後～:症例発表(臨床棟 3F 外科カンファレンスルーム)
第10回 金曜日 [8:30-13:00] 副題 担当 スタッフ全員	病棟回診・実習 手術室実習(見学、手洗い、介助等) ※14:20～医学医療総合講義 最後にブリーフレポートを医局へ提出

分類：臨床医学Ⅴ(CC1)

授業科目名：心臓血管外科学 臨床実習（Clinical Clerkship I Cardiovascular surgery）

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-09

1. 主任教員

角 浜 孝 行（准教授、心臓血管外科、6135）

2. 担当教員

角 浜 孝 行（准教授、心臓血管外科、6135）

高 木 大 地（講師、心臓血管外科、6135）

山 浦 玄 武（助教、心臓血管外科、6135）

桐 生 健 太 郎（助教、心臓血管外科、6135）

和 田 卓 也（助教、心臓血管外科、6135）

板 垣 吉 典（医員、心臓血管外科、6135）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

1. 授業の概要及びねらい

チームの一員として、手術や入院患者さんへの診療を通して、将来どの分野の医師にも必要な外科領域、特に心臓血管外科を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定などの実践力を習得する。また、関連する医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法（医療制度）、EBMについて実践的に学ぶ。

2. 概要

・心臓血管外科の診療に関する基本的な知識・技能を習得するために、指導医を中心とした医療チームの一員として能動的に実習に取り組む。

・集中治療室の重症患者への診療を通し、自ら情報收拾を行い、問題点を抽出、整理、解釈を行い（臨床推論）、解決法（診断、治療）を立案するための訓練を行う。

1) 病棟診療

各学生は、各診療チームに1週間配属され、指導医のもと1名の病棟（主に集中治療室）の術後患者さんを担当する。

指導医の指導の下に、日々、担当患者さんの回診を行い、医療面接・身体診察による課題抽出、臨床推論、診療内容のカルテへの記載を通して、チームの一員として基本的な診療を実践的に学ぶ。

特に、術後患者の診療を通して、心臓血管外科術後急性期の呼吸・循環のダイナミクスを学ぶ。

2) 術前検討会におけるプレゼンテーション

実習班で一人の手術患者を担当する。術前検査、手術適応・術式判断、手術見学、術後管理について、診療チームの一員として、実践的に学ぶ。

3) 臨床の場で疑問を発生し、調べ、プレゼンする

1週間の臨床実習で、新たな浮かんだ疑問の一つを学習し、口頭試問にてアウトプットを行う。

3. 学修目標

上記の概要・ねらいを中心に実習を進めるが、本診療科で特に経験する症候・病態、各種手技などの内容を下記に示す。

1) 症候・病態 臨床推論(4-1 4-7)

(1) 術後循環不全・術後呼吸不全

(2) ショック

(3) 浮腫

(4) 胸水

(5) 胸痛

(6) 呼吸困難

- (7) 動悸
- 2) 基本的臨床手技
 - (1) 診療録(カルテ)を記載する(4-5)
 - (2) ICUフォーマットを理解し、実際に使用する(4-1,4-5)
 - (3) 指導医師による診療録のチェックを通し、医師とのディスカッションを行う(2-1,2,3,4,5., 4-7)
- 3) 手術前検討・外科手技
 - (1) 術前症例検討を通し、心臓超音波検査・胸腹部骨盤CTの読影を学ぶ。
 - (2) 患者の術前状態を考慮し、日本循環器学会ガイドラインを用いて手術適応を判断する。(1-2, 3-3, 4-4, 5-2)
 - (3) カンファレンスで術前プレゼンテーションを行う。(3-5)
 - (4) 上記をチーム内で情報共有・ディスカッションを行うことを通して進める。(2-1,2,3,4,5., 4-7)
- 4) 自己研鑽・生涯学習力
 - (1) 自ら疑問を発生し、学習し、それを班員と共有する。(1-1, 5-1,6-1,6-2)
 - (2) 自己研鑽の姿勢を身につける。(6-1)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

心臓手術の周術期管理(メディカル・サイエンス・インターナショナル)
日本循環器学会ガイドライン

5. 成績評価の方法

- (1) カンファレンスのプレゼンテーションを通してコミュニケーション能力・医学分野に関する知識と応用力・実践的臨床能力を評価する
 - (2) 受け持ち患者の診察・カルテ記載のチェックを毎日行い、最終日のクロージングのディスカッションを通して評価する
 - (3) 口頭試問(自ら疑問を発生し、回答を見出したことを共有してもらう)を通して、医師の職責と自己研鑽力を評価する
- ※ 出席状況・CC-EPOC入力状況も加味する

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ※ 希望により当直医とともに心臓大血管手術後の術後管理を見学することができる。
- ※ 毎日診療録を記載し、担当医とdiscussionをし、記載内容についてフィードバックを受け、必要に応じて追記・訂正を行って承認を得る。

心臓血管外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [8:15-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当 高木大地	08:15 朝カンファレンス (医局カンファレンス室) 09:00 実習オリエンテーション 10:00 講義・実習：画像診断 CT と心臓超音波検査 (担当：) 13:00 講義：カルテの書き方 (担当：板垣) 講義外の時間は患者診療・カルテ記載・術前プレゼンの準備を行う
第 2 回 火曜日 [8:15-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:15 朝カンファレンス 09:00 講義・実習：術後管理 循環 (担当：桐生) ※ 血液ガス分析の方法を 紹介・読み方を概説 講義外の時間は患者診療・カルテ記載・術前プレゼンの準備を行う
第 3 回 水曜日 [8:15-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:15 朝カンファレンス 講義外の時間は患者診療・カルテ記載・術前プレゼンの準備を行う
第 4 回 木曜日 [8:15-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:15 朝カンファレンス：担当患者症例プレゼンテーション 10:00～ 手術見学，患者診療 手術室で、患者移送の介助を行い、ICU で心電図検査・血液ガス分析を行う
第 5 回 金曜日 [8:15-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当 高木大地	08:15 朝カンファレンス 09:00 クロージング 講義外の時間は患者診療・カルテ記載・術前プレゼンの準備を行う 14:20～ 医学医療総合講義

分類：臨床医学V(CC1)

授業科目名：脳神経外科学 臨床実習 (Clinical training of Neurosurgery:Basic)

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-10

1. 主任教員

清水宏明 (教授、脳神経外科学講座、6140、オフィスアワー：8:00-13:00)

2. 担当教員

清水宏明 (教授、脳神経外科学講座、6140、オフィスアワー：8:00-13:00)

高橋和孝 (講師、脳神経外科学講座)

小野隆裕 (助教、脳神経外科学講座)

高橋佑介 (助教、脳神経外科学講座)

工藤絵里奈 (助教、脳神経外科学講座)

富樫俊太郎 (助教、脳神経外科学講座)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 一般目標 (GIO)

講義で学んだ知識の理解度を臨床実習を通して更に深める。(1-1～1-2, 3-1～3-3, 4-1～4-3, 4-5～4-6)

2. 到達目標 (SBOs)

病歴、神経学的所見が正確に取れ、神経放射線学読影が正確にでき、脳神経外科の代表的疾患について説明できる。(2-4, 3-1～3-3, 4-1～4-2, 4-5～4-6)

関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療法 (医療制度) について説明できる。(1-1～1-2, 3-3, 3-5～3-7, 4-4)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

児玉南海雄 監修：標準脳神経外科学 (医学書院)

太田 富雄 編集：脳神経外科学 (金芳堂)

田崎 義昭 著：ベッドサイドの神経の診かた (南山堂)

山浦 昌 編集：脳神経外科手術アトラス (医学書院)

Albert L. Rhoton 著：RHOTON Cranial anatomy and surgical approaches 南江堂

宜保浩彦ら 編集：臨床のための脳局所解剖学

5. 成績評価の方法

評価表 (出席、知識、コミュニケーション、病歴聴取、神経診察、カルテ記載、症例プレゼンテーション、手術・治療参加、自己学習) に基づき、評価を行う。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

実習開始前に配布する資料がある。各班の代表者は前週のうちに、当科の学生担当に連絡して資料を受け取ること。

実習初日は8:20までに第1病棟4Fカンファレンスルームに集合すること。

学生の集合を待ってカンファレンスを始めることはしない。

脳神経外科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 1 回	月曜日 [8:20-17:00] 副題 脳神経外科臨床実習 担当 各指導教官	カンファレンス 手術・病棟実習 神経内科合同カンファレンス
第 2 回	火曜日 [7:45-17:00] 副題 脳神経外科臨床実習 担当 各指導教官	カルテ回診 術後カンファレンス 手術・血管内治療・病棟実習 (脳神経セミナー 月 1 回開催)
第 3 回	水曜日 [8:00-17:00] 副題 脳神経外科臨床実習 担当 各指導教官	血管撮影読影会 手術・病棟実習
第 4 回	木曜日 [8:00-17:00] 副題 脳神経外科臨床実習 担当 各指導教官	カルテ回診 術前カンファレンス 病棟実習・血管内治療 実習報告会
第 5 回	金曜日 [8:20-17:00] 副題 脳神経外科臨床実習 担当 各指導教官	午前：病棟実習・(実習報告会予備日) 午後：医学医療総合講義

分 類：臨床医学V(CC1)

授業科目名：整形外科学／リハビリテーション科 臨床実習 (Orthopedics・Rehabilitation Medicine)

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-11

1. 主任教員

宮腰尚久 (教授、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

2. 担当教員

宮腰尚久 (教授、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

本郷道生 (教授、保健学科 理学療法学専攻、6532)

粕川雄司 (准教授、リハビリテーション科、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

野坂光司 (講師、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

永澤博幸 (医学部講師、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

齊藤英知 (助教、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

木島泰明 (助教、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

白幡毅士 (助教、高度救命救急センター、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

土江博幸 (助教、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

工藤大輔 (助教、リハビリテーション科、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

木村竜太 (助教、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9：00-17：00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

【授業のねらい】

医師として、整形外科関連疾患や外傷に適切に対応できるように、整形外科の基本的知識、態度、そして技能を身につける。授業では主として基本的知識および基本的臨床手技を身につけることに主眼をおく。また、リハビリテーション医療の実際と種々のテクノロジーの学習を通して全人的アプローチを理解し、興味を深める。また、関連するプロフェッショナルリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法(制度)、EBMについて学ぶ。

【授業の概要】

医学教育モデル・コア・カリキュラムで示された以下の項目を中心に、病棟実習、外来実習、手術実習、講義を通じて学習する。

A-1-1 医の倫理と生命倫理

・臨床倫理や生と死に関わる倫理的問題を概説できる。(1-1)

A-1-2 患者中心の視点

・インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの意義と必要性を説明できる。(1-2)

A-1-3 医師としての責務と裁量権

・診療参加型臨床実習において患者やその家族と信頼関係を築くことができる。(1-1,1-2,2-1～2-7)

A-2-1 課題探求・解決能力

・課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。(5-1～5-5)

A-2-2 学修の在り方

・講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(5-1～5.5, 6-1,6-2)

A-3-1 全人的実践的能力

・病歴を適切に聴取するとともに患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を行える。(2-1～2-8, 4-1～4-5)

A-4-1 コミュニケーション

・コミュニケーションを通じて良好な人間関係を気づくことができる。(2-1～2-8,4-7)

A-4-2 患者と医師の関係

- ・患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取り扱いができる。(1-1,1-2,3-5,4-5)
- A-5-1 患者中心のチーム医療
 - ・医療チームの構成や各構成員の役割分担と連携・責任体制を説明し、チームの一員として参加できる。(2-5,2-6,3-6,4-7)
- A-6-1 安全性の確保
 - ・実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。(2-5,2-6,3-5,3-6,4-5,4-7)
- A-6-2 医療上の事故等への対処と予防
 - ・医療上の事故等と合併症の違いを説明できる。(2-5,2-6,3-5,3-6,4-7)
- A-6-3 医療従事者の健康と安全
 - ・標準予防策の必要性を説明し、実行できる。(3-4,3-5,4-4,4-6)

D-4-2 診断と検査の基本

- ・筋骨格系の病態に即した徒手検査を説明できる。(3-3,4-2)
- ・筋骨格系画像診断の適応を概説できる。(3-3,5-3)

D-4-3 症候

- ・運動麻痺・筋力低下 (3-2,4-2)
- ・関節痛・関節腫脹 (3-2,4-2)
- ・腰背部痛 (3-2,4-2)

D-4-4-(1) 疾患

- ・四肢・脊椎外傷の診断と初期治療を説明できる。(3-3,4-2,4-3,4-6)
- ・運動器疾患のリハビリテーションを概説できる。(3-3,3-4,4-3,4-4)

F-2-14 リハビリテーション

- ・リハビリテーションの概念と適応を説明できる。(3-3,3-7)
- ・リハビリテーション・チームの構成を理解し、医師の役割を説明できる。(4-7,4-8)
- ・理学療法、作業療法を概説できる。(3-3,3-7)

関連するプロフェッショナリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法(制度)、EBMについて説明できる。(1-1,1-2,2-1～2-8,3-6,4-8,5-1～5.5,6-1,6-2)

【授業の進め方】

1. 病棟実習

各自1～2例の症例検討を通じて上記の目標を達成する。

画像検査所見の検討、医療面接および身体診察を行い、文献的考察を加えて発表し、その後担当教員の指導を受ける。

診断過程や手術適応について考察するが、その際、参考書の受け売りにならないように注意すること。

実習期間中に当該症例を指導医とともに診察を行うこと。必要に応じてそれを申し出ること。

2. 外来実習

医療面接および身体診察や画像所見読影の基本、リハビリテーションの実際などを実習する。指導医、療法士の患者への対応を観察し、接遇の仕方を学ぶ。

3. 手術実習

手術に参画し、局所解剖の理解を深めるとともに、指導医のもとで Student Doctor に認められた医行為(簡単な縫合など)を行い、基本的臨床手技の習得に努める。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

【整形外科】

標準整形外科学 (医学書院)

TEXT 整形外科学 (南山堂)

新整形外科学・外傷学（文光堂）
整形外科 MOOK シリーズ（金原出版）
新図説臨床整形外科講座（メジカルビュー社）
図説整形外科診断治療講座（メジカルビュー社）
最新整形外科学体系（中山書店）

【リハビリテーション科】

リハビリテーション医学・医療コアテキスト第2版（公益社団法人日本リハビリテーション医学会 監修，医学書院発行，
定価 4,400 円（本体 4,000 円+税 10 %）
整形外科 術後理学療法プログラム 第3版（メジカルビュー社）

5. 成績評価の方法

臨床実習に無断欠席した者、レポートを提出しない者は臨床実習を完了したことはない。
レポート提出は、Word 形式または PDF 形式の添付ファイルとしてメールにて送信する。
提出先メールアドレス：seikei@doc.med.akita-u.ac.jp

CC-EPOC による成績評価を行う。評価項目は、実習前の学習態度、医師・患者関係、時間管理・服装・態度、職種間の連携に関するスキル、診療態度・学習意欲に関して、診療・スキルへの姿勢、および総合評価である。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

【集合場所】

- ★：1 病棟 8 階カンファレンスルーム
- *：整形外科外来
- ◇：北臨床棟 2 階カンファレンスルーム
- ※：中央放射線部透視室
- ：リハビリテーション科外来

【その他注意事項】

1. 時間厳守

月曜日 朝 8 時 00 分：北臨床棟 2 階カンファレンスルームに集合
火・水・木・金曜日 朝 8 時 30 分：1 病棟 8 階カンファレンスルームに集合
症例検討の準備もそれまでに終了のこと。

2. レポート

担当した症例のうち 1 症例につきレポート（所定のレポート用紙にまとめる）を作成し、実習終了後 2 週までにメールにて提出すること。

3. 臨床現場における服装に考慮すること。

整形外科学／リハビリテーション科 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 オリエンテーション、病棟実習、総 回診、抄読会 担当 宮腰・本郷・粕川・野坂・永澤・土江	【朝8時00分 北臨床棟2階カンファレンスルームに集合】 ◇症例検討会 ◇オリエンテーション ◇講義：骨折 病棟実習/外来実習 【午後】 ★術前術後カンファランス ★総回診 ★抄読会
第2回 火曜日 [8:30-17:00] 副題 ミニ講義、病棟実習、手術実習、外 来実習 担当 本郷・粕川・野坂・齊藤・白幡	【朝8時30分 1病棟8階カンファレンスルームに集合】 ★講義：骨・関節の単純レントゲン写真の見方 病棟実習/外来実習/手術実習 【午後】 ○リハビリテーション実習 外来実習/手術実習
第3回 水曜日 [8:30-17:00] 副題 ミニ講義、病棟実習、外来実習 担当 宮腰・永澤・白幡・工藤・木村	【朝8時30分 1病棟8階カンファレンスルームに集合】 ★症例発表 ◇糸結び実習 病棟実習/外来実習 【午後】 ★症例発表の準備 ★講義：手外科疾患 ※脊椎検査
第4回 木曜日 [8:30-17:00] 副題 ミニ講義、病棟実習、手術実習、外 来実習 担当 宮腰・野坂・齊藤・木島	【朝8時30分 1病棟8階カンファレンスルームに集合】 ★症例発表 ★講義：骨代謝 病棟実習/外来実習/手術実習 【午後】 外来実習/手術実習 ★講義：股関節疾患
第5回 金曜日 [8:30-12:00] 副題 ミニ講義、病棟実習、手術実習、外 来実習 担当 永澤・木島	【朝8時30分 1病棟8階カンファレンスルームに集合】 ★症例発表 ★講義：スポーツ傷害 病棟実習/外来実習/手術実習 *ギプス巻き実習
第6回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 ミニ講義、病棟実習、外来実習、総 回診、抄読会 担当 宮腰・本郷・粕川・野坂・永澤・工藤	【朝8時00分 1病棟8階カンファレンスルームに集合】 ★症例検討会 ★症例発表 ★講義：脊髄損傷 病棟実習/外来実習 【午後】 ★総回診 ★抄読会
第7回 火曜日 [8:30-17:00] 副題 ミニ講義、病棟実習、手術見学、外 来実習 担当 本郷・粕川・野坂・齊藤・白幡	【朝8時30分 1病棟8階カンファレンスルームに集合】 ★症例発表 病棟実習/外来実習/手術実習 【午後】 ○リハビリテーション実習 外来実習/手術実習
第8回 水曜日 [8:30-17:00] 副題 ミニ講義、病棟実習、外来実習 担当 永澤・白幡・工藤・木村	【朝8時30分 1病棟8階カンファレンスルームに集合】 ★症例発表 ★講義：腕神経叢損傷 病棟実習/外来実習 【午後】 ★講義：整形外科における皮弁 ※脊椎検査

整形外科学／リハビリテーション科 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第9回	木曜日 [8:30-17:00] 副題 ミニ講義、病棟実習、手術見学、外来実習 担当 野坂・齋藤・木島	【朝 8 時 30 分 1 病棟 8 階カンファレンスルームに集合】 ★症例発表 ★講義：重度四肢外傷 病棟実習/外来実習/手術実習 【午後】 外来実習/手術実習 ★講義：下肢機能再建
第10回	金曜日 [8:30-12:00] 副題 ミニ講義、病棟実習、手術見学、外来実習 担当 永澤・木島	【朝 8 時 30 分 1 病棟 8 階カンファレンスルームに集合】 ★症例発表 ★講義：小児肘関節外傷 病棟実習/外来実習/手術実習

分類：臨床医学Ⅴ(CC1)

授業科目名：皮膚科学・形成外科学 臨床実習 (Dermatology・Plastic surgery) -皮膚科治療学の基本-

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-12

1. 主任教員

河野 通浩 (教授、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

2. 担当教員

河野 通浩 (教授、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

手塚 崇文 (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

野口 奈津子 (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

加藤 真紀 (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

山川 岳洋 (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

能登 舞 (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

豊島 あや (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

●授業の概要及びねらい

午前：病棟・外来実習で様々な皮膚疾患に接すること。実習を通して実践的な医療倫理や医療安全、医療制度を学ぶ。【1-1)、1-2)、2-1) から8)、3-1) から7)、4-1) から8)、5-1) から5)】

午後：テーマごとの講義を受けること。各テーマでの診断・治療についてのEBMを学ぶ。【3-1) から7)、4-1) から8)、5-1) から5)】

●講義内容・具体的到達目標・学修目標

【講義内容】

1. 皮疹の診かた・記載法, 2. 外用治療について, 3. 一般的な皮膚疾患, 4. アトピー性皮膚炎・蕁麻疹, 5. 乾癬, 6. 外科的治療, 7. 遺伝性皮膚疾患のテーマに分けて講義および実習を行う。【3-1) から7)、4-1) から8)、5-1) から5)】

【具体的到達目標・学修目標】

皮疹を正確に把握し、記録し、診断に至るまでの過程を考えるようにできることが到達目標である。【3-1) から7)、4-1) から8)、5-1) から5)】

※なお、本科目は実務経験のある教員による授業科目である。

4. 教科書・参考書

- ・あたらしい皮膚科学 (清水 宏, 中山書店)
- ・シンプル皮膚科学 (眞鍋 求/梅林芳弘, 南江堂)
- ・皮膚外科学 (日本皮膚外科学会)

5. 成績評価の方法

講義：「出席」

実習：「態度、口頭試問、出席」

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ・外来実習では様々な皮膚疾患を診ることになるため、指定教科書で調べながら実習を行うことが望ましい。
- ・指定教科書に、授業の重要ポイントを記載して学習すると講義後の復習に役立つ。
- ・担当教員の予定により、若干変更する場合がある。

皮膚科学・形成外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9時～ オリエンテーション(皮膚科医局)【2-5】 10時～ 病棟・外来実習(4F・皮膚科病棟、3F・皮膚科外来)【2-1)、2-7)、4-1)から8)、5-1)から5】 13時～ 手術見学(3F・皮膚科外来)【4-6】 14時～ クルズ(3F・皮膚科外来カンファ:豊島)【3-1)から7)、4-1)から8)、5-1)から5】 15時～ クルズ(3F・皮膚科外来、皮膚科外来カンファ:山川)【3-1)から7)、4-1)から8)、5-1)から5】
第2回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9時～ 病棟・外来実習(4F・皮膚科病棟、3F・皮膚科外来)【2-1)、2-7)、4-1)から8)、5-1)から5】 15時～ 病棟カンファレンス・教授回診(4F・皮膚科病棟)【4-5】
第3回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9時～ 病棟・外来実習(4F・皮膚科病棟、3F・皮膚科外来)【2-1)、2-7)、4-1)から8)、5-1)から5】 14時～ クルズ(臨床研究棟4F・皮膚科図書室:加藤)【3-1)から7)、4-1)から8)、5-1)から5】 15時～ 形成外科実習(3F・皮膚科外来、担当:手塚)【4-6】
第4回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9時～ 手術(手術室)【4-6】
第5回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9時～ 病棟・外来実習(4F・皮膚科病棟、3F・皮膚科外来)【2-1)、2-7)、4-1)から8)、5-1)から5】 13:20～ クルズ(臨床研究棟4F・皮膚科図書室、担当:河野)【3-1)から7)、4-1)から8)、5-1)から5】 (14:20～ 医学医療総合講義が予定されています。)

分類：臨床医学V(CC1)
授業科目名：腎泌尿器科学 臨床実習 (Clinical Practice of Urology)
対象学年：5年次必修
時間割コード：71643002-13

1. 主任教員

羽 瀧 友 則 (教授、腎泌尿器科学講座、6154、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

2. 担当教員

羽 瀧 友 則 (教授、腎泌尿器科学講座、6154、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

成田伸太郎 (准教授、腎泌尿器科学講座、6155、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

齋 藤 満 (准教授、血液浄化療法部、6435、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

沼 倉 一 幸 (講師、腎泌尿器科学講座、6460、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

奈 良 健 平 (助教、腎泌尿器科学講座、3404、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

山 本 竜 平 (助教、腎泌尿器科学講座、3404、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

小 林 瑞 貴 (助教、腎泌尿器科学講座、3404、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 診療参加型臨床実習 CC1 の概要・ねらい

チームの一員として病棟や外来患者さんへの診療を通して、将来どのような分野の医師にも必要な泌尿器科領域を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査、治療方針決定等の実践力を修得する。

1) 病棟診療

各学生は各診療チームに1～2週間配属され、指導医のもと数名の病棟患者さんを担当する。指導医の監督の下に、日々、病棟担当患者さんの回診を行い、医療面接、身体診察による課題抽出・文献検索による臨床推論、検査・治療方針の提案、日々の診療内容や他科頼診券、ウィークリーサマリー、紹介状などカルテへの記載(指導医の確認必須)、カンファレンス時等の各種プレゼンテーション、患者・家族への説明への参加など、チームの一員としてEBMに基づいた基本的な診療を実践的に学ぶ。

2) 外来診察、各種検査、手術などの治療への参加

このような病棟の担当患者診療の間には、外来の新患、再来患者さんの診療や、各種の検査・治療に参加しながら、診療チームの一員として臨床推論・検査・治療の過程を実践的に学ぶ。

2. 学修目標

- ・腎・尿路系の構造と機能を理解し、主な腎・尿路系疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。
- ・生殖系の構造と機能を理解し、生殖器に問題を有する患者の診断と治療に関する知識を学ぶ。
- ・副腎の内分泌・代謝系の構成と機能を理解し、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

また、上記1の概要・ねらいを中心に実習を進めるが、本診療科で特に経験保証する症候・病態、各種手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態・臨床推論 (3-1～3-7, 4-1～4-8)

- ・症候

(1) 脱水 (2) 浮腫 (3) 血尿・タンパク尿 (4) 尿量・排尿の異常 (5) 腹痛 (6) 腹部膨隆(腹水を含む)・膨満・腫瘍

- ・病態・臨床推論

(1) 腎・尿路系の位置・形態と血管分布・神経支配を説明できる。

(2) 腎で産生される又は腎に作用するホルモン・血管作動性物質(エリスロポエチン、ビタミンD、レニン、アンギオテンシンII、アルドステロン)の作用を説明できる。

(3) 蓄排尿の機序を説明できる。

(4) 腎・尿路系の画像診断の適応と異常所見を概説できる。

- (5) 糸球体濾過量（実測、推算）を含む腎機能検査法を概説できる。
- (6) 腎生検の適応と禁忌を説明できる。
- (7) 尿流動態検査を説明できる。
- (8) 高・低 K 血症（原因疾患、症候、治療）を概説できる。
- (9) 高・低 Ca 血症（原因疾患、症候、治療）を概説できる。
- (10) アシドーシス・アルカローシス（代謝性・呼吸性）の定義、病態生理と診断を説明できる。
- (11) アシドーシス・アルカローシス（代謝性・呼吸性）の治療を概説できる。
- (12) 急性腎不全（急性腎障害）の病因、症候、診断と治療を説明できる。
- (13) 慢性腎不全（慢性腎臓病 (chronic kidney disease **CKD**)) の病因、症候、診断と治療を説明できる。
- (14) 慢性腎臓病 **CKD** 重症度分類を説明できる。
- (15) 慢性腎不全の合併症である腎性貧血、ミネラル骨代謝異常を概説できる。
- (16) 透析導入基準（慢性腎不全）を説明できる。
- (17) 腎不全の治療（血液透析・腹膜透析・腎移植）を説明できる。
- (18) 高血圧による腎障害（腎硬化症）を概説できる。
- (19) 腎血管性高血圧症を概説できる。
- (20) 腎尿路の主な先天異常（多発性嚢胞腎、膀胱尿管逆流）を概説できる。
- (21) 腎外傷の症候、診断と治療を説明できる。
- (22) 尿路結石の病因、症候、診断と治療を説明できる。
- (23) 尿路の炎症（膀胱炎・前立腺炎・尿道炎）の病因、診断と治療を説明できる。
- (24) 神経因性膀胱を概説できる。
- (25) 腎癌の症候、病理所見、診断、治療を説明できる。
- (26) 膀胱癌を含む尿路上皮癌の症候、診断、治療を説明できる。
- (27) 生殖腺の発生と性分化の過程を説明できる。
- (28) 男性生殖器の発育の過程を説明できる。
- (29) 男性生殖器の形態と機能を説明できる。
- (30) 精巣の組織構造と精子形成の過程を説明できる。
- (31) 陰茎の組織構造と勃起・射精の機序を説明できる。
- (32) 精巣と前立腺の検査法（尿路造影、超音波検査、コンピュータ断層撮影 **CT**、磁気共鳴画像法 **MRI**）の適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
- (33) 血中ホルモン（卵泡刺激ホルモン (follicle-stimulating hormone **FSH**)、黄体形成ホルモン (luteinizing hormone **LH**)、プロラクチン、ヒト絨毛性ゴナドトロピン (human chorionic gonadotropin **hCG**、エストロゲン、プロゲステロン) 測定値を評価できる。
- (34) 勃起不全と射精障害を概説できる。
- (35) 精巣機能障害を概説できる。
- (36) 男性不妊症を概説できる。
- (37) 前立腺肥大症の診断と治療を説明できる。
- (38) 停留精巣、陰嚢内腫瘍を概説できる
- (39) 前立腺癌の症候、病理所見、診断、治療を説明できる。
- (40) 精巣腫瘍の症候、診断、治療を説明できる
- (41) 副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。
- (42) 男性ホルモン・女性ホルモンの合成・代謝経路と作用を説明できる。
- (43) 褐色細胞腫の病態、症候、画像所見、病理所見、診断、治療法を説明できる。
- (44) 性感染症の原因微生物を説明できる
- (45) 梅毒の症候と診断と治療を説明できる。
- (46) 淋菌感染症の診断と治療を説明できる。
- (47) 性器クラミジア、性器ヘルペス、尖圭コンジローマの診断と治療を説明できる。
- (48) 移植と組織適合性の関係を説明できる。
- (49) 移植後の拒絶反応、移植片対宿主病の病態生理と発症時の対応を説明できる。

(50) 免疫抑制薬の種類、適応と副作用を説明できる。

2) 基本的臨床手技 (4-1~4-8)

- (1) 体位交換、移送ができる。
- (2) 皮膚消毒ができる。
- (3) 中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助する。
- (4) 腰椎穿刺を見学し、介助する。
- (5) 尿道カテーテルの挿入と抜去を実施できる。
- (6) ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助する。
- (7) 全身麻酔、局所麻酔、輸血を見学し、介助する。
- (8) 診療録（カルテ）を作成する。
- (9) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査手技 (4-6)

エックス線撮影、コンピュータ断層撮影 **CT**、磁気共鳴画像法 **MRI**、核医学検査、内視鏡検査、腹部超音波検査を見学し、介助する。

4) 外科手技 (4-6)

- (1) 無菌操作を実施できる。
- (2) 手術や手技のための手洗いができる。
- (3) 手術室におけるガウンテクニックができる。
- (4) 基本的な縫合と抜糸ができる。
- (5) 創の消毒やガーゼ交換ができる。
- (6) 手術、術前・術中・術後管理を見学し、介助する。

5) 救急処置 (4-6)

- (1) 身体徴候、バイタルサインから緊急性の高い状況であることを判断できる。
- (2) 一次救命処置を実施できる。
- (3) 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

6) シミュレーション教育 (4-6)

- (1) シミュレータを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。
- (2) da vinci シミュレータを用いて、ロボット支援術の仕組みを学び体験する

7) 医療行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (医療制度)、EBMI について (2-1~2-8, 3-3, 3-5, 3-6)

- (1) 各種検査治療のインフォームドコンセント
- (2) 困難な患者、急変患者・家族への説明
- (3) 各種侵襲的な検査・治療時の安全性の配慮

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

Campbell 's Urology 11th ed. Alan J. Wein, et al. (eds), Saunders
ベッドサイド泌尿器科学 改訂第4版 吉田 修 南江堂
講義録泌尿器科学 荒井陽一, 小川修 メジカルビュー社
腎移植のすべて 高橋公太 メジカルビュー社

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問、ミニ CEX、出席

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ・ 本学のクリニカルクラークシップガイドの実習直前に必ず復習してくる事項【必修(コア)事項】を学習してくる。
- ・ 経験記録、手帳の記載を行うこと
- ・ 髪、服装、身だしなみに注意すること。サンダル履きは不可。
- ・ 月曜日(祝祭日の場合は火曜日)は 7:30 に泌尿器科カンファレンスルームに集合する。
- ・ 月曜日の症例検討会では、受持患者 1 名の症例提示を行う。
- ・ 評価は金曜日外来もしくは病棟実習時に行う。

腎泌尿器科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [7:30 - 18:00] 副題 X線読影、カンファランス、血液透 析実習、検査実習 担当 全教官	07:25 - カンファランスルーム (第二病棟二階から第一病棟に向かって渡り 廊下を渡った階段を過ぎたら右に入って右手) 集合 07:30 - 09:00 X線読影、泌尿器科病棟カンファランス 09:00 - 09:30 オリエンテーション 09:30 - 15:00 患者回診、検査実習、手術実習、症例呈示準備 16:00 - 17:00 総回診 17:10 - 18:30 症例検討会・症例呈示
第2回 火曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術実習 担当 全教官	08:00 - 08:30 腎疾患カンファランス 08:30 - 09:00 小講義 09:15 - 17:00 回診および手術実習
第3回 水曜日 [8:00 - 17:00] 副題 病棟回診、外来実習、検査実習、手 術実習 担当 全教官	08:00 - 09:00 病棟カンファランス、抄読会 09:15 - 17:00 回診および検査実習、手術実習、外来実習:miniCEX
第4回 木曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術実習 担当 全教官	08:00 - 09:00 病理カンファランス (または病棟カンファランス) 09:15 - 17:00 回診および手術実習
第5回 金曜日 [8:00 - 17:00] 副題 外来実習、病棟実習、検査実習 担当 全教官	09:00 - 12:00 外来・病棟実習 13:00 - 14:00 検査実習 14:20 - 医学医療総合講義

分 類：臨床医学V(CC1)
授 業 科 目 名：小児科学 臨床実習 (Pediatrics)
対 象 学 年：5年次 必修
時間割コード：71643002-14

1. 主任教員

高橋勉 (教授、小児科学、6157)

2. 担当教員

高橋勉 (教授、小児科学、6157)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい

チームの一員として病棟や外来患者さんへの診療を通して、将来、どのような分野の医師にも必要な小児科領域を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実践力を習得する。

また、関連するプロフェッショナリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法 (制度)、EBM について学ぶ。

2. 概要 (大まかな学習目標 (項目))

・患者および保護者と良好な人間関係を確立できる。(2-1~2-8)

・問題解決に必要な情報を適切に収集できる。

* 患者および保護者から必要な身体的・精神的・社会的情報を得ることができる。(2-1~2-8)

* 患者および保護者の立場を考慮しつつ、視診・聴診・触診・打診等により必要な情報を得ることができる。(2-1~2-8, 4-1~4-2)

・収集した情報を適切に記載し、問題点を把握できる。(2-1~2-8, 3-1~3-7)

・問題解決のための診断・治療計画を立案できる。(4-2)

・小児科における特性を理解し、実践することができる。

* 年齢による疾患の特殊性を理解する。(3-2~3-4)

* 検査結果の年齢による違いを解釈できる。(3-3, 4-2)

* 小児における診療技術の特殊性を理解する。(4-3)

* 乳幼児健康診査や予防接種への参加を通じ、正常小児の成長発達および子どもの健康支援と予防医療の重要性を理解する。(3-4, 4-8)

・適切なプレゼンテーションができる。

* 症例を適切に要約し、場面に応じて提示できる。(2-4, 4-5)

* 問題提示に対して、他者と適切な討論ができる。(2-5)

* 文献検索等を通じ、問題解決のための資料が作成できる。(4-5)

1) 病棟実習

各学生は4つの診療チーム(総合、循環器、新生児、血液・腫瘍)のいずれかに2週間配属され、指導医のもと数名の病棟患者さんを担当する。指導医の監督の下に、日々、病棟担当患者さんの回診を行い、病状や身体所見をカルテに記載する(指導医の確認必須)。医療面接や身体診察による課題抽出、文献検索による臨床推論、検査・治療方針の提案、カンファランス時等の各種プレゼンテーション、患者・家族への説明への参加など、チームの一員としてEBMに基づいた基本的な診療を実践的に学ぶ。

2) 外来実習・各種検査など

このような病棟の担当患者診療の合間には、外来の新患、再来患者さんの診療や、各種の検査・治療に参加しながら、診療チームの一員として臨床推論・検査・治療の過程を実践的に学ぶ。

3. (詳細な)学修目標

1) 症候・病態 臨床推論 (3-1～3-2)

発熱、全身倦怠感、食思(欲)不振、体重減少・体重増加、ショック、心停止、意識障害・失神、けいれん、めまい、脱水、浮腫、発疹、咳・痰、血痰・咯血、呼吸困難、胸痛、動悸、胸水、嚥下困難・障害、腹痛、悪心・嘔吐、吐血・下血、便秘・下痢、黄疸、腹部膨満(腹水を含む)・腫瘍、貧血、リンパ節腫脹、尿量・排尿の異常、血尿・タンパク尿、月経異常、不安・抑うつ、もの忘れ、頭痛、運動麻痺・筋力低下、腰背部痛、関節痛・関節腫脹、外傷・熱傷

2) 基本的臨床手技 (3-3, 4-2, 4-6)

体位交換, 移送, 皮膚消毒, 外用薬の貼付・塗布, 気道内吸引, ネプライザー, 静脈採血, 末梢静脈確保, 胃管挿入, 尿道カテーテル挿入・抜去, 注射(皮内・皮下・筋肉内・静脈内), 診療記録, 小児からの採血, カニューレ交換, 浣腸

3) 検査・治療手技 (4-2)

脳波検査(判読), 筋電図, 眼球に触れる検査, 超音波検査(判読), X線検査, CT・MRI・核医学・内視鏡検査, 尿検査, 血液塗抹標本の作製と観察, 微生物学的検査(グラム染色を含む), 妊娠反応検査, 超音波検査(心臓血管・腹部), 心電図, 経皮的酸素飽和度モニター, 病原体抗原の迅速検査, 簡易血糖測定, アレルギー検査(塗布), 発達テスト, 知能テスト, 心理テスト, 処方薬(内服薬)・注射・点滴などのオーダー, 食事指示, 安静度指示, 定型的な術前・術後管理の指示, 酸素投与量の調整, 診療計画の作成, 健康教育

4) 医学行動科学, 医療倫理, 医療安全, 医療法(医療制度), EBM (3-5～3-7, 4-4)

- (1) 治療の立案・実施に可能な範囲で参加する。
- (2) 保護者から必要な情報を得たり対応したりすることに可能な範囲で参加する。
- (3) 小児の成長・発達の評価に可能な範囲で参加する。
- (4) どのように小児科にコンサルテーションすればよいかわかる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

Nelson Textbook of Pediatrics, Oski's Essential Pediatrics

5. 成績評価の方法

実習態度、レポート

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

実習初日は8時20分よりオリエンテーション(小児科医局横の共用室、事前に要確認)
アフタヌーンカンファランス(各実習期間内に1回)に参加し、医師とともに考え、学ぶ。

小児科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 1 回	月曜日 [8:30 - 17:00] 副題 臨床実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-16:00 臨床講義及び自習 16:00-17:00 病棟実習
第 2 回	火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 臨床実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-16:00 教授回診、入退院カンファレンス 16:00-17:00 病棟実習 17:00-18:00 外科との合同カンファレンス (該当例のある時のみ)
第 3 回	水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 臨床実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-16:00 臨床講義及び自習 16:00-17:00 病棟実習
第 4 回	木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 臨床実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-16:00 臨床講義及び自習 16:00-17:00 病棟実習
第 5 回	金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 臨床実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 午後は医学医療総合講義
第 6 回	月曜日 [8:30 - 17:00] 副題 臨床実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-16:00 臨床講義及び自習 16:00-17:00 病棟実習
第 7 回	火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 臨床実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-16:00 教授回診、入退院カンファレンス、アフタヌーンカンファレンス 16:00-17:00 病棟実習 17:00-18:00 外科との合同カンファレンス (該当例のある時のみ)
第 8 回	水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 臨床実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-16:00 臨床講義及び自習 16:00-17:00 病棟実習
第 9 回	木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 臨床実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-16:00 臨床講義及び自習 16:00-17:00 病棟実習
第 10 回	金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 臨床実習 担当 全教員	8:30-12:00 レポート発表及び討論 午後は医学医療総合講義

分 類：臨床医学 V (CC1)
授業科目名：産婦人科学 臨床実習 (Obstetrics and Gynecology)
対象学年：5 年次必修
時間割コード：71643002-15

1. 主任教員

寺田 幸弘 (教授、産婦人科学講座、6160)

2. 担当教員

寺田 幸弘 (教授、産婦人科学講座、6160)
熊澤由紀代 (准教授、産婦人科学講座、6163)
清水 大 (准教授、産婦人科学講座、6163)
三浦 広志 (講師、産婦人科学講座、6163)
白澤 弘光 (講師、産婦人科学講座、6163)
牧野 健一 (助教、産婦人科学講座、6163)
菅原 多恵 (助教、産婦人科学講座、6163)
小野寺洋平 (助教、産婦人科学講座、6163)
藤嶋 明子 (助教、産婦人科学講座、6163)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

産婦人科の診療の基本を理解する。

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

講義の知識を臨床に応用できる。

(2-1~2-7、3-1~3-6、4-1~4-7、5-1~5-4、6-1~6-2)

3. 関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、医療安全、EBM、

医療法 (医療制度) について説明できる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

NEW エッセンシャル産科学・婦人科学 第 3 版

Williams Obstetrics 第 25 版

Berek & Novak's Gynecology 第 15 版

5. 成績評価の方法

レポート発表による評価

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

・集合時間 9:00

・集合場所 産婦人科医局

・代表者は、A-net で送られてきた名簿をダウンロードし、入力の上、提出すること。また、産科グループを希望する者は WebClass 上の資料を熟読し、テストを受けておくこと。

産婦人科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教官	9 : 00 ~ オリエンテーション 教授回診・医局会 病棟実習
第 2 回 火曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教官	病棟実習と手術見学
第 3 回 水曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教官	病棟実習と手術見学
第 4 回 木曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教官	病棟実習
第 5 回 金曜日 [8:30-14:10] 副題 担当 各担当教官	病棟実習と手術見学 14 : 20-17 : 10 医学医療総合講義
第 6 回 月曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教官	教授回診・医局会 病棟実習
第 7 回 火曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教官	病棟実習と手術見学
第 8 回 水曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教官	病棟実習と手術見学
第 9 回 木曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教官	病棟実習
第 10 回 金曜日 [8:30-14:10] 副題 担当 各担当教官	病棟実習と手術見学 14 : 20-17 : 10 医学医療総合講義

分 類：臨床医学Ⅴ(CC1)
授業科目名：眼科学 臨床実習 (ophthalmology)
対象学年：5年次必修
時間割コード：71643002-16

1. 主任教員

岩 瀬 剛 (教授、眼科学講座、6164)

2. 担当教員

岩 瀬 剛 (教授、眼科学講座、6164)

西 山 俊 吾 (医員、眼科学講座、6167)

佐藤真理子 (医員、眼科学講座、6167)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

- (1) 将来、眼科の医師にならない場合にも必要な眼科領域の診療能力について学ぶ。
- (2) 眼科の医師のイメージを獲得する。

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

- (1) 主訴からの診断推論を組み立てる、又はたどる。
- (2) 疾患の病態や疫学を理解する。
- (3) 眼科の治療に可能な範囲で参加する。
- (4) 眼科の基本的な診察技能について学ぶ。
- (5) どのように眼科にコンサルテーションすればよいかわかる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

現代の眼科学 (改訂第13版 所敬 監修 吉田晃敏/谷原秀信 編) 金原出版
標準眼科学 (第12版 木下茂/中澤満/天野史郎 編) 医学書院

5. 成績評価の方法

出欠状況、実習態度、レポート提出

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

実習初日は、8:45に第1病棟7階カンファレンスルームにてオリエンテーション
2週目は8:45に第1病棟7階集合

眼科学 臨床実習 (ophthalmology)

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [8:45-12:00] 副題 オリエンテーション 外来診察 担当 各担当教官	午前：オリエンテーション (病棟) 病棟入院患者の教授回診の見学 (病棟) 外来診察の見学・実習 (細隙灯顕微鏡による前眼部の観察、視野データの判読) (外来) 午後：レポート作成
第 2 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 手術見学、眼底検査実習 担当 各担当教官	午前：網膜硝子体手術、白内障手術、緑内障手術などの眼科手術見学 (手術室) 午後：学生同士での眼底検査実習 (医局・実習室)
第 3 回 水曜日 [13:00-17:00] 副題 ミニレクチャー 担当 各担当教官	午前：レポート作成 午後：開放隅角・閉塞隅角緑内障の生じるメカニズムについて解説する。(医局)
第 4 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 手術見学、双眼倒像実習 担当 各担当教官	午前：網膜硝子体手術、白内障手術、緑内障手術などの眼科手術見学 (手術室) 午後：シミュレーションセンターでの双眼倒像実習
第 5 回 金曜日 [8:30-12:00] 副題 クルズ 担当 各担当教官	午前：「白内障について」患者さんに説明できるようになるう！ 「目の疾患クイズ」前眼部所見、眼底写真から疾患を推理しよう！(医局) 午後：レポート作成
第 6 回 月曜日 [8:45-12:00] 副題 病棟回診 外来診察 担当 各担当教官	午前：病棟入院患者の教授回診の見学 (病棟) 外来診察の見学・実習 (細隙灯顕微鏡による前眼部の観察、視野データの判読) (外来) 午後：レポート作成
第 7 回 火曜日 [13:00-17:00] 副題 手術見学、レポート作成 担当 各担当教官	午前：レポート作成 午後：網膜硝子体手術、白内障手術、緑内障手術などの眼科手術見学 (手術室)
第 8 回 水曜日 [13:00-17:00] 副題 ミニレクチャー 担当 各担当教官	午前：レポート作成 午後：開放隅角・閉塞隅角緑内障の生じるメカニズムについて解説する。(医局)
第 9 回 木曜日 [13:00-17:00] 副題 手術見学、レポート作成 担当 各担当教官	午前：レポート作成 午後：網膜硝子体手術、白内障手術、緑内障手術などの眼科手術見学 (手術室)
第 10 回 金曜日 [8:30-12:00] 副題 クルズ 担当 各担当教官	午前：「白内障について」患者さんに説明できるようになるう！ 「目の疾患クイズ」前眼部所見、眼底写真から疾患を推理しよう！(医局) 午後：レポート作成

分類：臨床医学V(CC1)

授業科目名：耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 臨床実習 (Clinical Clerkship of Otorhinolaryngology, Head&Neck Surgery)

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-17

1. 主任教員

山田武千代 (教授、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6168)

2. 担当教員

山田武千代 (教授、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6168)

鈴木真輔 (准教授、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6169)

川崎洋平 (講師、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6171)

小泉 洸 (助教、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6171)

椎名和弘 (助教、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6171)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

外来、および病棟診療の実際について体験的に学習し、耳鼻科的疾患に対する診断アプローチ、治療法の実際、他科との連携について理解を深める。外来実習では、担当教員と一緒に診療を行い、患者さんにどのように言葉をかけてどのように反応するかを観察して接すべき方法を学ぶ (医療行動学)。実習を通じて、患者意志決定の尊重、安全性、患者の利益と負担について理解する (医療倫理)。(3-1,2,3,5,6)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

新耳鼻咽喉科学 (南山堂)

標準 耳鼻咽喉科頭頸部外科学 (医学書院)

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 (南山堂)

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問、レポート発表、出席で総合評価する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

初日は7:45、第2病棟7階カンファレンス室に集合

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [8:00] 副題 耳鼻咽喉科診療の実際、教授回診 担当	オリエンテーション、耳鼻咽喉科の実際、手術実習 (3-1,2,3,5,6) (4-2,3,5,6) 17:00～放射線症例検討会 (4-2,3,5,6)
第2回 火曜日 [8:00] 副題 治療実習 担当	抄読会、画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,5,6) (4-2,3,5,6)
第3回 水曜日 [8:30] 副題 手術実習 担当	画像読影、外来、病棟診療実習、手術実習 (3-1,2,3,5,6) (4-2,3,5,6)
第4回 木曜日 [8:30] 副題 治療実習 担当	病理検討会、画像読影、外来、病棟診療実習 レポート発表 (3-1,2,3,5,6) (4-2,3,4,5,6)
第5回 金曜日 [8:30] 副題 手術実習 担当	画像読影、外来、病棟診療実習、手術実習 (3-1,2,3,5,6) (4-2,3,4,5,6) 14:20-17:10 医学医療総合講義

分類：臨床医学 V (CC1)

授業科目名：麻酔・蘇生・疼痛管理学 臨床実習 (Anesthesia and Intensive Care Medicine)

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-18

1. 主任教員

新山 幸俊 (教授、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6172、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

2. 担当教員

新山 幸俊 (教授、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6172、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

木村 哲 (病院准教授、医療安全管理部、6173、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

安部 恭子 (助教、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6175、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

佐藤 浩司 (助教、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6175、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

中島 麻衣子 (助教、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6175、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

山本 夏子 (助教、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6175、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

堀越 雄太 (助教、救急・集中治療医学講座、6175、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

小玉 早穂子 (助教、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6175、オフィスアワー：8:30 - 17:00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい

1) 将来どのような分野の医師にも必要な麻酔科領域の診療能力について学ぶ (3-1~3-4, 4-1~4-6, 6-1)。

2) 麻酔業務のイメージを獲得する (1-1~1-2, 2-1~2-7, 3-1~3-7, 4-1~4-7)。

3) チームの一員として全身麻酔・局所麻酔を受ける患者さんへの診療に関与する (1-1~1-2, 2-1~2-6, 4-7)。

2. 学修目標

1) 症候・病態 臨床推論 (3-1~3-4, 3-6, 4-1~4-4)

(1) 高血圧・低血圧、(2) 不整脈、(3) 低酸素血症、(4) 高二酸化炭素血症、(5) ショック、(6) 心停止、(7) アシドーシス・アルカローシス、(8) 電解質異常、(9) 高血糖・低血糖、(10) 気道確保困難、(11) 術後急性痛、(12) 慢性痛

2) 基本的臨床手技 (4-1, 4-5, 4-6)

(1) 体位交換、移送ができる。(2) 皮膚消毒ができる。(3) 末梢静脈ラインの確保を見学し、介助できる。(4) 動脈血採血・動脈ラインの確保を見学し、介助できる。(5) 動脈血採血・検査を実施できる。(6) 中心静脈カテーテル挿入を見学する。(7) 胃管を挿入・抜去できる。(8) 静脈内注射を実施できる。(9) 全身麻酔、局所麻酔、輸血を見学し、介助できる。(10) 診療録(麻酔記録)を作成できる。(11) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助できる。

3) 検査手技 (4-2, 4-5, 4-6)

(1) 手術室の標準的バイタルサインモニタ(心電図、非観血的動脈圧、経皮的酸素飽和度、カプノグラム、bispectral Index、深部温など)を装着できる。(2) 動脈血液ガス分析を実施できる。

4) 外科手技 (4-1~4-8)

(1) 無菌操作を実施できる。(2) 手技のための手洗いができる。(3) 手術室におけるガウンテクニックを見学し、介助できる。(4) 手術、術前・術中・術後管理を見学し、介助できる。(5) 神経ブロックを見学し、介助できる。

5) 救命処置 (3-1~3-7, 4-1~4-7)

(1) 身体徴候、バイタルサインから緊急性の高い状況であることを判断できる。(2) 一次救命処置を実施できる。(3) 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

6) 麻酔科診療実習 (2-1~2-7, 3-1~3-7, 4-1~4-7)

(1) 麻酔管理中に遭遇する種々の症候・病態に対する臨床推論、対応を指導医の診療を通して学ぶ。(2) 指導医の責任のもと、可能な範囲で実際の麻酔管理に参加する。

7) シミュレーション教育 (3-1~3-6, 4-1~4-7, 6-1~6-2)

(1) 高機能麻酔シミュレータを用いて反復練習することで、臨床技能を磨く。(2) シナリオに沿ったトレーニングを通して、状況判断、意思決定能力を獲得する。(3) シミュレータを用いて静脈ライン確保、動脈穿刺、エコーガイド下区域麻酔、硬膜外麻酔を経験する。(4) 振り返りで自己省察能力を磨く。

8) プレゼンテーション (2-4, 4-5, 6-1~6-2)

与えられたテーマについて多角的視野から考察し、プレゼンテーションを行う。

9) コンピテンシー教育 (1-1~1-2, 2-4~2-6, 3-1 3-7, 4-1~4-7, 5-1~5-4, 6-1~6-2)

(1) 麻酔という患者の意識が消失してコミュニケーションが図れない環境において、患者の代弁者としてふるまうことで医師としての矜持(倫理、医療行動)を学ぶ。(2) 麻酔関連の合併症が生じた場合の対応を医療安全の概念を踏まえて理解する。(3) 外科医、看護師、臨床工学技士など多職種が業務を行う中でプロフェッショナリズムとチーム医療を学ぶ。(4) 最近の麻酔および周術期管理に関するエビデンスやガイドラインを学ぶ。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

臨床麻酔科学書(中山書店)

標準麻酔科学 第7版(医学書院)

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問、OSCE、プレゼンテーション、レポート(感想文)、出席など

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

1. 本学のクリニカルクラークシップガイドにおける実習直前事項を学習してきてください。
2. 経験手技、手帳の記載を行ってください。
3. ペインクリニック外来実習(水曜日、木曜日)に参加してもらいます。
4. 実習内容や日程は変更されることがあります。必ず事前に連絡します。
5. 初日は7時45分、手術室内カンファレンスルームに集合してください。

麻酔・蘇生・疼痛管理学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容	
第1回	月曜日 [7:45 - 17:00] 副題 オリエンテーション 手術麻酔症例実習 担当 新山 幸俊、安部 恭子ら	07:45 - 08:45 08:45 - 10:00 10:00 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (総説抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 オリエンテーション 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第2回	火曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 実技 担当 新山 幸俊、佐藤 浩司ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 14:30 14:30 - 17:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 昼食 実技 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第3回	水曜日 [08:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 担当 山本 夏子、中島 麻衣子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (症例検討、症例提示) 手術麻酔症例実習 ペインクリニック外来実習) 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第4回	木曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 担当 木村 哲、山本 夏子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 11:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 ペインクリニック外来実習) 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第5回	金曜日 [8:00 - 12:00] 副題 手術麻酔症例実習 担当 堀越 雄太、小玉 早穂子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第6回	月曜日 [7:45 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 担当 安部 恭子、佐藤 浩司ら	07:45 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (総説抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第7回	火曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 麻酔シミュレータ実習 担当 安部 恭子、堀越 雄太ら	08:00 - 08:45 08:45 - 09:30 09:30 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 麻酔シミュレータ実習 (OSCE) 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第8回	水曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 担当 山本 夏子、中島 麻衣子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (症例検討、症例提示) 手術麻酔症例実習 ペインクリニック外来実習) 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第9回	木曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 担当 木村 哲、山本 夏子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 11:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 ペインクリニック外来実習) 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第10回	金曜日 [8:00 - 12:00] 副題 総括 プレゼンテーション 担当 新山 幸俊、堀越 雄太ら	08:00 - 08:45 08:45 - 10:00 10:00 - 12:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔実習 総括、学習内容プレゼンテーション、感想文提出

分 類：臨床医学V(CC1)

授業科目名：放射線医学臨床実習 (Practice of Radiology)

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-19

1. 主任教員

森 菜緒子 (教授、北臨床棟1階放射線医学、6179、オフィスアワー：北臨床棟1階放射線科カンファレンスルーム、12時～13時)

2. 担当教員

森 菜緒子 (教授、北臨床棟1階放射線医学、6179、オフィスアワー：北臨床棟1階放射線科カンファレンスルーム、12時～13時)

和田 優貴 (講師、北臨床棟1階放射線医学、6179)

大谷 隆浩 (助教、北臨床棟1階放射線医学、6179)

松田 雅純 (助教、北臨床棟1階放射線医学、6179)

高木 倫子 (助教、北臨床棟1階放射線医学、6179)

戸沢 智樹 (助教、北臨床棟1階放射線医学、6179)

今野 素子 (助教、北臨床棟1階放射線医学、6179)

熊谷 聡 (助教、北臨床棟1階放射線医学、6179)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

将来どの分野の医師にも必要な放射線診断・治療に関する基本研修をする (3-3)

指導医の下、診断・治療の二つのチームに別れ研修する

関連するプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療法 (医療制度) について説明できる。(2-5)

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

CT,MRなどの簡単な所見を見つけられる (3-3)

代表的な放射線治療法を理解できる (4-3)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

標準放射線医学 (医学書院)、臨床放射線腫瘍学 (南江堂)、新臨床 X 線診断学 (医学書院)

5. 成績評価の方法

出席・態度・レポートにより評価する

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

必修コア事項を学習すること

経験記録、手帳の記載をする

週間予定表を確認すること

授業に関連するキーワード：放射線診断、放射線防護と管理、総合画像診断、

放射線治療、集学的治療

コメント：月曜日 08:50 附属病院1階中央放射線部カンファレンスルームに集合

診断科・治療科に分かれて実習する

小講義・カンファレンスの開催の有無は、担当医に確認する

木曜日 プレゼンテーション後に、簡単な骨学実習 (頭蓋底、頸椎)

放射線医学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [8:50-] 副題 実習を始めるにあたって 担当 各担当教員	(診断) 08:50 オリエンテーション (MRI 棟読影室) 読影実習 13:15 総回診 (中央放射線部カンファレンスルーム) 読影実習・小講義 (治療) 08:50 オリエンテーション (MRI 棟読影室) 病棟実習 13:15 総回診 (中央放射線部カンファレンスルーム) 病棟実習・小講義 16:30 病棟回診 17:00 耳鼻科カンファレンス
第2回 火曜日 [8:00-] 副題 個別実習 担当 各担当教員	(診断) 08:00 画像カンファレンス (MRI 棟読影室) 08:50 血管造影実習・読影実習 13:30 読影実習・小講義 18:00 食道カンファレンス (治療) 08:00 画像カンファレンス (MRI 棟読影室) 08:30 病棟回診 13:30 病棟実習・小講義 16:30 病棟回診 18:00 食道カンファレンス
第3回 水曜日 [8:00-] 副題 個別実習 担当 各担当教員	(診断) 08:00 脳外科カンファレンス 08:50 血管造影実習・読影実習 13:30 RALS 小線源治療室 15:00 放射線管理 (核医学検査室) 小講義 (治療) 08:00 脳外科カンファレンス 08:30 病棟回診 13:30 RALS 小線源治療室 15:00 放射線管理 (核医学検査室) 小講義 16:30 病棟回診 17:00 治療症例カンファレンス (医局)
第4回 木曜日 [8:30-] 副題 個別実習 担当 各担当教員	(診断) 08:50 読影実習 09:30 課題の発表 (MRI 棟読影室) 13:30 読影実習・小講義 17:30 呼吸器カンファレンス (中央放射線部カンファレンスルーム) (治療) 08:30 病棟回診 09:30 課題の発表 (MRI 棟読影室) 13:30 病棟実習・小講義 16:30 病棟回診 17:30 呼吸器カンファレンス (中央放射線部カンファレンスルーム)
第5回 金曜日 [8:30-] 副題 個別実習 担当 各担当教員	(診断) 08:50 小講義 (MRI 棟読影室) (午後 必修：医学医療総合講義) (治療) 08:30 病棟回診 08:50 小講義 (午後 必修：医学医療総合講義)

分類：臨床医学V(CC1)

授業科目名：救急・集中治療医学 臨床実習 (Emergency&Critical Care Medicine)

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-20

1. 主任教員

中永士師明 (教授、救急・集中治療医学講座、6183、オフィスアワー：8：30-17：00)

2. 担当教員

中永士師明 (教授、救急・集中治療医学講座、6183、オフィスアワー：8：30-17：00)

奥山 学 (准教授、救急・集中治療医学講座、6184、オフィスアワー：8：30-17：00)

佐藤 佳澄 (助教、救急・集中治療医学講座)

北村 俊晴 (特任助教、総合診療医センター)

平澤 暢史 (特任助教、総合診療医センター)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

毎朝のカンファレンスに参加し、軽症から重症まで様々な病態、かつ様々な社会的背景を持つ患者の症例プレゼンテーションを聞き、病態に合わせた問題解決、総合的に患者・生活者を見る姿勢を学ぶ。また、一人一症例担当患者を決め指導医とともに診療し、その患者の徴候、治療、もしくは臨床的疑問点を調べ最終日に発表する。これは情報・科学技術を用いて最新の知識を入手し症例プレゼンテーションすることに加え、ピア・ラーニングで互いの知識を共有する目的で行う。また、小グループディスカッションで家庭医の診療とおして総合的に患者・生活者を見る姿勢について学ぶ。シミュレーションセンターでのシミュレーションでバイタルサインの測定とその評価、一次救命処置と二次救命処置を学ぶ

1) 症例カンファレンス参加 (1-1,2, 3-1,2,3,4,5, 4-1,2,3,4,5,6,7,8, 5-1,2,3,4,5, 6-1,2,)

2) 救急外来での診療 (2-1,2,3,4,5,6,7,8, 3-1,2,3,4,5, 4-1,2,3,4,5,6,7,)

3) 集中治療部での診療 (2-1,2,3,4,5,6,7,8, 3-1,2,3,4,5, 4-1,2,3,4,5,6,7,)

4) 入院患者の診療 (2-1,2,3,4,5,6,7,8, 3-1,2,3,4,5, 4-1,2,3,4,5,6,7,)

5) 救急医・集中治療医・総合診療医・家庭医について学ぶ (1-1,2, 2-1,2,3,4,5,6,7, 3-3,4,5,6,7,)

6) シミュレーションでバイタルサインの測定とその評価、ショックへの対応を学 (4-1,2,3,4,5,6,7)

7) シミュレーションで一次救命処置と二次救命処置を学ぶ (2-3,4,5,6,7, 3-2,3, 4-2,3,4,5,6,7)

8) 症例プレゼンテーション (ピア・ラーニング) (3-1,2,3,4,5, 4-1,2,3,4,5,6,7, 5-1,2,3,4,5,6,1,2)

2. 学習目標

1) バイタルサインや身体徴候から緊急性の高い状態にある患者を認識できる。

2) ショックの患者の初期対応と原因に応じた治療について理解する

3) 心停止患者の一次救命処置を実施できる。

4) 心停止患者の二次救命処置を理解する

5) 心停止の原因と病態及び診断の要点について理解する

6) 集中治療及び集中治療室の概要を理解する

7) 人工呼吸管理・体外式膜型肺・補助循環・急性血液浄化法が必要な病態とその意義を理解する

8) 集中治療後症候群について概念を理解する

9) 症例発表において適切にプレゼンテーションできる

10) プライマリケアの基本的概念を理解する

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

Up To Date

5. 成績評価の方法

出席、症例発表、症例レポート、シミュレーションの実技評価

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

1) 初日は 8:30 ICU カンファランス室 集合

* 月曜日が祝日の場合は翌日 8:30 ICU カンファランス集合

2) WebCLass で事前学習、予習すること

3) 紙媒体での資料配布はありません。各自 WebCLass から用意し履修すること

4) 半袖の白衣を着用すること。ICU では感染制御の観点から長袖の白衣の着用を禁止しています。

問い合わせ：医局（6185）

救急・集中治療医学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第1回 副題 担当	月曜日 [8:30～17:00] オリエンテーション/ICU・病棟実習 奥山 学	1) カンファランス参加 2) 救急外来・ICU・病棟での診療
第2回 副題 担当	火曜日 [8:15～17:00] 総合診療セミナー 北村 俊晴	1) カンファランス参加 2) 家庭医療のコアコンピテンシーについて学ぶ
第3回 副題 担当	水曜日 [8:15～17:00] 二次救命処置 佐藤 佳澄	1) カンファランス参加 2) 心肺蘇生シミュレーション
第4回 副題 担当	木曜日 [8:15～17:00] 救急初期対応 (ABCD の評価) 平澤 暢史	1) カンファランス参加 2) 救急初期対応シミュレーション
第5回 副題 担当	金曜日 [8:15～17:00] ICU・病棟実習、医学医療総合講義 北村 俊晴	1) カンファランス参加 2) 症例プレゼンテーション 3) 医学医療総合講義 (14:20～17:10 多目的室)

令和5年度秋田大学医学部医学科授業計画

分類：臨床医学V(CC1)

授業科目名：総合診療・検査診断学臨床実習（General Internal Medicine and Clinical Laboratory Medicine）－臨床検査医学の実際－

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-21

1. 主任教員

植木重治（教授、総合診療・検査診断学講座、6209、オフィスアワー：8：30～17：00）

2. 担当教員

植木重治（教授、総合診療・検査診断学講座、6209、オフィスアワー：8：30～17：00）

嵯峨知生（病院教授、附属病院感染制御部、6248、オフィスアワー：8：30～17：00）

守時由起（准教授、総合診療・検査診断学講座、6209、オフィスアワー：8：30～17：00）

嵯峨亜希子（助教、総合診療・検査診断学講座、6209、オフィスアワー：8：30～17：00）

藤岡優樹（助教、附属病院中央検査部、6209、オフィスアワー：8：30～17：00）

佐々木智子（特任助教、総合診療医センター、6209、オフィスアワー：8：30～17：00）

引地悠（医員、附属病院総合診療部、6209、オフィスアワー：8：30～15：00）

渡部健（医員、男鹿なまはげ地域医療・総合診療連携講座、6209、オフィスアワー：8：30～17：00）

長谷川諒（医員、附属病院総合診療部、6209、オフィスアワー：8：30～17：00）

石川陽子（、附属病院感染制御部、6248、オフィスアワー：8：30～17：00）

富谷陽子（、附属病院中央検査部、6197、オフィスアワー：8：30～17：00）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

1. 授業の概要及びねらい

臨床推論に基づく臨床検査を選択することができ、結果を解釈できる。(2-4～2-6, 3-2～3-4, 4-1～4-2)

本領域が関連するプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療安全、医療法（制度）、EBM、基本手技について説明・実践できる。(1-1～1-2, 3-3, 3-5, 3-7, 4-4～4-6)

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

1) 医師が自ら行う必要のある基本的な検体検査法、手技を実施できる。

2) 静脈採血、血液形態学的検査、尿一般検査、微生物検査、呼吸機能検査、心電図検査などを実施できる。

3) 検体検査の実際と検体の取扱いに関する注意点について説明できる。

4) 医療関連感染対策の体制について説明できる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

ハリソン内科学書

新・総合診療医学家庭医療学編

新・総合診療医学病院総合診療医学編

臨床に役立つ検査値の読み方・考え方：河野・西崎編、総合医学社

臨床検査のABC：日本医師会編、医学書院

異常値の出るメカニズム：河合・尾形・伊藤編、医学書院

標準臨床内科学：猪狩・中原編、医学書院

新臨床内科学：阿部他編、医学書院

臨床検査法提要：金井編、金原出版

5. 成績評価の方法

- 1) 各項目ごとに教員による実習評価と授業姿勢による評価を行う。
- 2) さらに臨床症例を用いた検査診断演習発表によって実習全体の合否を判定する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

採血や検査を行う場合があるので、朝食や水分をとって体調を整えておくこと。
講義内容を復習しておくとい。

総合診療・検査診断学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第1回 副題 担当	月曜日 [8:45-17:10] オリエンテーション、採血実習、総合診療カンファランス 植木重治	実習の概要について説明する。 RCPC (Reversed Clinico-Pathological Conference) の症例提示。 採血および末梢血塗抹標本作成の実習を行う。 総合診療部カンファランスに参加する。
第2回 副題 担当	火曜日 [8:50-17:10] オリエンテーション、採血実習、総合診療カンファランス 植木重治	血液学的検査、生化学・血清学的検査、尿検査の実習および結果解釈を学ぶ。
第3回 副題 担当	水曜日 [8:50-17:10] オリエンテーション、採血実習、総合診療カンファランス 植木重治	微生物学的検査、呼吸機能検査、心電図検査の実習および結果解釈を学ぶ。 血液ガス分析検査の結果解釈を学ぶ。 手洗い実習を行い標準予防策を学ぶ。
第4回 副題 担当	木曜日 [8:50-17:10] オリエンテーション、採血実習、総合診療カンファランス 植木重治	感染制御部カンファランスに参加し、医療関連感染対策の基本を学ぶ。 初日に提示した RCPC 症例について発表およびディスカッションを行う。 細菌学・適正な抗菌薬使用方法について学ぶ。
第5回 副題 担当	金曜日 [8:50-17:10] オリエンテーション、採血実習、総合診療カンファランス 植木重治	臨床検査成績の総合的解釈と病態の推論を学ぶ。 実習全体の振り返り。 14:20～医学医療総合講義

分類：臨床医学 V (CC1)

授業科目名：代謝・内分泌内科学（糖尿病・内分泌代謝科）臨床実習（Metabolism and Endocrinology）－代謝・内分泌内科学 BSI

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-22

1. 主任教員

脇裕典（教授、代謝・内分泌内科学、6769、オフィスアワー：12:00-13:00）

2. 担当教員

脇裕典（教授、代謝・内分泌内科学、6769、オフィスアワー：12:00-13:00）

藤田浩樹（准教授、代謝・内分泌内科学、6769、オフィスアワー：12:00-13:00）

森井宰（講師、代謝・内分泌内科学、6769、オフィスアワー：12:00-13:00）

佐藤雄大（助教、代謝・内分泌内科学、6769、オフィスアワー：12:00-13:00）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

1. 診療参加型臨床実習 CC1 の概要・ねらい

チームの一員として病棟や外来患者さんの診療を通して、将来、どのような分野の医師にも必要な内科領域、特に糖尿病・内分泌内科を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実践力を修得する。

1) 病棟診療

各学生は2つの診療チーム（A、B）のいずれかに2週間配属され、指導医のもとで1名の病棟患者さんを担当する。指導医の監督のもとに、毎日担当患者さんの診察を行い、所見を電子カルテに記載する（指導医の確認必須）。また、ウィークリーサマリーを作成し、2週目水曜日の病棟カンファレンスでプレゼンテーションする。診療チームの一員として、EBM および診療ガイドラインに基づいた基本的な診療を実践的に学ぶ。（1～6）

2) 外来診療、外来検査への参加

実習期間中、1名の外来新患患者さんの初診を行い、病歴・診察所見を電子カルテに記載する（指導医の確認必須）。2週目水曜日の外来新患カンファレンスで担当した患者さんについてプレゼンテーションする。また、毎週水曜日の頸部エコー検査に交代で参加する。診療チームの一員として、臨床推論・検査・治療の過程を実践的に学ぶ。（1～6）

2. 学習目標

上記1の概要・ねらいを中心に実習を進めるが、本診療科で特に経験保証する症候・病態、各種手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態、臨床推論（3-1～3-5、4-1～4-6）

(1) 口渇・多飲・多尿、(2) 甲状腺腫、(3) 肥満・やせ

2) 基本的臨床手技（3-1～3-3、3-5、4-1～4-7）

- (1) 皮膚消毒ができる。
- (2) 注射（皮内、皮下、筋肉、静脈内）を実施できる。
- (3) 診療録（カルテ）を作成する。
- (4) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査手技（3-1～3-3、4-1～4-3）

- (1) 尿検査（尿沈渣を含む）を実施できる。
- (2) POCT 器で血糖測定ができる。
- (3) 頸部の超音波検査を実施できる。

4) プロフェッショナリズム、医療行動科学、医療倫理、医療安全、医療法（医療制度）、EBM について（2-1～2-8、3-3、3-5、3-7）

- (1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント。
- (2) 困難な患者、急変患者の家族への説明。
- (3) 患者さんの生活環境（家庭、職場）に配慮した診療計画を検討できる。総合的にみることができる。
- (4) 各種侵襲的な検査・治療時の安全性への配慮。
- (5) 各種診療ガイドラインを適宜参照し、活用できる。ICT を活用して検索できる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

内科学（朝倉書店）

糖尿病専門医研修ガイドブック（診断と治療社）

内分泌代謝科専門医研修ガイドブック（診断と治療社）

5. 成績評価の方法

態度（実習評価票）

口頭試問（外来新患・病棟カンファレンスで担当患者さんの症例発表・ディスカッション）

CC-EPOC 入力状況

ミニ CEX（担当患者さんの診察状況を評価）

レポート（内分泌疾患に関する課題のレポートと担当患者さんの病歴要約）

出席

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

実習開始までに、3 年次臨床医学 II（加齢と老化、内分泌・栄養・代謝）の講義プリントの内容を復習してきて下さい。

代謝・内分泌内科学（糖尿病・内分泌代謝科）臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第1回 副題 担当	月曜日 [9:00-17:00] オリエンテーション 藤田	オリエンテーション 病棟実習
第2回 副題 担当	火曜日 [8:30-17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第3回 副題 担当	水曜日 [8:30-17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第4回 副題 担当	木曜日 [8:30-17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第5回 副題 担当	金曜日 [8:30-17:10] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	8:30～14:20 病棟実習 14:20～17:10 医学医療総合講義
第6回 副題 担当	月曜日 [8:30-17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第7回 副題 担当	火曜日 [8:30-17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第8回 副題 担当	水曜日 [8:30-17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第9回 副題 担当	木曜日 [8:30-17:00] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	病棟実習
第10回 副題 担当	金曜日 [8:30-17:10] 糖尿病・内分泌代謝科実習 各指導教官	8:30～14:20 病棟実習 14:20～17:10 医学医療総合講義

分類：臨床医学V(CC1)

授業科目名：小児外科学臨床実習 (BSL in Pediatric Surgery)

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-23

1. 主任教員

水野 大 (病院教授、小児外科学講座、3447、オフィスアワー：水曜日 15時～16時)

2. 担当教員

水野 大 (病院教授、小児外科学講座、3447、オフィスアワー：水曜日 15時～16時)

森井 真也子 (医学部講師、小児外科学講座、6141、オフィスアワー：火曜日 15時～16時)

渡部 亮 (助教、小児外科学講座、6142、オフィスアワー：金曜日 15時～16時)

東 紗弥 (医員、小児外科学講座、6141、オフィスアワー：木曜日 15時～16時)

山形 健基 (医員、小児外科学講座、6143、オフィスアワー：金曜日 15時～16時)

林 海斗 (医員、小児外科学講座、6143、オフィスアワー：木曜日 15時～16時)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の狙い (大まかな全体目標)

チームの一員として病棟や外来患者さんへの診療を通して、将来どのような分野の医師にも必要な小児領域、特に外科疾患を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実践力を習得する。また、関連するプロフェッショナルリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法(制度)、EBMについて実践的に学ぶ。

2. 概要 (大まかな学習目標)

小児外科疾患の診療に関する基本的な知識と技能を習得するために、指導医を中心とした医療チームの一員として能動的に実習に取り組む。(1-1～1-2、2-1～2-6、3-7、5-1～5-4、6-1～6-2)

臨床実習の中で自ら情報を収集し、患者さんと親御さんのニーズ・問題点の抽出、整理、解釈を行い(臨床的推論)、解決法(診断、治療)を立案するための基本的訓練を行う(problem based learning; PBL)(1-1～6-2)

診療チームの日常診療に参加し、小児外科疾患の診察、検査、治療の実際を体験し、ポートフォリオを作成する。(1-1～1-2、2-1～2-5、4-1～4-7)

1) 病棟診療

各学生は2週間配属され、指導医の下、病棟の入院患者さんを毎日回診して、診療内容をカルテに記載する。指導医の監督のもとに医療面接、身体診察を行うとともに処置を見学して、問題を抽出し、作業仮説を立ててEBMに基づいた検証を繰り返す。臨床推論に基づいて、診断、鑑別に必要な検査を立案し、患者さんの状態を勘案して治療方針の選択を試みる。他科類診券、紹介状などの作成、症例検討会でのプレゼンテーション、患者・家族への説明への参加など、診療チームの一員として基本的な診療を実践的に学び、医師としてのプロフェッショナルリズムを身につけるために必要な知識、学習プロセスを身につける。(1-1～1-2、2-1～2-7、3-1～3-7、4-1～4-8)

2) 外来診療

外来診療への参加機会は手術や検査のない時間に限られるが、医療面接、身体診察を見学し、小児の特殊性を理解する。(2-1～2-7、3-1～3-3、3-5～3-6、4-1～4-2、4-6)

3) 各種検査・手術など治療への参加

診療チームの一員として各種検査、手術をはじめとする治療に参加あるいは見学しながら臨床推論・検査・手術の実際を経験し、検査成績の評価を自ら試みるとともに、治療(手術)の目的、妥当性について理解する。(3-1～3-3、3-5～3-6、4-1～4-7)

3. 詳細な学習目標・項目

上記1のねらい・概要を中心に実習をすすめるが、本診療科で経験し得る症候、病態、各種手技などの内容を下記に示す。

1) 症候・病態 臨床推論 (3-5、4-1~4-6)

(1) 腹痛 (2) 呼吸困難 (3) 発熱 (4) 悪心・嘔吐 (5) 食欲不振 (6) 嚥下障害 (7) 吐血・下血
(8) 便秘・下痢 (9) 腹部膨満 (10) 腫瘍 (11) 黄疸 (12) 脱水

2) 基本的臨床手技 (3-1~3-3、3-5、4-1~4-7)

(1) 体位変換、移送ができる (2) 皮膚消毒ができる (3) 静脈採血を見学する (4) 末梢静脈の血管確保を見学する (5) 中心静脈カテーテル挿入を見学する (6) 胃管の挿入と抜去を介助する (7) 尿道カテーテルの挿入と抜去を見学し、介助する (8) ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助する (9) 全身麻酔、局所麻酔、輸血を見学する (10) 診療録を作成する (11) 各種診断書・証明書の作成を見学する

3) 検査・治療手技 (3-1~3-3、4-1~4-7)

(1) 腹部の超音波検査を見学し、介助する。
(2) エックス線撮影、コンピューター断層撮影 (CT)、核磁気共鳴画像検査 (MRI)、核医学検査、内視鏡検査、直腸肛門内圧検査を見学し介助する。
(3) 無菌操作を実施できる。
(4) 手術や主義のための手洗いができる。
(5) 手術室におけるガウンテクニックができる。
(6) 基本的な抜糸ができる。
(7) 創の消毒やガーゼ交換ができる。
(8) 手術、術前・術中・術後管理を見学する。

4) プロフェッショナリズム、医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (制度)、EBM について (1-1~1-2、2-1~2-7、3-1~3-7、4-1~4-7、5-1~5-5)

(1) 各種検査・治療のインフォームドコンセントを見学する。
(2) 疾患の病態や疫学を理解する。
(3) インペアメント、ディスアビリティ、ハンディキャップを説明できる。
(4) 患児の生活環境などを総合的にみて診療計画を検討できる。
(5) 感染防止対策を説明できる。
(6) 身体障害者福祉法を概説できる。
(7) 各種診療ガイドラインなど必要な情報を ICT を活用して検索できる。
(8) 文献から得られた情報の批判的吟味ができる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

3年次「成長と発達」講義資料
標準小児外科学 (医学書院)
スタンダード小児外科手術 (メジカルビュー)
スタンダード小児内視鏡外科手術 (メジカルビュー)

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問 (実習中随時行われる質疑応答)、CC-EPOC 入力状況、ミニ CEX、レポート、出席で総合評価する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

基礎医学で学ぶ人体発生学、解剖学、生理学を復習しておくこと。

3年時に講義した成長と発達を復習しておくこと。

適宜、診療録を記載し、指導医によるフィードバックを確認して追記・訂正を行うこと。

実習終了後に自己評価表、臨床実習評価シート、レポートを医局秘書に提出する。

小児外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [8:15-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	オリエンテーション (8:15～) 朝回診 (8:20～) 手術 (9:00～) 夕回診 (16:00～) 抄読会・症例検討会 (16:30～17:30)
第2回 火曜日 [8:15-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00～) 小児科、産科との合同カンファランス (17:00～17:30)
第3回 水曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 手術 (9:00～) 夕回診 (16:00～)
第4回 木曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 検査 夕回診 (16:00～)
第5回 金曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 検査 医学医療総合講義 (14:20～)
第6回 月曜日 [8:15-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 手術 (9:00～) 夕回診 (16:00～) 抄読会・症例検討会 (16:30～17:30)
第7回 火曜日 [8:15-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00～) 小児科、産科との合同カンファランス (17:00～17:30)
第8回 水曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 手術 (9:00～) 夕回診 (16:00～)
第9回 木曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 検査 夕回診 (16:00～)
第10回 金曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 検査 医学医療総合講義 (14:20～)

分類：臨床医学V(CC1)
授業科目名：病理臨床実習 (Diagnostic and Anatomic Pathology)
対象学年：5年次必修
時間割コード：71643002-24

1. 主任教員

大森泰文 (教授、分子病態学・腫瘍病態学講座、6059)
後藤明輝 (教授、器官病態学講座、6062、オフィスアワー：水・木曜日全日(第二病理))

2. 担当教員

大森泰文 (教授、分子病態学・腫瘍病態学講座、6059)
後藤明輝 (教授、器官病態学講座、6062、オフィスアワー：水・木曜日全日(第二病理))
南條博 (病院教授、病理部、6182、オフィスアワー：通常は勤務時間帯)
吉田誠 (講師、器官病態学講座、6064、オフィスアワー：火・木・金曜日9-17時(第二病理医局))
廣嶋優子 (助教、病理部、6200)
馬越通信 (助教、器官病態学講座、6064)
鈴木麻弥 (助教、分子病態学・腫瘍病態学講座、6061)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

- ・実習を通じて病理診断学に対する理解を深める。
- ・関連するプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療法(医療制度)、ゲノム医療に対応する検体の扱い方について説明できる。

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

医師として最低限身につけるべき病理組織診断学を習得する。

病理示説は、旧第一病理と第二病理とが交互に担当し、各グループ毎に剖検例、生検例について検討する。(3-1~3-4, 4-1~4-7)

剖検例では臨床(主訴、徴候と症状、臨床検査成績、臨床経過、臨床診断、治療など)と病理(剖検材料の肉眼的所見、病理組織学的所見、特殊染色や免疫染色の適用など)との関連から疾病の本態、臨床診断の当否や治療効果の如何などについて検討を行う。(2-1~2-8, 3-1~3-7, 4-1~4-8)

生検例の場合、適格な病理診断に加え、手術適応や予後との関連についても検討する。(3-1~3-4, 4-1~4-8)

病理部においては手術組織における病変の読み方、切り出し方、術中迅速診の実際などについても習得する。(3-1~3-4, 4-1~4-8)

分子診断と分子標的治療(臨床腫瘍学の立場から)について理解する。(4-1~4-8, 5-1~5-5)

生命科学の講義・実習で得た知識を基に、診療で経験した病態の解析ができる。(1-1~1-2, 3-1~3-8, 4-1~4-8, 5-1~5-5)

患者や疾患の分析を基に、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。(3-1~3-7, 4-1~4-8, 5-1~5-5)

病理解剖、法理解剖(司法解剖、行政解剖、死因・身元調査法解剖、承諾解剖)を説明できる。(1-1~1-2)

病理解剖の医療における位置づけと法的事項、手続きを説明できる。(1-1~1-2)

医学における病理解剖の学術的重要性を理解する。(1-1~1-2, 6-1~6-2)

病理組織検査、細胞診検査、フローサイトメトリの意義を説明できる。(3-1~3-7, 4-1~4-8)

病理診断、細胞診の適切な検体の取扱い、標本作製及び診断過程が説明できる。(3-1~3-3, 4-1~4-6)

診断に必要な臨床情報の適切な提供法を説明できる。(2-1~2-8, 4-7~4-8)

疾患の病態や疫学を理解する。(3-1~3-7)

患者の入院診療録から臨床上の問題点を挙げて説明できる。(2-1~2-8, 4-1~4-8)

病理解剖症例の標本から病態の把握、疾患の診断ができる。(3-1～3-7, 4-1～4-8, 5-1～5-5)

臨床経過と病理解剖標本を総合して最終的な死因を類推できる。(5-1～5-5)

研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを説明できる。(1-1～1-2, 6-1～6-2)
生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。(1-1～1-2, 6-1～6-2)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

5. 成績評価の方法

レポート, 実習態度, 出席率, 積極性

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

・関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、EBM について説明できる。

偶数グループは分子病態学・腫瘍病態学講座(旧第一病理)が担当する。

奇数グループは器官病態学講座(旧第二病理)が担当する。

集合時間 分子病態学・腫瘍病態学講座-9:00 医局(内線 6061)

器官病態学講座-9:00 医局(内線 6064)

病理 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 1 回 副題 担当	月曜日 [9:00-17:00] 病理示説 講座スタッフ	病院病理部の業務の理解と診断過程への参加を体験する。
第 2 回 副題 担当	火曜日 [9:00-17:00] 病理示説 講座スタッフ	剖検例の供覧, 検討。病理解剖症例の臨床事項や検査データを検討し、病態を把握する。
第 3 回 副題 担当	水曜日 [9:00-17:00] 病理示説 講座スタッフ	剖検例の供覧, 検討。病理解剖症例の臨床事項や検査データを検討し、病態を把握する。
第 4 回 副題 担当	木曜日 [9:00-17:00] 病理示説 講座スタッフ	症例の病態についてまとめる。
第 5 回 副題 担当	金曜日 [9:00-14:00] 病理示説 講座スタッフ	症例の病態についてまとめる。病変についての形成試験を行う。

分類：臨床医学V(CC1)

授業科目名：臨床腫瘍学 臨床実習 (Clinical Oncology -principles & practice-, face to face) ーがん薬物療法の実際ー

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-25

1. 主任教員

柴田浩行 (教授、臨床腫瘍学講座、6262、オフィスアワー：17：00)

2. 担当教員

柴田浩行 (教授、臨床腫瘍学講座、6262、オフィスアワー：17：00)

福田耕二 (講師、臨床腫瘍学講座、6263、オフィスアワー：17：00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

医療行動科学、医の倫理、医療安全、エビデンス、医療制度を理解したうえで、以下の項目について、進行がん患者に対する治療の実際を体験し、必要な知識、技術を習得する (1-1, 1-2, 3-1~3-7, 4-1~4-8)。

1-1. 主訴からの診断推論を組み立てる、又はたどる (4-1~4-3)。

1-2. 疾患の病態や疫学を理解する (3-1~3-4)。

1-3. 腫瘍内科の治療の立案・実施に可能な範囲で参加する (4-1~4-3)。

1-4. 複数の臓器にまたがる問題を統合する視点を獲得する (3-1~3-3, 4-1~4-7)。

1-5. 基本的な内科的診察技能について学ぶ (4-1~4-7)。

1-6. 他科との連携、コンサルテーションについて理解する (4-7, 4-8)。

2. 実習内容・具体的到達目標・学修目標

2-1. 基本的臨床手技の目的、適応、禁忌、合併症と実施法について理解し、指導医の指導・監督の下で自ら実施する (4-1~4-7)。

2-2. 臨床推論：症候・病態ごとに頻度・重症度を考慮し、想定すべき鑑別診断を行う。鑑別診断を想定しながら必要な病歴聴取・身体診察を行う (4-1~4-7)。

2-3. 医師として求められる基本的な資質・能力を常に意識しながら、臨床実習を行う (1-1, 1-2, 2-1~2-7)。特に以下の点について重点的に学ぶ。

2-3-1. がん薬物療法の実施に際してのインフォームド・コンセントが取れる (1-1, 1-2, 2-1~2-7)。

2-3-2. 進行がん患者に対するコミュニケーション・スキルを習得する (2-1~2-8, 4-1)。

2-3-3. SPIKES プロトコールに基づく悪い知らせ (がんの告知) の伝え方ができるようになる (4-1)。

2-3-4. 外来化学療法のシステムについて理解する (レジメン管理、有害事象の管理) (2-5, 2-6, 4-4, 4-7)。

2-3-5. 化学療法における薬剤師、看護師とのチーム医療の実際を理解する (4-7)。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

新臨床腫瘍学 (南江堂、改訂第6版、2021年)

入門腫瘍内科学 (篠原出版新社、改訂第3版、2020年)

がん医療におけるコミュニケーション・スキル：悪い知らせをどう伝えるか (内富庸介・藤森麻衣子著、医学書院)

Cancer: Principles & Practice of Oncology, 9th edition (Wolters Kluwer/ Lippincott Williams & Wilkins)

5. 成績評価の方法

出席、ミニテストで習熟度を確認する。

学生は個別に入院患者を1名以上受け持つ。

毎朝のカンファランスで受け持ち患者の病状の報告を行う。

その際に、随時、口頭試問を課す。

外来新患を受け持ち、病歴を要約する。翌日の朝のカンファランスで治療方針を含むプレゼンテーションする。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

午前 8:00 に第二病棟 6 階ナースステーション前に集合。

教科書や指定参考書で予習を行い、授業に臨むことをお奨めします。

授 業 展 開	授 業 内 容
<p>第1回 月曜日 [8:00-17:00]</p> <p>副題 がん薬物療法の現場を体験する</p> <p>担当 柴田、福田</p>	<p>1) 進行がん患者の診療 (コミュニケーション、診察、検査、治療)</p> <p>1. 抗腫瘍薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。</p> <p>2. 分子標的薬の薬理作用と有害事象を説明できる。</p> <p>2) 進行がん患者の初診 (告知、問診、病歴聴取、治療の説明 (IC))</p> <p>以下のポイントに留意する</p> <p>1. 問題の同定から治療やマネジメントに至るプロセスを列挙できる。</p> <p>2. 情報収集には医療面接、身体診察、検査の3つの方法があることを理解する。</p> <p>3. 診断仮説を想起するためには、解剖学、病理学、生理学、生化学等の基礎医学や疾患頻度が重要であることを理解する。</p> <p>4. 診断仮説を検証するために、診断仮説に基づいた情報収集を実施できる。</p> <p>5. 状況に応じ、診断プロセスと治療やマネジメントが並行して行われることを理解する。</p> <p>6. 治療やマネジメントに関して意思決定するために、患者側と情報共有や折り合わせをする。</p> <p>7. コンサルテーションや紹介の必要な状況を説明できる。</p> <p>3) 外来患者の診療 (外来化学療法とエマージェンシー)</p> <p>1. 血算、凝固・線溶系検査、尿・糞便検査、生化学検査の目的と適応を理解し結果を解釈する。 2. 染色体・遺伝子検査の目的と適応を理解し、結果を解釈する。</p> <p>3. 病理組織検査、細胞診検査、フローサイトメトリーの意義を理解し、結果を解釈する。</p> <p>・下記の症状がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>また、どのような病態であるのかの臨床推論を行う。</p> <p>1. 発熱、2. 全身倦怠感、3. 食思不振、4. 脱水、5. 発疹、6. 咳・痰、7. 血痰・喀血、8. 呼吸困難、9. 胸水、10. 腹痛、11. 悪心・嘔吐、12. 吐血・下血、13. 便秘・下痢、14. 黄疸、15. 腹部膨隆(腹水)・腫瘤、16. 貧血、17. リンパ節腫脹、18. 尿量・排尿の異常、19. 血尿・タンパク尿、20. 頭痛、21. 運動麻痺・筋力低下、22. 腰背部痛。</p> <p>4) 進行がん患者の治療に必要な知識と手技</p> <p>1. 経静脈栄養と経管・経腸栄養の適応、方法と合併症、長期投与時の注意事項を説明できる。</p> <p>2. 血液製剤及び血漿分画製剤の種類と適応を説明できる。</p> <p>3. リハビリテーション・チームの構成を理解し、がんリハにおける医師の役割を説明できる。</p> <p>4. 緩和ケアを概説できる。</p> <p>5. 全人的苦痛を説明できる。</p> <p>6. 緩和ケアにおいて頻度の高い身体的苦痛、心理社会的苦痛を列挙することができる。</p> <p>7. 疼痛のアセスメント、疼痛緩和の薬物療法、癌疼痛治療法を説明できる。</p> <p>8. オピオイドの適応と課題を説明できる。</p> <p>9. 緩和ケアにおける患者・家族の心理を説明できる。</p>
<p>第2回 火曜日 [8:00-17:00]</p> <p>副題 がん薬物療法の現場を体験する</p> <p>担当 柴田、福田</p>	<p>1) 進行がん患者の診療 (コミュニケーション、診察、検査、治療)</p> <p>2) 進行がん患者の初診 (告知、問診、病歴聴取、治療の説明 (IC))</p> <p>3) 外来患者の診療 (外来化学療法とエマージェンシー)</p> <p>1. 適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。</p> <p>2. 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。</p> <p>3. 病歴 (主訴、現病歴、常用薬、アレルギー歴、既往歴、家族歴、嗜好、生活習慣、社会歴・職業歴、生活環境、家庭環境、海外渡航歴、システムレビュー) を聴き取り、情報を取捨選択し整理できる。</p> <p>4. 診察時に患者に適切な体位を説明できる。</p> <p>5. 診察で得た所見、診断、必要な検査を上級医に説明、報告できる。</p> <p>適切に患者の情報を収集し、問題志向型医療記録 POMR を作成できる。</p> <p>6. 診療経過を主観的所見・客観的所見・評価・計画 SOAP で記載できる。</p> <p>7. 症例を適切に要約する習慣を身に付け、状況に応じて提示できる。</p> <p>8. プライバシー保護とセキュリティーに充分配慮できる。</p>

臨床腫瘍学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
<p>第3回 水曜日 [8:00-17:00] 副題 がん薬物療法の現場を体験する 担当 柴田、福田</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 進行がん患者の診療 (コミュニケーション、診察、検査、治療) 2) 進行がん患者の初診 (告知、問診、病歴聴取、治療の説明 (IC)) 3) 外来患者の診療 (外来化学療法とエマージェンシー) <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の立場を尊重し、信頼を得ることができる。 2. 患者の安全を重視し、有害事象が生じた場合は適切に対応ができる。 3. 患者のプライバシー、羞恥心、苦痛に配慮し、個人情報等を守秘できる。 4. 感染を予防するため、診察前後の標準予防策ができる。 5. 身だしなみ、言葉遣い及び態度等に気を配ることができる。 6. 患者の状態から診察が可能かどうかを判断し、状態に応じた診察ができる。 7. 身長・体重を測定し、body mass index の算出、栄養状態を評価できる。 8. 上腕で触診、聴診法により血圧を測定できる。 9. 両側の橈骨動脈で脈拍を診察できる。 10. 呼吸数を測定し、呼吸の異常の有無を確認できる。 11. 腋窩で体温を測定できる。 12. 下肢の動脈の触診等、下腿の血圧測定 (触診法)、大腿の血圧測定 (聴診法) を実施できる。 13. 7 全身の外観 (体型、栄養、姿勢、歩行、顔貌、皮膚、発声) を評価できる。 14. 眼 (視野、瞳孔、対光反射、眼球運動・突出、結膜) の診察ができる。 15. 頭頸部リンパ節の診察ができる。 16. 胸部の視診、触診、打診ができる。 17. 呼吸音と副雑音の聴診ができる。 18. 腹部の視診、聴診ができる。 19. 圧痛、腹膜刺激徴候、筋性防御の有無を判断できる。 20. 腹水の有無を判断できる。 21. 腸雑音、血管雑音の聴診ができる。
<p>第4回 木曜日 [8:00-17:00] 副題 がん薬物療法の現場を体験する 担当 柴田、福田</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 進行がん患者の治療に必要な手技 <ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚消毒を実施できる。 2. 静脈採血をシミュレーターで実施できる。 3. 手指衛生等の標準予防策 (standard precautions) を実施できる。 4. 誘導心電図を記録できる。 5. 経皮的酸素飽和度を測定できる。
<p>第5回 金曜日 [8:00-17:00] 副題 がん薬物療法の現場を体験する 担当 柴田、福田</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 進行がん患者の治療に必要な手技の実習 <ol style="list-style-type: none"> 1. 血管穿刺のシミュレータを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。 2. 体位交換、移送ができる。 3. 皮膚消毒ができる。 4. 外用薬の貼付・塗布ができる 5. 静脈採血を実施 6. 末梢静脈の血管確保を実施できる。 7. 中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助する。 8. ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助する。 9. 注射 (皮内、皮下、筋肉、静脈内) を実施できる。 10. 診療録 (カルテ) を作成する。 2) 14:20～医学医療総合講義

分類：臨床医学 V (CC1)

授業科目名：薬剤学 臨床実習－薬物治療－ (Clinical Practice in Pharmacy)

対象学年：5年次 必修

時間割コード：71643002-26

1. 主任教員

赤嶺由美子 (講師、薬剤部、6462)

2. 担当教員

赤嶺由美子 (講師、薬剤部、6462)

三浦昌朋 (教授、薬物動態学講座、6439)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

- ・薬剤部が行っている業務全般を理解すると共に、チーム医療の一員としての医師のあり方を身につける。
- ・関連するプロフェッショナリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法 (薬機法)、EBM について実践的に学ぶ。

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

- 1) 処方箋交付から調剤までの流れおよび調剤過誤防止対策を説明できる。(3-5～3-7, 4-4～4-8)
- 2) 注射薬処方箋交付から個人別注射セットおよび監査時の注意点を説明できる。(3-5～3-7, 4-4～4-8)
- 3) 注射抗がん剤処方方のレジメン管理におけるメリットとデメリットを説明できる。(3-5～3-7, 4-4～4-8)
- 4) 麻薬・向精神薬の管理方法を説明できる。(3-5～3-7, 4-4～4-8)
- 5) 高カロリー輸液の調製に必要な知識と技術および院内製剤の必要性について説明できる。(3-5～3-7, 4-4～4-8)
- 6) チーム医療の一員として良好なコミュニケーションを実践できる。(2-1～2-8)
- 7) 医療チームの構成や各構成員の役割分担と連携・責任体制を説明し、チームの一員として参加できる。(2-1～2-8, 4-1～4-8, 6-1～6-2)
- 8) 関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、医療安全、医療法 (薬機法)、EBM について実践修得する。(1-1～1-2, 3-1～3-7, 4-1～4-6, 5-1～5-5)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

なし

5. 成績評価の方法

CC-EPOC 入力状況、態度、レポート、出席

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

授業時間外の学習内容：到達目標や実習内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。

薬剤学 臨床実習－薬物治療－

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [] 副題 担当	
第2回 火曜日 [] 副題 担当	
第3回 水曜日 [] 副題 担当	
第4回 木曜日 [] 副題 担当	
第5回 金曜日 [] 副題 担当	
第6回 月曜日 [] 副題 担当	
第7回 火曜日 [] 副題 担当	
第8回 水曜日 [] 副題 担当	
第9回 木曜日 [] 副題 担当	
第10回 金曜日 [8:30-13:45] 副題 薬剤部臨床実習 担当 集合場所：薬剤部部員室 赤嶺由美子	<p>1. 調剤業務の実践 処方オーダーリングシステム、散剤、錠剤、カプセル剤、外用剤の調剤を経験し、調剤におけるリスクマネジメントを具体的に学習する。</p> <p>2. 薬品管理と注射薬調剤業務の実際 薬品の受け払い経路、発注システム、採用と削除、血液製剤管理簿の作成と保管、抗がん剤レジメンの運用方法および注射個人別セットの実際を学ぶ。</p> <p>3. 麻薬管理業務の実際 麻薬および向精神薬取締法のもと、麻薬・向精神薬の調剤、その記録、麻薬の廃棄方法、麻薬の事故届けがどのように行われているかを学習する。</p> <p>4. 製剤・高カロリー輸液調製業務の実際 各種滅菌法、院内製剤の種類とその意義、高カロリー輸液の調製法を実習し、体得する。</p> <p>5. チーム医療の実践 医療チームの構成員として、医師・薬剤師の役割を把握する。</p>

分類：臨床医学V(CC1)

授業科目名：医療情報学 臨床実習 (Medical Informatics) -病院情報システムの理解-

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-27

1. 主任教員

片平 昌幸 (准教授、医療情報学講座 (基礎棟 1F)、6095)

2. 担当教員

片平 昌幸 (准教授、医療情報学講座 (基礎棟 1F)、6095)

大佐賀 敦 (准教授、医療情報学講座 (附属病院第1病棟 B1F)、6422)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい (大まかな全体目標)

病院情報システムの基本的知識や注意事項、技術・社会・法的背景を学ぶとともに、診療記録の真正性担保をはじめとする電子保存の実現方法を実際の病院情報システム (電子カルテ) を操作し、カルテ記載および処方・放射線検査等のオーダー作成を通して学習することで、医療情報の電子化や電子カルテをはじめとする病院情報システムに対する理解を深める。また、関連する医療倫理、医療安全、法的制度について、実践的に学ぶ。

2. 概要 (大まかな学修目標 (項目))

- ・病院情報システムに関する注意事項や技術・社会・法的背景を踏まえた、診療情報の取り扱いができる。(1-1~1-2, 3-5, 3-7, 4-2, 4-5, 5-3)
- ・附属病院の情報システム操作研修環境を用いて、カルテ記載および処方・検査等のオーダー作成ができる。(1-1~1-2, 2-4, 3-3, 3-5, 4-2~4-3, 4-5)
- ・電子化された診療記録の管理運営の実際を、本院病院情報システムサーバ室の実設備を元に理解する。(1-1, 3-7, 5-3)

3. (詳細な) 学修目標・項目

上記1. ねらい, 2. 概要を中心に実習を行う。特に本実習では、本院病院情報システムと同機能の操作研修環境を各自が実際に操作し、カルテ記載に加えて、医師権限による処方・検査等のオーダーの作成を行うことで、記録記載と同時に情報システムによる各種チェック機能の実際について体験し、医療安全に関する理解を深める。また、実際に作成した記録を元に、電子記録に必要な法的要件について理解する。(1-1~1-2, 2-4, 3-3, 3-5, 3-7, 4-2~4-3, 4-5, 5-3)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

医療情報第7版 医療情報システム編 篠原出版新社

5. 成績評価の方法

実習態度、レポート、出席により総合的に評価します。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

実習前には、4年次講義「診療情報」で説明する本院病院情報システムの利用方法を再度確認してください。

実習日は9:00に附属病院第1病棟地下1Fの医療情報部へ集合して下さい。実端末を操作しながら実習を行います。

月曜が休日の場合は、原則として火曜に変更となります。(都合により他の曜日に変更となる場合は、事前に連絡しますので、指示に従ってください。)

実習後は、課題レポートの内容を自ら調べて学習し、実習での内容の理解を深めてください。

医療情報学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [9:00 - 17:00] 副題 病院情報システムの理解 担当 大佐賀・片平	講義：医療現場で利用されている病院情報システムの実際についての講義 演習：本院病院情報システムの操作研修環境による演習とサーバ室見学・解説 総括：システムの応用範囲と課題，注意点等についてのディスカッション 課題：課題レポートの作成と評価

分類：臨床医学V(CC1)

授業科目名：歯科口腔外科学 臨床実習 (Dentistry & Oral Surgery)

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-28

1. 主任教員

福田 雅幸 (病院教授、歯科口腔外科、6188、オフィスアワー：月～金 / 16:00～17:00)

2. 担当教員

福田 雅幸 (病院教授、歯科口腔外科、6188、オフィスアワー：月～金 / 16:00～17:00)

高野 裕史 (病院准教授、歯科口腔外科、6188、オフィスアワー：月～金 / 16:00～17:00)

五十嵐秀光 (助教、歯科口腔外科、6188、オフィスアワー：月～金 / 16:00～17:00)

今野 泰典 (助教、歯科口腔外科、6188、オフィスアワー：月～金 / 16:00～17:00)

福地 峰世 (助教、歯科口腔外科、6188、オフィスアワー：月～金 / 16:00～17:00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

ねらい

将来医師として必要な歯科口腔外科領域の診療能力について学び、歯科口腔外科医のイメージを獲得する。また、関連するプロフェッショナルリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法 (制度)、EBM 等について学ぶ。

講義内容・具体的到達目標・学修目標

- 1) 口腔および顎関節を含めた口腔周囲の診察ができる。(3-1～3-2)
- 2) 歯科口腔外科領域の画像検査を説明できる。(3-3, 3-4)
- 3) 口腔ケアに関するチーム医療の概念を説明できる。(3-6, 4-7～4-8)
- 4) 歯や歯周組織に起因する炎症の診断と治療を説明できる。(3-2～3-3, 4-2～4-3)
- 5) 口腔顎顔面外傷の診断と治療を説明できる。(3-2～3-3, 4-2～4-3)
- 6) 顎口腔領域の腫瘍や嚢胞の診断と治療を説明できる。(3-2～3-3, 4-2～4-3)
- 7) 顎関節症の概要を説明できる。(3-1～3-3)
- 8) 顎変形症の概要を説明できる。(3-1～3-3)
- 9) 睡眠時無呼吸症候群の治療に用いる口腔内装置を説明できる。(3-2～3-3)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

教科書：指定しない

参考書：「口の中がわかる ビジュアル 歯科口腔科学読本」

全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議 監修、クインテッセンス出版 2017.

「医師・歯科医師のための口腔診療必携」高戸毅 編、金原出版 2010.

5. 成績評価の方法

講義・実習終了後のレポートと出席点で評価する。

レポート (60 点) + 出席点 (40 点) を合わせた 100 点満点で、60 点以上を合格とする。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

基本的な注意事項は他科と同様である。

<集合時間> 午前 8:45 / 午後 13:30

<集合場所> 歯科口腔外科病棟 (第1病棟1階) スタッフステーション前

歯科口腔外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [] 副題 担当	(臨床腫瘍学講座)
第2回 火曜日 [] 副題 担当	(臨床腫瘍学講座)
第3回 水曜日 [] 副題 担当	(臨床腫瘍学講座)
第4回 木曜日 [] 副題 担当	(臨床腫瘍学講座)
第5回 金曜日 [] 副題 担当	(臨床腫瘍学講座)
第6回 月曜日 [] 副題 担当	(医療情報)
第7回 火曜日 [] 副題 担当	(予備日)
第8回 水曜日 [] 副題 担当	(輸血部)
第9回 木曜日 [8:45 - 17:00] 副題 担当 歯科口腔外科実習 高野裕史・五十嵐秀光・今野泰典・福地峰世	午前 (8:45～) 病棟オリエンテーション 病棟処置見学 本日の手術の説明 手術見学 午後 (13:30～) 外来オリエンテーション 周術期口腔機能管理について (口腔の診察、口腔ケア) 外来手術見学 手術がない場合はミニレクチャーや相互実習
第10回 金曜日 [] 副題 担当	(薬剤部)

分 類：臨床医学Ⅴ(CC1)

授業科目名：輸血学 臨床実習 (Transfusion Medicine)

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-29

1. 主任教員

高橋直人 (教授、輸血・細胞治療部、血液・腎臓・膠原病内科、6116、オフィスアワー：8:30-17:00)

2. 担当教員

高橋直人 (教授、輸血・細胞治療部、血液・腎臓・膠原病内科、6116、オフィスアワー：8:30-17:00)

奈良美保 (講師、輸血・細胞治療部、6313、オフィスアワー：8:30-17:00)

佐藤郁恵 (、輸血・細胞治療部、6313、オフィスアワー：8:30-17:00)

熊谷美香子 (、輸血・細胞治療部、6313、オフィスアワー：8:30-17:00)

佐々木綾子 (、輸血・細胞治療部、6313、オフィスアワー：8:30-17:00)

能登谷武 (、輸血・細胞治療部、6313、オフィスアワー：8:30-17:00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要

輸血医療に必要な知識を身に付け、根拠に基づいた医療を基盤に幅広い病態に対応する。(1-1)

輸血医療に関わる全ての人々の役割を理解し、連携する。(1-2,2-5~6)

医療倫理に則り、患者及び医療者にとって良質で医療安全に配慮した輸血医療を提供する。(4-6~7)

2. ねらい

自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決するための能力を獲得する。(5-1)

輸血医療チームの構成員として相互の尊重のもとに適切な行動をとる。(2-5~7)

輸血医療ではインシデントを含む輸血過誤が日常的に起こる可能性があることを認識し、過去の事例に学び、事故を防止して患者の安全性確保を最優先することにより、信頼される医療を提供しなければならないことを理解する。(4-3~7)

3. 学修目標

自分に必要な課題を発見し、重要性に照らして解決できる。(1-1~2)

医療チームの構成や各構成員(とくに臨床検査技師)の役割分担と連携・責任体制を説明し、チームの一員として参加できる。(1-1~2, 2-4~7)

医療上の事故を防止するためには、個人の注意(ヒューマンエラーの防止)はもとより、組織的なりスク管理(制度・組織エラーの防止)が重要であることを説明できる。(2-4~7, 4-3~7)

4. 講義内容・具体的到達目標(4-6~7)

静脈採血を実施して、血液型判定を実施できる。

血液型検査、不規則抗体検査、交差適合試験を説明できる。

血液製剤・血漿分画製剤の種類と適応を説明できる。

輸血副反応、不適合輸血の防止手順を説明できる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

「輸血療法の実施に関する指針」「血液製剤の使用指針」(厚生労働省)

臨床輸血ガイド(文光堂)

よくわかる輸血学(羊土社)

輸血学(中外医学社)

5. 成績評価の方法

出席状況、検査実習の態度、口頭試問

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

健康な学生は献血を体験してみましょう。

輸血学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [] 副題 担当	
第 2 回 火曜日 [] 副題 担当	
第 3 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 奈良美保、臨床検査技師	オリエンテーション 演習問題 採血実習 検査実習
第 4 回 木曜日 [] 副題 担当	
第 5 回 金曜日 [] 副題 担当	
第 6 回 月曜日 [] 副題 担当	
第 7 回 火曜日 [] 副題 担当	
第 8 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 奈良美保、臨床検査技師	オリエンテーション 演習問題 採血実習 検査実習
第 9 回 木曜日 [] 副題 担当	
第 10 回 金曜日 [] 副題 担当	

分類：臨床医学V

授業科目名：医学医療総合講義II (Integrated Clinical Clerkship Conference 2) – クリニカルクラークシップ統合カンファレンスII

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643003

開設学期等：第1週～第18週

単位数：2

1. 主任教員

長谷川仁志 (教授、医学教育学講座、6067、オフィスアワー：要アポイント)

2. 担当教員

長谷川仁志 (教授、医学教育学講座、6067、オフィスアワー：要アポイント)

各回の担当教員 ()

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

ねらい

CC2 および卒後臨床研修の充実に向けて、医学生時代に経験すべき何科の医師としても必修の主要症候・病態に対する臨床推論および基本対応、総合的な判断力の質を、CC1の期間中に向上することを目標とする。

CC1 期間中の毎週金曜日 14時20分から大講義室に集まり、臨床実習班ごとに着席して行われるチーム基盤型カンファレンス。

下記の主要41症候のうち、その週に割りあてられた症候を有する症例を担当教員が提示し、その都度、医療面接、身体診察、一般検査などの臨床推論の過程や基本対応を個人や実習班ごとに考えながら進める。

これにより、個人および臨床実習班ごとの症例検討に関するモチベーションを高めるとともに、各科臨床実習中に必ずしもすべて経験できない主要症候に対する医療面接、身体診察、鑑別診断、各種検査、結果解釈、治療選択、EBMの批判的吟味、病状説明(医師・患者・家族とのコミュニケーション、)等の他、下記の2.基本診療に関連する重要事項について、CC2や卒後臨床実習の際に知っておくべき一般的なピットフォールを含めて経験保証する。

この際、常にプロフェッショナリズム、医の倫理、医療行動科学、医療安全、EBM、医療法(制度)についても意識して学び経験値を高める。

学修目標

1. 主要41症候の臨床推論(医療面接、身体診察、各種検査の適応と解釈)と、初期対応・基本的対応ができる。

(1-1～1-2、2-1～2-7、3-1～3-6、4-1～4-7、5-1～5-3)

- 1) 頭痛
- 2) 胸痛
- 3) 腹痛
- 4) 背部痛
- 5) 腰痛
- 6) 呼吸困難
- 7) 咳・痰・血痰・咯血
- 8) 動悸
- 9) めまい
- 10) 失神
- 11) 意識障害
- 12) 痙攣
- 13) 運動麻痺・筋力低下
- 14) しびれ

- 15) 構語障害
- 16) 視力障害
- 17) 複視
- 18) 不随運動・振戦
- 19) ショック
- 20) 発熱
- 21) 全身倦怠感
- 22) 貧血
- 23) リンパ節腫脹
- 24) 関節痛・関節腫脹
- 25) 悪心・嘔吐・食欲不振
- 26) 嚥下障害
- 27) 体重減少・体重増加
- 28) 発疹
- 29) 胸水
- 30) 浮腫
- 31) 尿量・排尿の異常
- 32) 血尿・タンパク尿
- 33) 黄疸
- 34) 吐血・下血
- 35) 便秘・下痢
- 36) 腹部膨隆（含・腹水）・腫瘤
- 37) 月経異常
- 38) 不安・抑うつ
- 39) せん妄
- 40) 物忘れ・認知能の障害
- 41) 外傷・熱傷

2. 基本診療に関連する重要事項

症例ベースの課題を検討・解決していく過程で、下記の基本診療に関連する重要事項の経験値を高めるとともに、その際の医療行動科学、倫理的な行動について考える。

(1-1~1-2、2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8、5-1~5-5、6-1~6-2)

- 1) 外来診療のポイント
- 2) 各科検査について
- 3) 各科手術について
- 4) 医療安全
- 5) 患者・家族への説明
- 6) 文献・情報ネット検索
- 7) EBM の適応（エビデンスの批判的吟味）
- 8) 輸液
- 9) 感染症・抗生剤
- 10) 検査・術前後リスク評価・管理
- 11) 抗血栓薬
- 12) 緩和ケア、ターミナルケア、ACP(Advance Care Planning)
- 13) 外来化学療法
- 14) 地域包括ケア、在宅医療

- 15) 医療福祉、関係書類
- 16) ポリファーマシー
- 17) フレイル、サルコペニア
- 18) トラベルメディスン
- 19) 外国人患者への対応（含・疾患の国際化）
- 20) 飛行機内、乗り物内等での対応
- 21) 災害医療
- 22) 困難な患者
- 23) 看取り（終末期、予期せぬ急変）
- 24) 病理解剖
- 25) 死亡診断書、死体検案書
- 26) 法医解剖

本科目は、各分野専門的な実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

内科診断学（医学書院）、聞く技術（日経 BP 社）、

5. 成績評価の方法

出席態度、学習態度（個人・チーム）。

CC1 終了後の 5 年次夏の卒業中間統一試験を中心に、CC2 終了後の 6 年次秋の卒業統一試験および卒業時 PCC-OSCE 自学課題の試験範囲にもなる。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

主要症候や病態への対応について、初診外来、外来診療、救急、入院中、検査前後、手術前・後の対応など、日常的な重要症例ベースの場面設定で実践的に学習します。各回の主要症候の臨床推論について復習していただくこと。当日は、臨床実習班ごとに指定された席に着席すること。

日程および各回の担当教員等の詳細については後日、お知らせします。

講義内容・具体的到達目標・学修目標					
開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所

分類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：法医学 臨床実習 (Forensic Medicine) - 法医解剖実習 -

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-01

1. 主任教員

美作宗太郎 (教授、法医学講座、6092、オフィスアワー：随時 (要アポイント))

2. 担当教員

美作宗太郎 (教授、法医学講座、6092、オフィスアワー：随時 (要アポイント))

大谷真紀 (助教、法医学講座、6093、オフィスアワー：随時 (要アポイント))

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい

法医解剖を通じて、将来どのような分野の医師になっても役立つ基礎医学、臨床医学、社会医学の知識を修得する。また、関連するプロフェッショナリズム、医療行動科学、医の倫理、医療安全、医療法 (医療制度)、EBM について実践的に学ぶ。

2. 概要

・法医解剖の現場に立ち会い、法医解剖執刀医を中心としたチームの一員として、警察官等の司法関係者ととも死因究明の実習に取り組む。(1-1, 2-1~2-8)

・法医解剖、CT 画像、諸検査の結果から死因を診断するプロセスを学ぶ。(3-1~3-3)

・警察官等の司法関係者に医学知識を分かりやすく伝える訓練を行う。(1-1, 2-1~2-8)

・法医解剖症例の解剖所見や死因判断のプロセスについて、法医 CT カンファレンス等で分かりやすく発表する技術を学ぶ。(1-1, 2-1~2-8, 3-1~3-3, 5-1~5-5)

・法医解剖症例を通じて、死因究明の枠を越えて死を見つめ直すとともに、法医診断における公平性・透明性の確保、守秘義務の厳守、死者や家族を取り巻く環境の検討、家族や警察官に死因をどのように説明するか、どうすれば死を防ぐことができたのか、法医解剖・検査における倫理的問題、医療関連死を防ぐ工夫、死を取り巻く社会のシステム、死因判断のためのエビデンス等について学ぶ。(1-1, 2-1~2-8, 3-1~3-7, 5-1~5-5)

3. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

1) 司法解剖・承諾解剖・死体検案において、所見を説明し、死因を診断できる。

2) 死後 CT 画像を読影して、所見を説明できる。

3) 死因診断した結果に基づき、死亡診断書・死体検案書等の書類を適切に作成できる。

4) 法医学領域に関連するプロフェッショナリズム (法医診断における公平性・透明性の確保、守秘義務の厳守等) について説明できる。

5) 法医学領域に関連する医療行動科学 (死者や家族を取り巻く環境の検討、家族や警察官に死因をどのように説明するか、どうすれば死を防ぐことができたのか等) について説明できる。

6) 法医学領域に関連する医療倫理 (法医解剖・検査における倫理的問題等) について説明できる。

7) 法医学領域に関連する医療安全 (医療関連死を防ぐ工夫等) について説明できる。

8) 法医学領域に関連する医療法 (医療制度) (死を取り巻く社会のシステム等) について説明できる。

9) 法医学領域に関連する EBM (死因判断のためのエビデンス等) について説明できる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

・池田典昭・木下博之編「標準法医学 第8版」医学書院 (2022年)

- ・福島弘文監修「法医学 改訂4版」南山堂（2022年）
- ・高取健彦監修「NEW エssenシャル法医学 第6版」医歯薬出版（2019年）
- ・美作宗太郎監修「臨床法医学入門」明石書店（2017年）

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問、その他（法医解剖参加率、カンファレンス等への出席など）

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ・臨床実習と同様に守秘義務の厳守が求められる。
- ・法医解剖の補助や諸検査の際は常に感染防止に注意を払うこと。
- ・社会人としての礼儀とマナーを身につけ、特に警察官等の学外者への挨拶は欠かさず、言葉遣いに注意すること。
- ・実習場所：法医学講座ゼミナール室、法医解剖室、法医CT室など
- ・法医解剖は夜間・休日に行われることもある。常時呼び出しをするので、期間中に不在になる日がある場合は事前に相談すること。
- ・特に指示がない場合は、初日は午前9時に法医学講座ゼミナール室に集合して、法医解剖に関する説明を受けること。

法医学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 美作宗太郎・大谷真紀	<ul style="list-style-type: none"> ・法医解剖に関する説明を受ける。 ・法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 ・法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。 ・警察官等の司法関係者に医学知識を分かりやすく伝える訓練を行う。 ・法医解剖症例の解剖所見や死因判断のプロセスについて、法医 CT カンファレンス等で分かりやすく発表する技術を学ぶ。
第 2 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 美作宗太郎・大谷真紀	<ul style="list-style-type: none"> ・法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 ・法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。 ・警察官等の司法関係者に医学知識を分かりやすく伝える訓練を行う。 ・法医解剖症例の解剖所見や死因判断のプロセスについて、法医 CT カンファレンス等で分かりやすく発表する技術を学ぶ。
第 3 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 美作宗太郎・大谷真紀	<ul style="list-style-type: none"> ・法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 ・法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。 ・警察官等の司法関係者に医学知識を分かりやすく伝える訓練を行う。 ・法医解剖症例の解剖所見や死因判断のプロセスについて、法医 CT カンファレンス等で分かりやすく発表する技術を学ぶ。 ・週によっては 18 時から法医 CT カンファレンスを行うことがある。
第 4 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 美作宗太郎・大谷真紀	<ul style="list-style-type: none"> ・法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 ・法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。 ・警察官等の司法関係者に医学知識を分かりやすく伝える訓練を行う。 ・法医解剖症例の解剖所見や死因判断のプロセスについて、法医 CT カンファレンス等で分かりやすく発表する技術を学ぶ。
第 5 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 美作宗太郎・大谷真紀	<ul style="list-style-type: none"> ・法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 ・法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。 ・警察官等の司法関係者に医学知識を分かりやすく伝える訓練を行う。 ・法医解剖症例の解剖所見や死因判断のプロセスについて、法医 CT カンファレンス等で分かりやすく発表する技術を学ぶ。
第 6 回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 美作宗太郎・大谷真紀	法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。
第 7 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 美作宗太郎・大谷真紀	法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。
第 8 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 美作宗太郎・大谷真紀	法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。 週によっては 18 時から法医 CT カンファレンスを行うことがある。
第 9 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 美作宗太郎・大谷真紀	法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。
第 10 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 美作宗太郎・大谷真紀	法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。

法医学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 24 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 美作宗太郎・大谷真紀	法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。
第 25 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 法医解剖または関連検査 担当 美作宗太郎・大谷真紀	法医解剖や関連検査などの法医実務が行われる時間は、原則として全ての症例において補助として参加する。 法医解剖では、死因に至るプロセスを徹底的に学び、死亡診断書・死体検案書の記載を復習する。

分類：臨床医学 VI (CC2)
授業科目名：消化器内科学 臨床実習 (Gastroenterology)
対象学年：5年次選択
時間割コード：71644006-02

1. 主任教員

飯島克則 (教授、消化器内科、6573)

2. 担当教員

飯島克則 (教授、消化器内科、6573)
後藤隆 (准教授、消化器内科、6104)
松橋保 (准教授、消化器内科、6104)
佐藤亘 (特任講師、消化器内科、6104)
小泉重仁 (講師、消化器内科、6104)
下平陽介 (助教、消化器内科、6104)
千葉充 (助教、消化器内科、6104)
高橋健一 (助教、消化器内科、6104)
南慎一郎 (特任助教、消化器内科、6104)
福田翔 (特任助教、消化器内科、6104)
渡邊健太 (特任助教、消化器内科、6104)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 診療参加型臨床実習 CC 2 の概要・ねらい

CC1での学習を踏まえ、チームの一員として病棟や外来患者さんへの診療を通して、将来、どのような分野の医師にも必要な内科領域、特に消化器内科を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実践力を習得する。プロフェッショナルリズム、倫理、医療行動学、医療安全、医療法(制度)、EBMについて実践的に学ぶ。(1-1,1-2,2-1,2-2,2-3,2-4,2-5,2-6,4-1,4-2,4-3,4-4,4-5,4-6,4-7)

1) 病棟診療

各学生は各診療チームに配属され、指導医のもと数名の病棟患者さんを担当する。指導医の監督のもとに、日々、病棟担当患者さんの回診を行い、医療面接、身体診察による課題抽出・文献検索による臨床推論、検査・治療方針の提案、日々の診療内容や他科頼診券、ウイークリーサマリー、紹介状などカルテへの記載(指導医の確認必須)、カンファレンス時の各種プレゼンテーション、患者・家族への説明への参加など、チームの一員としてEBMに基づいた基本的な診療を実践的に学ぶ。指導医とともに内視鏡検査や治療、ラジオ波焼灼療法等の見学、介助等に積極的に参加する。

2) 外来診療、各種検査、治療への参加

このような病棟の担当患者診療の合間には、外来の新患、再来患者さんの診療や各種検査、治療に参加しながら、診療チームの一員として臨床推論・検査・治療の過程を実践的に学ぶ。

2. 学修目標

上記1の概要・ねらいを中心に実習を進めるが、本診療科で特に経験保証する症候、病態、各種手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態 臨床推論(3-5,4-1,4-2,4-3,4-4,4-5,4-6)

(1) 黄疸(2) 腹痛(3) 悪心・嘔吐(4) 食思不振(5) 便秘・下痢・血便(6) 吐血・下血(7) 腹部膨隆(腹水を含む)・膨満・腫瘍

2) 基本的臨床手技(3-1,3-2,3-3,4-1,4-2,4-3,4-4,4-5,4-6,4-7)

(1) 体位交換、移送ができる (2) 皮膚消毒ができる (3) 静脈採血を実施できる (4) 胃管の挿入と抜去ができる (5) 尿道カテーテルの挿入と抜去を実施できる (6) 注射（皮内、皮下、筋肉、静脈内）を実施できる (7) 末梢静脈の血管確保を実施できる (8) 診療録（カルテ）を作成する。

3) 検査手技 (3-1,3-2,3-3,4-1,4-2,4-3)

(1) 腹部の超音波検査を実施できる。

(2) 経皮的酸素飽和度を測定できる。

(3) エックス線撮影、コンピュータ断層撮影（CT）、磁気共鳴画像法（MRI）、核医学検査、内視鏡検査を見学し、介助する。

4) シミュレーション教育 (2-1,2-2,2-3,2-4,2-5,2-6,2-7,4-1,4-2,4-3,4-4,4-5,4-6,4-7)

(1) 腹部エコーシミュレータを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。

(2) 腹部内視鏡シミュレータを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。

5) 医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法（医療制度）、EBMI について (1-1,1-2,3-1,3-2,3-3,3-4,3-5,3-6,3-7,4-1,4-2,4-3,4-4,4-5,4-6,5-1,5-2,5-3,5-4,5-5)

(1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント

(2) 困難な患者 急変患者・家族への説明

(3) 各種侵襲的な検査・治療時の安全性への配慮

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

内科学（朝倉書店）、内科学（西村書店）、標準消化器病学（医学書院）

5. 成績評価の方法

実習中の学習態度、CC-EPOC、口頭試問、miniCEX（実際の患者さんへの診療を評価）、口頭試問、学習発表会に基づいて総合的に評価する

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

・ 5週間のうちの第3週目の1週間は関連病院で実習を行い、消化器内科の一般診療、腹部救急を経験してもらう（大曲厚生医療センター、市立横手病院、平鹿総合病院、由利組合総合病院。各病院1名ずつ）。該当する病院へは、公共交通機関を利用すること。

・ 授業プリントを中心に十分復習してから実習に臨むこと

・ 経験記録、手帳の記載を行うこと

・ 若干のスケジュールの可能性があるので医局で確認すること

消化器内科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [8:30-18:00] 副題 担当	オリエンテーション 8 : 30 南臨床棟 5 F セミナー室 クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 2 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 3 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 4 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 5 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 6 回 月曜日 [8:30-18:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 7 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 8 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 9 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 10 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか
第 11 回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	第 3 週目の 1 週間は関連病院で実習を行い、消化器内科の一般診療、腹部救急を経験してもらう (大曲厚生医療センター、市立横手病院、平鹿総合病院、由利組合総合病院。各病院 1 名ずつ)。該当する病院への移動は、公共交通機関を利用すること。
第 12 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	関連病院実習
第 13 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	関連病院実習
第 14 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	関連病院実習
第 15 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	関連病院実習
第 16 回 月曜日 [9:00-18:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟 (2 - 6) 病棟担当患者の診療ほか

消化器内科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 17 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟(2-6) 病棟担当患者の診療ほか
第 18 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟(2-6) 病棟担当患者の診療ほか
第 19 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟(2-6) 病棟担当患者の診療ほか
第 20 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟(2-6) 病棟担当患者の診療ほか
第 21 回 月曜日 [9:00-18:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟(2-6) 病棟担当患者の診療ほか
第 22 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟(2-6) 病棟担当患者の診療ほか
第 23 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟(2-6) 病棟担当患者の診療ほか
第 24 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟(2-6) 病棟担当患者の診療ほか
第 25 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	クリニカルクラークシップ 消化器内科病棟(2-6) 病棟担当患者の診療ほか 学習発表会

分類：臨床医学 VI (CC2)
授業科目名：神経内科学 臨床実習 (Neurology CC2)
対象学年：5年次選択
時間割コード：71644006-03

1. 主任教員

飯島克則 (教授、消化器内科学・神経内科学講座、6099)

2. 担当教員

飯島克則 (教授、消化器内科学・神経内科学講座、6099)

菅原正伯 (医学部講師、附属病院 神経内科、6101、オフィスアワー：8:30-18:00)

華園 晃 (助教、消化器内科学・神経内科学講座、6104、オフィスアワー：8:30-18:00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい (大まかな全体目標)

チームの一員として病棟や外来患者さんへの診療を通して、将来、どのような分野の医師にも必要な内科領域、特に神経内科を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実戦力を習得する。

2. 概要 (大まかな学修目標 (項目))

・診療チームの一員として入院患者を担当し、日々の回診、カルテ記載、総回診、カンファランスでの症例提示を行います。(4-1~4-7)

・ガイドラインを有効に活用する習慣、診療から生まれる疑問に対して作業仮説を立てて、PBL; problem-based learning で検証する習慣を身に着けます。(3-3,4-4,5-1~5-5,6-1~6-2)

・外来新患の医療面接、神経診察を行い、診断・鑑別に必要な検査を立案することで、神経疾患の診断プロセス・治療立案を経験し、知識を深めてもらい、医師になるために必要な知識、技能の習得レベルを確認していきます。(3-1~3-7,4-1~4-7)

・外来新患の病歴、身体・神経所見をとり、鑑別疾患のための検査計画を立案できる。(4-1~4-6)

・臨床で生じた疑問に対して作業仮説を立てて、PBL; problem-based learning によって検証することができる。(5-1~5-5,6-1~6-2)

・種々のガイドラインを有効に活用できる。(3-3,4-4)

・Web 検索で必要な情報を効果的に検索し、その内容を吟味できる。(3-3,4-4)

・患者さんの生活背景、合併症、既往を考慮して、病状、診断に必要な検査、最も適した治療をどのように説明したらよいか考えることができる (実際に患者さんに説明することはないが)。(2-1~2-8,4-7~4-8)

・遺伝カウンセリングの行い方、社会福祉制度の活用、リハビリテーションについても患者さんに情報を提供できる (実際に患者さんに説明することはないが)。(4-7~4-8)

1) 病棟診療

各学生は 4-5 週間配属され、指導医のもと病棟の担当患者さんを毎日回診して、診療内容をカルテに記載する。指導医の監督のもとに、医療面接、身体診察を行って、問題を抽出し、作業仮説を立てて EBM に基づいた検証を繰り返す (必要に応じて文献を検索する)。臨床推論に基づいて、診断、鑑別に必要な検査を立案し、担当患者さんの重症度、合併症を勘案して治療方針の選択を試みる。他科頼診券、ウイークリーサマリー、紹介状などのカルテへの記載 (指導医の確認必須)、総回診時のプレゼンテーション、患者・家族への説明への参加など、チームの一員として基本的な診療を実践的に学び、医師としてのプロフェッショナルリズムを身に付けるために必要な知識、学習プロセスを身に付ける。CC1 の学生に対する学習補助も行う。

2) 外来診療

外来新患の病歴、身体・神経所見をとり、鑑別疾患のための検査計画を立案する。

3) 各種検査・手術等の治療への参加

診療チームの一員として各種検査、治療に参加しながら、臨床推論・検査・治療の実際を経験し、検査成績の評価を自ら試み、記録する。

3. (詳細な) 学修目標・項目

上記1の概要・ねらいを中心に実習を進めるが、本診療科で特に経験保証する症候、病態、各種手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態 臨床推論 (3-5,4-1~4-6)

(1) けいれん (2) 意識障害・失神 (3) めまい (4) 頭痛 (5) 運動麻痺・筋力低下 (6) 嚥下困難・障害 (7) もの忘れ (8) 歩行障害 (9) 複視 (10) しびれ (11) 失語 (12) 構音障害 (13) 運動失調

2) 基本的臨床手技 (3-1~3-3,3-5,4-1~4-7)

(1) 体位交換、移送ができる (2) 皮膚消毒ができる (3) 静脈採血を実施できる (4) 末梢静脈の血管確保を実施できる (5) 腰椎穿刺を見学し、介助する (6) 注射 (皮内、皮下、筋肉、静脈内) を実施できる (7) 診療録 (カルテ) を作成する (8) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査・治療手技 (3-1~3-3,4-1~4-3)

(1) 視力、視野、聴力、平衡機能検査を実施できる。

(2) 経皮的酸素飽和度を測定できる。

(3) エックス線撮影、コンピュータ断層撮影 (CT)、磁気共鳴画像法 (MRI)、核医学検査、内視鏡検査を見学し、介助する。

4) シミュレーション教育 (ロールプレイ・OSCE など) (2-1~2-8,4-1~4-8)

(1) CCI 学生のロールプレイ・OSCE の補助をしてもらう。

(2) 希望者には、シミュレーターを用いた腰椎穿刺を経験してもらう。

5) プロフェッショナルリズム、医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (制度)、EBM について (1-1~1-2,3-1~3-7,4-1~4-6,5-1~5-5)

(1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント (見学、ロールプレイ OSCE)。

(2) 困難な患者 急変患者・家族への説明 (見学)。

(3) 患者さんの生活環境 (家庭、職場) に配慮した、診療計画を検討できる。

(4) インペアメント、ディスアビリティ、ハンディキャップを説明できる。

(5) 生活習慣に潜むリスクを列挙して、患者指導の在り方を考えられる。

(6) 遺伝カウンセリングに必要な情報提供ができる。

(7) 治癒を見込むことが困難な進行性の疾患を持つ患者さんの意思決定支援、事前指示のタイミング、苦痛の緩和について理解する。

(8) 各種侵襲的な検査・治療時の安全性への配慮ができる。

(9) 難病法、介護保険制度、障害者自立支援法、障害者差別解消法、身体障害者福祉法、認知症基本法を概説できる。

(10) 各種診療ガイドラインを適宜参照し、活用できる。

(11) 文献から得られた情報の批判的吟味ができる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

3 年次神経内科講義資料、診察実習時の資料 (神経疾患診察法)、OSCE クリニカルクラークシップガイドを常に参照できるようにすること。

必要に応じて、診断・治療ガイドラインを参照、活用すること。

後藤、天野著：臨床のための神経機能解剖学 中外医学社

水野美邦編集：神経内科ハンドブック 医学書院

鈴木則宏、荒木信夫編集：講義録神経内科 MEDICAL VIEW

Louis, Mayer, Rowland: Merritt's Neurology 13th Ed. Wolters Kluwer

Kandel, Schwartz, Jessell, Siegelbaum, Hudspeth: カンデル神経科学 5th Ed. メディカル・サイエンス・インターナショナル

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問、ミニ CEX（外来新患の診療）、レポート、出席、その他（カルテ記録、ポートフォリオ; CC-EPOC）で総合評価する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

内科系 I、内科系 II 各ターム各々1名選択可能です。

大学病院以外での神経内科実習を希望する場合には、内科系 I または内科系 II の協力病院（市立秋田総合病院、秋田赤十字病院、あきた病院）を選択してください。

毎日診療録を記載し、病棟医と discussion をして、出席簿にサインをもらうこと。診療録のフィードバックを確認して追記・訂正を行って承認を得ること。

経験記録、手帳の記載を行うこと。

講演会、研究会があるときは、告知するので、積極的に参加してください。

キーワード：診療参加型実習、ポートフォリオ、Problem Based Learning; PBL、Problem-Oriented MedicalRecord; POMR、自己評価

神経内科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [8:30-18:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30-9:00 オリエンテーション (1病棟8階 ナースステーション)、担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート 17:00-18:00 入院患者カンファランス
第2回 火曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30-9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 (mini-CEX) 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート
第3回 水曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30-9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:00 総回診 入退院カンファランス 12:00-13:30 ミーティング (ケースプレゼンテーション) 14:00-17:00 病棟・外来検査 ボツリヌス毒素治療 筋生検 担当入院患者回診 CC1 サポート
第4回 木曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30-9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート
第5回 金曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30-9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート
第6回 月曜日 [8:30-18:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30-9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート 17:00-18:00 入院患者カンファランス
第7回 火曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30-9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 (mini-CEX) 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート
第8回 水曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30-9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:00 総回診 入退院カンファランス 12:00-13:30 ミーティング (ケースプレゼンテーション) 14:00-17:00 病棟・外来検査 ボツリヌス毒素治療 筋生検 担当入院患者回診 CC1 サポート
第9回 木曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30-9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート
第10回 金曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30-9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート
第11回 月曜日 [8:30-18:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30-9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート 17:00-18:00 入院患者カンファランス
第12回 火曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30-9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 (mini-CEX) 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート

神経内科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容	
第 13 回	水曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:00 総回診 入退院カンファランス 12:00-13:30 ミーティング (ケースプレゼンテーション) 14:00-17:00 病棟・外来検査 ボツリヌス毒素治療 筋生検 担当入院患者回診 CCI サポート	
第 14 回	木曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CCI サポート	
第 15 回	金曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CCI サポート	
第 16 回	月曜日 [8:30-18:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CCI サポート 17:00-18:00 入院患者カンファランス	
第 17 回	火曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 (mini-CEX) 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CCI サポート	
第 18 回	水曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:00 総回診 入退院カンファランス 12:00-13:30 ミーティング (ケースプレゼンテーション) 14:00-17:00 病棟・外来検査 ボツリヌス毒素治療 筋生検 担当入院患者回診 CCI サポート	
第 19 回	木曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CCI サポート	
第 20 回	金曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CCI サポート 16:00-17:00 実習の総括 (4週コースの時)	
第 21 回	月曜日 [8:30-18:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CCI サポート 17:00-18:00 入院患者カンファランス	
第 22 回	火曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 (mini-CEX) 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CCI サポート	
第 23 回	水曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:00 総回診 入退院カンファランス 12:00-13:30 ミーティング (ケースプレゼンテーション) 14:00-17:00 病棟・外来検査 ボツリヌス毒素治療 筋生検 担当入院患者回診 CCI サポート	
第 24 回	木曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-17:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CCI サポート	

神経内科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 25 回 金曜日 [8:30-17:00] 副題 クリニカルクラークシップ 担当 菅原・華園	08:30- 9:00 担当入院患者回診、診療記録 09:00-12:30 外来新患の医療面接・診察 13:10-16:00 病棟・外来検査 担当入院患者回診 CC1 サポート 16:00-17:00 実習の総括

分 類：臨床医学 VI (CC2)
授業科目名：循環器内科学 臨床実習 (Cardiovascular)
対象学年：5年次選択
時間割コード：71644006-04

1. 主任教員

渡邊博之 (教授、南臨床棟5階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント)

2. 担当教員

渡邊博之 (教授、南臨床棟5階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント)

寺田健 (講師、南臨床棟5階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント)

鈴木智人 (助教、南臨床棟5階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント)

高木祐介 (助教、南臨床棟5階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント)

佐藤輝紀 (助教、南臨床棟5階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント)

佐藤和奏 (助教、南臨床棟5階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント)

岩川英弘 (助教、南臨床棟5階、6110、オフィスアワー：9:00-17:00 要アポイント)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 診療参加型臨床実習 CC2 の概要・ねらい

各科実習期間が4週から5週となるCC2では、1年間のCC1の経験を踏まえ、より本格的な循環器内科の診療参加型臨床実習を行う。

教員・医員・研修医の3～4名からなる診療チームの中に入り、そのチームの受け持ち患者をすべて受け持ち、すべての検査や治療に参加する。

指導医の監督の下に、日々の回診、カルテへの記載、プレゼンテーション、および各種検査、各種カンファレンスへの参加など実際の診療に参加しながら、担当患者の臨床推論・治療の過程を実践的に学ぶことにより、将来、何科の医師になっても必要な循環器内科領域の基本的な診療能力を実践修得する。

また、関連するプロフェッショナリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法(制度)、EBMについて学ぶ。

(1, 2, 3, 4, 5, 6)

2. 学修目標

この期間に本診療科で特に経験する内容を下記に示す。

1) 症候・病態 (3-1.2.3.4.5)

(1) 発熱、(2) 全身倦怠感、(3) 食思(欲)不振、(4) 体重減少・体重増加、(5) ショック、(6) 意識障害・失神、(7) けいれん、(8) めまい、(9) 浮腫、(10) 咳・痰、(11) 呼吸困難、(12) 胸痛、(13) 動悸、(14) 胸水、(15) 嚥下困難・障害、(16) 腹痛、(17) 悪心・嘔吐、(18) 頭痛、(19) 腰背部痛、(20) 心停止

2) 基本的臨床手技 (4-6)

- (1) 皮膚消毒ができる。
- (2) 静脈採血を実施できる。
- (3) 末梢静脈の血管確保を実施できる。
- (4) 中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助する。
- (5) 動脈血採血・動脈ラインの確保を見学し、介助する。
- (6) 注射(皮内、皮下、筋肉、静脈内)を実施できる。
- (7) 診療録(カルテ)を作成する。来診券、紹介状を記載する。
- (8) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査手技 (4-2, 4-6)

- (1) 12誘導心電図を記録できる。
- (2) 心臓の超音波検査を実施できる。
- (3) 経皮的酸素飽和度を測定できる。
- (4) 心エコー、運動負荷心電図、心筋シンチグラフィ、心臓カテーテルを見学し、介助する

4) 外科手技 (4-6)

- (1) 無菌操作を実施できる。
- (2) 手術や手技のための手洗いができる。
- (3) 手術室におけるガウンテクニックができる。
- (4) 基本的な縫合と抜糸ができる。
- (5) 創の消毒やガーゼ交換ができる。
- (6) 手術、術前・術中・術後管理を見学し、介助する。

5) 救命処置 (2-1.2.3.4.5.6.7, 4-1.2.3.4.5.6.7)

- (1) 身体徴候、バイタルサインから緊急性の高い状況であることを判断できる。
- (2) 一次救命処置を実施できる。
- (3) 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

6) シミュレーション教育 (4-2,4-6)

- (1) 心エコーシミュレーターを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。
- (2) 心臓カテーテルシミュレーターを用いて、冠動脈造影中の医療安全に関する様々な意識を実経験する。
- (3) エコーガイド下、中心静脈確保をシミュレーターを用いて経験保証する。

7) 医療行動科学、医療倫理、医療安全、医療法について (2-1.2.3.4.5.6.7.8, 3.5.6)

- (1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント
指導医のもとでCT等の同意書を患者さん、ご家族から実際に取得する。
- (2) 困難な患者 急変患者・家族への説明、
- (3) 各種検査時の安全への配慮

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

内科診断学 (医学書院)
内科診断学 (南江堂)
集中講義 胸痛 (メジカルビュー社)
内科学 (朝倉書店)
Navigate 循環器疾患 (医学書院)
病気が見える循環器 (メディックメディア)
臨床循環器学 (文光堂)
クリニカルクラークシップガイド等、講義・演習資料

5. 成績評価の方法

CC-EPOC 入力状況、実習態度、口頭試問、miniCEX、OSCE、レポート、出席などにより行う。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ・クリニカルクラークシップガイドの実習直前に必ず復習してくる事項【必修(コア)事項】を学習してくること。
- ・経験記録、手帳の記載を行うこと

循環器内科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [9:20-17:00] 副題 担当	(第 1 週のみ) オリエンテーション (渡邊) : 第二病棟 4 階カンファレンスルーム 患者診察 / 病棟診療
第 2 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	患者診察 / 病棟診療
第 3 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	患者診察 / 病棟診療
第 4 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	患者診察 / 病棟診療
第 5 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当	患者診察 / 病棟診療

分類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：呼吸器内科学 臨床実習 (Respiratory Medicine)

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-05

1. 主任教員

中山勝敏 (教授、呼吸器内科学講座、7510)

2. 担当教員

中山勝敏 (教授、呼吸器内科学講座、7510)

佐藤一洋 (特任准教授、呼吸器内科学講座、7510)

竹田正秀 (講師、呼吸器内科学講座、7510)

奥田佑道 (特任助教、高齢者医療先端研究センター、7510)

浅野真理子 (特任助教、高齢者医療先端研究センター、7510)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい

病棟や外来患者さんへの診療を通して、呼吸器領域の症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実践力を修得する。診療チームの一員として内科領域、特に呼吸器を中心とした患者の診断・治療の過程を経験し、講義・クリニックラークシップ実習を通じて深く理解習得する。また、関連するプロフェッショナリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法 (制度)、EBM について学ぶ。

2. 概要 (1-1～1-2、3-1～3-7、4-1～4-8、5-1～5-5、6-1～6-2)

1年間のCC1の経験を踏まえ、さらに専門性を高めた診療参加型臨床実習を行う。

呼吸器内科疾患の診療に関する基本的な知識と技能を修得するために、指導医を中心とした医療チームの一員として能動的に実習に取り組む。臨床実習の中で自ら情報を収集し、患者さんのニーズ・問題点の抽出、整理、解釈を行い (臨床的推論)、解決法 (診断、治療) を立案するための基本的訓練を行う (problem based learning: PBL)

1) 病棟診療 (1-1～1-2、2-1～2-8、3-1～3-7、4-1～4-8)

指導医チームに加わり、チーム内の病棟患者さん全員の診療を行う。日々回診し、問診、身体診察を行い、臨床課題を抽出し、臨床推論を行う。指導医とともにカルテ記載、検査および治療方針の決定を行う。病棟カンファランスでは担当すべての症例についてプレゼンテーションと質疑応答を行い、エビデンスに基づいた診療を経験する。さらに文献的な考察も含め病態の理解を深める。

2) 外来診療 (1-1～1-2、2-1～2-8、3-1～3-7、4-1～4-8)

外来指導医のもと、新患者さんの問診、身体診察を行い、指導医とともにカルテ記載、鑑別疾患の検討、および必要な検査の提案を行う。病態を把握し指導医とともに治療方針を検討する。

3) 検査への参加 (2-1～2-8、3-1～3-7、4-1～4-8)

気管支鏡検査の見学および介助を行う。検査前に指導医とともに当該症例の画像を読影し、鑑別診断の検討および検査方針を立てる。検査後の検体の取り扱いも理解する。

4) 発表 (3-1～3-7、5-1～5-5、6-1～6-2)

担当症例などから興味のある臨床的問題点を抽出し、最新の学術的知見をまとめ、発表を行う。エビデンス収集能力および医学的な分析能力、プレゼンテーション能力を養う。

3. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

上記のねらい及び概要を中心に実習をすすめるが、本診療科で特に経験保証する症候、病態、各種手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態、臨床推論 (3-1~3-7、4-1~4-8)

(1) 発熱、(2) 全身倦怠感、(3) 食思(欲)不振、(4) 体重増加・体重減少、(5) 意識障害・失神、(6) 脱水、(7) 浮腫、(8) 咳・痰、(9) 血痰・咯血、(10) 呼吸困難、(11) 胸痛、(12) 胸水、(13) 嚥下困難・障害、(14) リンパ節腫脹

2) 基本的臨床手技 (1-1~1-2、2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

(1) 体位交換、移送ができる。
(2) 皮膚消毒ができる。
(3) 気道内吸引、ネブライザーを実施できる。
(4) 静脈採血を実施できる。
(5) 末梢静脈の血管確保を実施できる。
(6) 中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助する。
(7) 動脈血採血・動脈ラインの確保を見学し、介助する。
(8) ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助する。
(9) 診療録(カルテ)を作成する。
(10) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査手技 (2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

(1) 微生物学検査を評価できる。
(2) 12誘導心電図を記録できる。
(3) 胸部の超音波検査を実施できる。
(4) 経皮的酸素飽和度を測定できる。
(5) エックス線撮影、CT、MRI、核医学検査、気管支鏡検査を見学し、介助する。

4) 外科的手技 (2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

(1) 無菌操作を実施できる。
(2) 基本的な縫合と抜糸ができる。
(3) 創の消毒やガーゼ交換ができる。

5) 救命処置 (2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8)

(1) 身体徴候、バイタルサインから緊急性の高い状況であることを判断できる。
(2) 一次救命処置を実施できる。
(3) 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

6) シミュレーション教育 (3-1~3-7、6-1~6-2)

(1) 気管支鏡シミュレータを用いて反復練習をすることで、検査の意義を学び技術を磨く。
(2) 胸腔穿刺シミュレータを用いて反復練習をすることで、検査の意義を学び技術を磨く。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

内科学(朝倉書店)、内科診断学(南江堂)、呼吸器領域の各種診療ガイドラインまたは診断と治療の手引き[肺癌(金原出版)、COPD(メディカルレビュー)、喘息(協和企画)、特発性肺線維症(南江堂)、成人肺炎(メディカルレビュー)]

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問、ミニ CEX、出席、学生症例プレゼンテーションでの発表など。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

指定の教科書・参考書等に則り予習をし、同教科書・参考書および実習時に指導された内容をもとに復習すること。

呼吸器内科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第1回 副題 担当	月曜日 [8:30 - 17:00] クリニカルクラークシップ 各診療チーム	・オリエンテーション：第2病棟7階カンファレンス室（第1週のみ） ・クリニカルクラークシップ
第2回 副題 担当	火曜日 [8:30 - 17:00] クリニカルクラークシップ 各診療チーム	・クリニカルクラークシップ
第3回 副題 担当	水曜日 [8:30 - 17:00] クリニカルクラークシップ 各診療チーム	・クリニカルクラークシップ
第4回 副題 担当	木曜日 [8:30 - 17:00] クリニカルクラークシップ 各診療チーム	・クリニカルクラークシップ
第5回 副題 担当	金曜日 [8:30 - 17:00] クリニカルクラークシップ 各診療チーム	・クリニカルクラークシップ

分類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：血液・腎臓・膠原病内科学（内科学3） 臨床実習（Internal Medicine 3 ; Hematology, Nephrology, and Rheumatology）

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-06

1. 主任教員

高橋直人（教授、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6111、オフィスアワー：8:30-17:00）

2. 担当教員

高橋直人（教授、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6111、オフィスアワー：8:30-17:00）

亀岡吉弘（准教授、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6113、オフィスアワー：8:30-17:00）

奈良美保（講師、輸血部、6313、オフィスアワー：8:30-17:00）

池田翔（講師、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

北舘明宏（講師、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

山下鷹也（助教、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

小林敬宏（助教、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

齋藤雅也（助教、臨床研究支援センター、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

阿部史人（助教、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

齋藤綾乃（助教、血液・腎臓・膠原病内科学講座（第三内科）、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

藤岡優樹（助教、中央検査部、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

小林五十鈴（特任助教、総合臨床教育研修センター、6116、オフィスアワー：8:30-17:00）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

1. 診療参加型臨床実習 CC2 の概要・ねらい

チームの一員として、将来どのような分野の医師にも必要な血液・腎臓・膠原病領域に関する症候、臨床推論、鑑別診断、検査、治療方針決定等を修得する。（1-1, 1-2, 2-1～2-8）

1) 病棟診療

指導医のもと、数名の病棟患者さんを担当する。日々問診、身体診察、カルテ記載、プレゼンテーションを行い、文献検索により病態理解や治療方針の決定に参加する。（4-1～4-8）

2) 外来診療

指導医のもと、新患・再来患者さんの病歴聴取、診察、カルテ記載、鑑別疾患の検討、必要な検査の提案、治療方針の提案を行う。（4-1～4-8）

3) CC1 のレポート作成を指導する。後輩に指導することで、医学的知識を深め、科学的探究心やエビデンス収集能力、教育的配慮を身に付ける。（5-1～5-5, 6-1～6-2）

2. 学修目標

1) 症候・病態 臨床推論

(1) 発熱、(2) 全身倦怠感、(3) 黄疸、(4) 貧血、(5) 出血傾向、(6) リンパ節腫脹、(7) 腹部腫瘍

2) 基本的臨床手技

(1) 皮膚消毒、(2) 静脈採血、(3) 末梢静脈の血管確保、(4) 中心静脈カテーテル挿入の見学・介助、(5) 腰椎穿刺の見学・介助、(6) 局所麻酔、輸血の見学・介助、(7) カルテ作成、(8) 診断書・検案書・証明書の作成見学・介助、(9) リハビリテーションへの参加

3) 検査手技

(1) 尿検査（尿沈査含む）の実施、(2) 末梢血塗抹標本作成・観察、(3) 微生物学検査（Gram 染色含む）の実施、(4) 血液型判定の実施、(5) 経皮的酸素飽和度測定、(6) 骨髄穿刺、腎生検の見学・介助、(7) 体脂肪率・水分量・筋肉量の測定

4) 外科手技

(1) 無菌操作の実施、(2) 創消毒の実施

5) 救命処置

(1) 身体徴候・バイタルサインから、緊急性の高い状況を判断できる、(2) 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

6) 医療行動科学、医療倫理、医療安全、医療法、EBM について

(1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント (2-4)、(2) 悪性腫瘍の患者・家族への病状説明 (2-4, 2-7)、(3) 認知症や老々介護、生活困窮者に対する支援センターとの連携 (2-5, 2-6)、(4) Up To Date や PubMed 使用によるエビデンス検索 (4-4, 5-3)

詳細については第1週日月曜日のオリエンテーションで解説する。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

朝倉内科学、ハリソン内科学、本学のクリニカルクラークシップガイド、講義資料

5. 成績評価の方法

態度、ミニ CEX、出席

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

・本学のクリニカルクラークシップガイドの、実習直前に必ず復習してくる事項【必修(コア)事項】を学習してくること。

・経験記録、手帳の記載を行うこと。

(*) オリエンテーションは初日に行います。

(※) 総括は最終日に行います。進捗状況確認を定期的に行います。

予定は変更することがあります。

血液・腎臓・膠原病内科学（内科学3） 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [8:30 - 17:00] 副題 オリエンテーション 担当 各担当教官	(*) オリエンテーション (医局) 診療参加型 病棟・外来実習 15:00- 血液カンファレンス カンファでのプレゼン評価
第 2 回 火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 実習 担当 各担当教官	診療参加型 病棟・外来実習 13:30-総回診 カンファでのプレゼン評価
第 3 回 水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 実習 担当 各担当教官	診療参加型 病棟・外来実習 病棟実習時ミニ CEX 16:00- 腎カンファレンス カンファでのプレゼン評価
第 4 回 木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 実習 担当 各担当教官	診療参加型 病棟・外来実習 病棟実習時ミニ CEX 14:00- 実習進捗確認
第 5 回 金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 実習 担当 各担当教官	診療参加型 病棟・外来実習 病棟実習時ミニ CEX 15:00- 腎グループ入院患者検討会 (※) 総括

分類：臨床医学 VI (CC2)
授業科目名：精神科学 臨床実習 (Clinical Clerkship in Psychiatry)
対象学年：5年次選択
時間割コード：71644006-07

1. 主任教員

三島 和夫 (教授、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)

2. 担当教員

三島 和夫 (教授、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
竹島 正浩 (講師、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
今西 彩 (助教、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
細谷 倫子 (助教、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
伊藤 結生 (助教、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
吉沢 和久 (助教、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
馬越 秋瀬 (助教、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
小笠原 正弥 (助教、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
石川 勇仁 (医員、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
加藤 信之 (医員、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
平野 梨聖 (医員、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)
藤原 大 (医員、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい

当科におけるクリニカルクラークシップのねらいは、臨床実習を通じて精神障害の病態生理、診断、治療に関する知識を深めるとともに、精神障害の患者に対して適切な医療面接や臨床推論を行い、的確な診断やエビデンスに基づく治療を策定することである。これには、精神保健福祉法の正しい知識に基づき、個々の患者に対して適切な入院形態や行動制限を選択できるようになることも含まれる。また、関連する医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (医療制度)、EBM について実践的に学ぶ。

特に CC2 では、すでに CC1 で培ったそれらの知識を応用し、チームの一員としてより能動的に振舞うことが求められる。その中で、医師の倫理や医師の職責などのプロフェッショナリズムを育み、良好な患者と医師の信頼関係に基づく全人的医療を実践し、チーム医療に必要なコミュニケーション能力を身に付ける。

CC2 では CC1 より多くの患者と触れ合うことになり、医学的課題の発見などのリサーチマインドや問題解決能力、絶えず進歩する医学・医療に興味を抱いて学習し、学んだ成果を取り入れる姿勢をさらに高めることが期待される。(1-1~1-2、2-1~2-3、2-5~2-7、3-1~3-3、3-7、4-1~4-5、4-7、5-1~5-3)

2. 概要

到達目標

- (1) 患者-医師の良好な信頼関係に基づく精神科面接の基本を説明できる。(2-1~2-3)
- (2) 診察・検査を通じて精神障害の診断・治療の流れを理解できる。(4-1~4-3)
- (3) 精神保健福祉法に基づく入院形態の区分と適応について理解できる。(3-7)
- (4) 主な精神疾患の主要症状、診断、治療について理解できる。(3-1~3-3)

・精神科疾患の診療に関する基本的な知識と技能を修得するために、指導医を中心とした医療チームの一員として能動的に実習に取り組む。(2-3、4-7)

・臨床実習の中で自ら情報を収集し、患者さんのニーズ・問題点の抽出、整理、解釈を行い (臨床的推論)、解決法 (診断、治療) を立案するための基本的訓練を行う (problem based learning; PBL)。(5-1~5-3、6-1)

- ・診療チームの外来・病棟における日常診療に参加し、精神科の診察、検査、治療の実際を体験し、精神科診療のポートフォリオを作成する。(2-1～2-3、2-5～2-6、3-1～3-3、4-1～4-3、4-7)
- ・精神科疾患の診察、検査、治療の実際を体験し、精神科の定期カンファレンス・総回診に参加し、診断及び治療過程などを学ぶ。(2-1～2-6、3-1～3-3、4-1～4-3、4-5、4-7)
- ・カンファレンスなどを通して、テキスト上の知識を実体化し、受け持ち患者さんの精神疾患および個別特性を深く理解し、医療チーム内の情報共有を行う。(1-2、2-2、2-4～2-5、4-7)
- ・精神科の日常診療に参加して得た診察、検査、治療技能を実際の患者診療に適用できる。(4-1～4-3、4-6)

1) 病棟診療

CC2 学生は 4～5 週間配属され、指導医のもと病棟の担当患者さんを毎日回診して、診療内容をカルテに記載する。精神科では 1～3ヶ月を経て症状改善する患者さんが多いため、CC2 の期間で患者さんの病状の変化、治療の効果判定、最終診断などについてより多くの知識を身に付ける。指導医の監督のもとに、医療面接、身体診察を行って、問題を抽出し、作業仮説を立てて EBM に基づいた検証を繰り返す(必要に応じて文献を検索する)。臨床推論に基づいて、診断、鑑別に必要な検査を立案し、担当患者さんの重症度、合併症を勘案して治療方針の選択を試みる。他科類診券、ウイークリーサマリー、紹介状などのカルテへの記載(指導医の確認必須)、総回診の見学、患者・家族への説明への参加など、チームの一員として基本的な診療を実践的に学び、医師としてのプロフェッショナルリズムを身に付けるために必要な知識、学習プロセスを身に付ける。(1-1～1-2、2-1、2-3～2-5、4-1～4-5、4-7、5-1～5-3、6-1)

2) 外来診療

外来新患や再来患者の診察に陪席し、医療面接、身体診察を見学し、臨床推論に則った検査、治療立案を考える。特に再来患者の診察の見学では、患者さんがどのような治療経過、状態像の変化、診断の変化などを経て治癒するのかを実際に学ぶ。また、入院を要する患者さんの診断、状態像、病識などを理解し、入院形態を指導医とともに考え、入院時の告知や説明に陪席する。(3-2～3-3、3-7、4-1～4-3)

3) 各種検査・手術等の治療への参加

診療チームの一員として各種検査、治療に参加しながら、臨床推論・検査・治療の実際を経験し、検査成績の評価を自ら試み、記録する。(2-5、4-1～4-7)

3. 学修目標

上記 1 のねらい・概要を中心に実習を進めるが、本診療科で特に経験保証する症候、病態、各種手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態 臨床推論 (3-1～3-4)

- a. 統合失調症 b. うつ病 c. 双極性障害(躁うつ病)
- d. 症状精神病 e. 認知症 f. 物質使用障害
- g. 不安障害群と心的外傷及びストレス関連障害群
- h. 身体症状症及び関連症群、食行動障害及び摂食障害群 i. 睡眠-覚醒障害
- j. 解離性障害 k. パーソナリティ障害 l. 神経発達障害群(知的能力障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動障害、運動障害群)

2) 基本的臨床手技 (1-1～1-2、2-1～2-3、4-1～4-6)

- (1) 医師患者関係の在り方を理解する。
- (2) 精神科面接法、精神的力動の基本について理解し、説明できる。
- (3) 修正型電気痙攣療法の適応、装着方法、判定ができる。
- (4) 精神科作業療法の作業内容、治療目的を説明できる。
- (5) 行動制限の種類、必要性などを理解し、診療録に正確に記載できる。
- (6) 診療録(カルテ)を作成する
- (7) 各種診断書・入退院の届出・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査・治療手技 (4-1～4-5、2-5～2-6)

- (1) 症状評価尺度を実施し、結果を説明できる。
- (2) 神経学的所見や長谷川式簡易知能評価スケール (HDSR)、Mini-Mental State Examination(MMSE) をとり、カルテへの記載ができる。
- (3) 睡眠脳波 (PSG) や睡眠潜時反復検査 (MSLT) を含む脳波検査を見学し、結果を指導医と共に確認し診断及び治療立案を行う。
- (4) アクチグラフの結果を指導医と共に確認する。
- (5) エックス線撮影、コンピュータ断層撮影 (CT)、磁気共鳴画像法 (MRI)、核医学検査を見学し、介助する。その結果を指導医と共に確認し、診断及び治療立案を行う。
- (6) 心理検査結果を指導医や心理士と共に確認し、診断及び治療立案を行う。
- (7) 腰椎穿刺を見学し、介助する。

4) プロフェッショナルリズム、医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (制度)、EBM について (1-1~1-2、2-1~2-7、3-5~3-7、4-4、4-7~4-8、5-1~5-3、5-5、6-1)

- (1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント (見学)。
- (2) 困難な患者、急変患者・家族への説明 (見学)。
- (3) 患者さんの生活環境 (家庭、職場、施設など) やアドヒアランスなどに配慮した診療計画を検討できる。
- (4) 生活習慣に潜むリスクを列挙して、患者指導の在り方を考えられる。
- (5) 緩和ケアのチームの一員として患者さんの精神的支援、意思決定支援、苦痛の緩和について理解する。
- (6) 各種侵襲的な検査・治療時の安全性への配慮ができる。
- (7) 自立支援制度、介護保険制度、障害者自立支援法、精神障害者保健福祉手帳、障害者差別解消法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、成年後見制度などを概説できる。
- (8) 行動制限について指定医からその必要性及び人権への配慮の仕方について学び、説明することができる。
- (9) 各種診療ガイドラインを適宜参照し、活用できる。
- (10) 文献から得られた情報の批判的吟味ができる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

4 年次精神科講義資料、診察実習時の資料 (神経疾患診察法)、OSCE クリニカルクラークシップガイドを常に参照できるようにすること。必要に応じて、診断・治療ガイドラインを参照、活用すること。

- ・標準精神医学 (尾崎紀夫 他編 医学書院)
- ・カプラン臨床精神医学テキスト (井上令一 監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル社)
- ・DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル (高橋三郎、尾崎紀夫 他訳 医学書院)
- ・ICD-10 精神及び行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン (融 道男 他訳 医学書院)
- ・医学専門雑誌、医学文献・活用を奨励する。

5. 成績評価の方法

レポート発表を行う。レポートは受け持ち患者さんについて指導医から指導を受けながら作成する。

レポート発表の内容を踏まえ、当該患者さんの現症、診断、治療方針等について試問を行う。実習中の服装、参加意欲、態度、理解度も含めて総合的に評価する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ・指定教科書は事前に提示するので、予習して受講すること。
- ・指定教科書に授業の重要なポイントを記載するなどして学修すると、講義後の復習に役立つ。
- ・担当教員の予定により、若干スケジュール等を変更する場合がある。

精神科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 1 回 副題 担当	月曜日 [9:00-17:00] オリエンテーション・外来診察・病棟診察 三島 和夫	午前 9 時に外来 7 番診察室に集合 配属期間中の実習内容についてのオリエンテーションを行う 各指導医の紹介と個別の打ち合わせを行う
第 2 回 副題 担当	火曜日 [9:00-17:00] 外来診察・病棟診察・カンファレンス	各指導医の指示の元で、院内での実習にのぞむ 病棟カンファレンスに参加する
第 3 回 副題 担当	水曜日 [9:00-17:00] 外来診察・病棟診察	各指導医の指示の元で、院内での実習にのぞむ
第 4 回 副題 担当	木曜日 [9:00-17:00] 外来診察・病棟診察	各指導医の指示の元で、院内での実習にのぞむ
第 5 回 副題 担当	金曜日 [9:00-17:00] 外来診察・病棟診察	各指導医の指示の元で、院内での実習にのぞむ

分 類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：消化器外科学（外科学1） 臨床実習（CC2:Gastroenterological Surgery）－消化器外科臨床実習2－

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-08

1. 主任教員

有田淳一（教授、消化器外科、6123、オフィスアワー：9:00-17:00）

2. 担当教員

有田淳一（教授、消化器外科、6123、オフィスアワー：9:00-17:00）

打波宇（准教授、消化器外科、6125、オフィスアワー：9:00-17:00）

渡辺剛（助教、消化器外科、6215、オフィスアワー：9:00-17:00）

阿部ゆき（助教、消化器外科、6215、オフィスアワー：9:00-17:00）

中川康彦（助教、消化器外科、6215、オフィスアワー：9:00-17:00）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

1, ねらい（大まかな全体目標）

診療チームの一員として、入院中の患者さんへの診療を通して、将来どのような分野の医師にも必要な外科領域、特に消化器外科を中心とした症候や病態の推論、鑑別診断、検査・治療方針決定などの実践力を習得し、消化器外科医のイメージを獲得する。また、関連する医療倫理、医療安全、EBM について実践的に学ぶ。

2, 概要（大まかな学修目標）

・診療チームの一員として入院患者を担当し、日々の回診、総回診、カンファランスでの症例提示を行う。(1-1～1-2、4-1～4-7)

・ガイドラインを有効に活用する習慣、診療から生じる疑問に対して仮説を立て、それを検証する習慣を身に着ける。(3-3、4-4、5-1～5-3、6-1～6-2)

・患者さんの年齢、生活背景、既往症などを考慮して、病状、診断に必要な検査、最適な治療を考えることができる。(1-2、4-1～4-7)

1) 病棟実習

各学生は診療チームに4-5週間配属され、指導医のもとで数人の患者さんを担当する。指導医の監督のもとに、毎日、担当患者さんの回診を行い、医療面接、身体診察、検査・治療方針の提案・議論、診療録の記載、カンファランスでのプレゼンテーションなど、診療チームの一員として実践的な診療を学ぶ。CC1の学生に対する学修補助も行う。

2) 各種検査・手術等の実習

担当する患者さんの検査や手術に参加し、どのように実際の診療・治療が行われているのかを学ぶ。

3, 学修目標・項目

1) 症候・病態 臨床推論 (3-1～3-4)

(1) 黄疸、(2) 腹痛、(3) 悪心・嘔吐、(4) 食思不振、(5) 便秘・下痢、(6) 腹部膨隆・膨満・腫瘍

2) 基本的臨床手技 (4-1～4-7)

(1) 体位変換、移送ができる

(2) 胃管の挿入と抜去ができる

(3) 尿道カテーテルの挿入と抜去ができる

(4) 全身麻酔手術を見学し、介助ができる

(5) 診療録を作成する

3) 検査手技 (4-2~4-4)

- (1) 腹部超音波検査を実施できる
- (2) 各種検査の適応や手技について説明でき、結果の解釈が行える

4) 外科手技 (4-6)

- (1) 無菌操作を実施できる
- (2) 手術や処置のために手洗いができる
- (3) 手術室におけるガウンテクニックができる
- (4) 基本的な縫合と抜糸ができる
- (5) 創の消毒や包交ができる
- (6) 手術や、術前・術中・術後管理を見学し、介助する

5) リサーチマインド・問題解決能力 (5-1~5-3、6-1~6-2)

- (1) 担当する患者さんの医学的課題を診療チーム内で共有・理解し、解決する能力を獲得する
- (2) 振り返りによって、自己省察能力を高める

6) 医療行動科学、医療倫理、医療安全 (1-1~1-2、2-1~2-5、3-5~3-6)

- (1) 各種の検査や手術のインフォームドコンセントを理解する
- (2) 患者や家族への対応について考えることができる
- (3) 医師としてのプロフェッショナリズム、医の倫理について理解する
- (4) 各種の検査や手術などの安全管理に関して説明できる

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

各担当教官と相談すること

5. 成績評価の方法

態度 (実習中の学習態度)

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

クリニカルクラークシップガイドの必修事項を確認してくること
毎日、振り返りを行い、疑問点は学習すること
期間中に2回のセミナーを予定しています

消化器外科学（外科学1） 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第1回 副題 担当	月曜日 [8:30-17:00] 臨床実習2 各指導教官	8:30- オリエンテーション 南臨床棟3階医局（第1週のみ） 病棟回診・手術への参加
第2回 副題 担当	火曜日 [8:30-17:00] 臨床実習2 各指導教官	病棟回診・手術・検査への参加 16:00- 外来症例カンファレンス 17:00- 消化器合同カンファレンス（自由参加）
第3回 副題 担当	水曜日 [8:30-17:00] 臨床実習2 各指導教官	病棟回診・手術への参加
第4回 副題 担当	木曜日 [8:00-17:00] 臨床実習2 各指導教官	8:00- 病棟カンファレンス、術前検討会 病棟回診・検査への参加
第5回 副題 担当	金曜日 [8:30-17:00] 臨床実習2 各指導教官	病棟回診・手術への参加

分 類：臨床医学 VI (CC2)
授業科目名：胸部外科学（外科学2）臨床実習（Thoracic Surgery）
対象学年：5年次選択
時間割コード：71644006-09

1. 主任教員

南谷佳弘（教授、胸部外科学講座、6127）

2. 担当教員

南谷佳弘（教授、胸部外科学講座、6127）
今井一博（准教授、胸部外科学講座、6132）
佐藤雄亮（病院准教授、胸部外科学講座、6132）
寺田かおり（講師、乳腺・内分泌外科、6132）
高嶋祉之具（講師、胸部外科学講座、6132）
脇田晃行（医学部講師、胸部外科学講座、6132）
高橋絵梨子（助教、乳腺・内分泌外科、6132）
長岐雄志（助教、食道外科、6132）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

1. 授業の概要及びねらい

診療参加型臨床実習を通して、医師としての知識、思考法、技能、態度の基本を学ぶ。

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

- 1) 患者に対する適切な対応ができる。
- 2) 身体所見、カルテ記載が自分でできる。
- 3) 診断にいたる倫理的思考、それに基づく適切な治療法を述べることができる。

3. 医療行動科学、医療倫理、医療安全、EBM、医療法(医療制度)について

関連するプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療法(医療制度)について説明できる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

標準外科学（医学書院）、他

5. 成績評価の方法

出席・実習態度を考慮して評価します。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

※初日のオリエンテーションで、各自の希望をとってグループ分けをします。

※2週目以降も同じスケジュールですが予定が変更することもありますので、各グループ担当の指導教員へ確認してください。

※日程により、関連する総合病院への実習や学会への参加もあります。

胸部外科学（外科学2）臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教員	8:30～ 初日のみオリエンテーション （臨床研究棟南 3F:胸部外科医局） 病棟実習 手術室実習（見学、手洗い、介助等） 食道外科セミナー（17:00～） 症例プレゼンテーションの準備・練習
第2回 火曜日 [8:00-17:00] 副題 回診とカンファレンス 担当 各担当教員	8:00 集合～ 総回診、カンファレンス 病棟実習 呼吸器外科セミナー 18:00～ 食道がんカンサード（放射線科カンファレンス室）
第3回 水曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教員	8:00- 医局会 病棟実習 手術室実習（見学、手洗い、介助等） 呼吸器合同カンファレンス
第4回 木曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教員	病棟回診・検査等の見学 ※期間中に縫合実習を実施することもあります。
第5回 金曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教員	病棟回診・実習 手術室実習（見学、手洗い、介助等） ※以降の週の予定もこれに同じ。 手術入室や実習については、医局または各領域グループの担当教員より連絡します。

分類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：心臓血管外科 臨床実習 (Clinical Clerkship II Cardiovascular surgery)

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-10

1. 主任教員

角 浜 孝 行 (准教授、心臓血管外科、6135)

2. 担当教員

角 浜 孝 行 (准教授、心臓血管外科、6135)

高 木 大 地 (講師、心臓血管外科、6135)

山 浦 玄 武 (助教、心臓血管外科、6135)

桐 生 健 太 郎 (助教、心臓血管外科、6135)

和 田 卓 也 (助教、心臓血管外科、6135)

板 垣 吉 典 (医員、心臓血管外科、6135)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい

チームの一員として、手術や入院患者さんへの診療を通して、将来どの分野の医師にも必要な外科領域、特に心臓血管外科を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定などの実践力を習得する。また、関連する医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (医療制度)、EBM について実践的に学ぶ。

2. 概要

CC2 ではより本格的な心臓血管外科の診療参加型臨床実習を行う。医師 3-4 名からなる診療チームに所属し、チームの受け持ち患者全てを担当する。医師の指導の下、日々の回診、カルテへの記載、プレゼンテーションなどを行う。特に、手術症例は主体的に担当し、術前検査、カンファレンスペーパーの作成、術前プレゼンテーション、手術、術後管理など、実際の診療に参加しながら、臨床推論、治療の過程を実践的に学ぶ。

1) 病棟診療

各学生は、各診療チームに1週間配属され、指導医のもと1名以上の病棟 (主に集中治療室) の術後患者さんを担当する。指導医の指導の下に、日々、担当患者さんの回診を行い、医療面接・身体診察による課題抽出、臨床推論、診療内容のカルテへの記載を通して、チームの一員として基本的な診療を実践的に学ぶ。

特に、術後患者の診療を通して、心臓血管外科術後急性期の呼吸・循環のダイナミクスを学ぶ。

(1) プレゼンテーション (術前症例提示・チームカンファレンス)

(2) カルテ記載 (ICU フォーマット)

(3) 診療手技：CV 挿入など。

(4) 手術：手術メンバーとして手術に参加する。到達度に合わせ皮膚縫合や大腿動静脈の露出などを行う。

2) 外来診療、各種検査、手術などの治療への参加

実習班で一人の手術患者を担当する。術前検査、手術適応・術式判断、手術見学、術後管理について、診療チームの一員として、実践的に学ぶ。

(1) 新患外来の見学を行う。到達度に応じて、患者の予診を行う。

(2) 手術のインフォームドコンセントを見学する

3. 学修目標

上記の概要・ねらいを中心に実習を進めるが、本診療科で特に経験する症候・病態、各種手技などの内容を下記に示す。

1) 症候・病態 臨床推論 (4-1,2,3,4,5,6,7.)

(1) 術後循環不全・術後呼吸不全

(2) ショック

- (3) 浮腫
- (4) 胸水
- (5) 胸痛
- (6) 呼吸困難
- (7) 動悸
- 2) 基本的臨床手技 (3-1,2,3., 4-2,3,5,6.)
 - (1) 皮膚消毒ができる
 - (2) 中心静脈カテーテル挿入を見学, 介助を通して, 中心的役割を担えるようになる.
 - (3) 動脈ラインより動脈血を採取し, 測定し, 臨床推論を行う.
 - (4) 診療録 (カルテ) およびカンファレンスペーパーを作成する.
- 3) 検査手技 (4-6)
 - (1) 12 誘導心電図を記録できる
 - (2) 血液ガス分析を行える
- 4) 外科手技 (4-6)
 - (1) 無菌操作を実施できる
 - (2) 手術や手技のための手洗いができる
 - (3) 手術室におけるガウンテクニックができる
 - (4) 創の消毒やガーゼ交換ができる
 - (5) 手術, 術前・術中・術後管理を見学し, 介助する
- 5) 医療行動学, 医療倫理, 医療安全, 医療法, EBM について
 - (1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント: 手術のインフォームドコンセントに参加する. 医師の指導のもと, CT 等の同意書を患者さん・ご家族から取得する (2-7)
 - (2) 循環器学会ガイドラインを使用して, 患者状態や価値観を配慮した上で手術適応を判断し, 術前検討会でプレゼンテーションをする (1-1,2., 2-2,3,4,5., 3-3., 4-4,5.)
 - (3) CC1 の診療録作成および術前プレゼンテーションを指導する (6-2)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です.

4. 教科書・参考書

心臓手術の周術期管理 (メディカル・サイエンス・インターナショナル)
日本循環器学会ガイドライン

5. 成績評価の方法

出席状況・CC-EPOC の入力状況を加味した上で, 所属チームのリーダーが総合的に判断し, 成績評価を行う。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

希望により当直医とともに心臓大血管手術後の術後管理を見学することができる
経験記録手帳の記載を行うこと

心臓血管外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [8:15-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当 高木大地	08:15 朝カンファレンス (医局カンファレンス室) 09:00 実習オリエンテーション 所属チームと行動する。
第 2 回 火曜日 [8:15-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:15 朝カンファレンス 所属チームと行動する：新患外来、術前・術後外来を見学する
第 3 回 水曜日 [8:15-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:15 朝カンファレンス 所属チームと行動する。
第 4 回 木曜日 [8:15-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:15 朝カンファレンス 所属チームと行動する。
第 5 回 金曜日 [8:15-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:15 朝カンファレンス 所属チームと行動する。
第 6 回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当 高木大地	08:00 朝カンファレンス (医局カンファレンス室) 09:00 実習オリエンテーション 10:00～手術見学, 患者診療, カルテ記載
第 7 回 火曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 ICU 回診 08:30 朝カンファレンス 10:00～患者診療 13:00～16:00 手術担当患者術前プレゼンテーション準備 16:00 術前症例検討会 (時間は前後するので, 担当高木に確認)
第 8 回 水曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 ICU 回診 08:30 朝カンファレンス 10:00～患者診療 13:00～17:00 手術担当患者術前プレゼンテーション準備
第 9 回 木曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 ICU 回診 08:15 朝カンファレンス：担当患者症例プレゼンテーション 10:00～手術見学, 患者診療
第 10 回 金曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 ICU 回診 08:15 朝カンファレンス 10:00～手術見学, 患者診療
第 11 回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当 高木大地	08:00 朝カンファレンス (医局カンファレンス室) 09:00 実習オリエンテーション 10:00～手術見学, 患者診療, カルテ記載
第 12 回 火曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 ICU 回診 08:30 朝カンファレンス 10:00～患者診療 13:00～16:00 手術担当患者術前プレゼンテーション準備 16:00 術前症例検討会 (時間は前後するので, 担当高木に確認)
第 13 回 水曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 ICU 回診 08:30 朝カンファレンス 10:00～患者診療 13:00～17:00 手術担当患者術前プレゼンテーション準備
第 14 回 木曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 ICU 回診 08:15 朝カンファレンス：担当患者症例プレゼンテーション 10:00～手術見学, 患者診療
第 15 回 金曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 ICU 回診 08:15 朝カンファレンス 10:00～手術見学, 患者診療

心臓血管外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 16 回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当 高木大地	08:00 朝カンファレンス (医局カンファレンス室) 09:00 実習オリエンテーション 10:00～手術見学, 患者診療, カルテ記載
第 17 回 火曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 ICU 回診 08:30 朝カンファレンス 10:00～患者診療 13:00～16:00 手術担当患者術前プレゼンテーション準備 16:00 術前症例検討会 (時間は前後するので, 担当高木に確認)
第 18 回 水曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 ICU 回診 08:30 朝カンファレンス 10:00～患者診療 13:00～17:00 手術担当患者術前プレゼンテーション準備
第 19 回 木曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 ICU 回診 08:15 朝カンファレンス : 担当患者症例プレゼンテーション 10:00～手術見学, 患者診療
第 20 回 金曜日 [8:00-17:00] 副題 心臓血管外科臨床実習 担当	08:00 ICU 回診 08:15 朝カンファレンス 10:00～手術見学, 患者診療

分 類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：脳神経外科学 臨床実習 (Clinical training of Neurosurgery:Advanced)

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-11

1. 主任教員

清水宏明 (教授、脳神経外科学講座、6140、オフィスアワー：10:00-13:00)

2. 担当教員

清水宏明 (教授、脳神経外科学講座、6140、オフィスアワー：10:00-13:00)

高橋和孝 (講師、脳神経外科学講座)

小野隆裕 (助教、脳神経外科学講座)

高橋佑介 (助教、脳神経外科学講座)

工藤絵里奈 (助教、脳神経外科学講座)

富樫俊太郎 (助教、脳神経外科学講座)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 一般目標 (GIO)

講義および臨床実習で学んだ知識を更に深める。(1-1～1-2, 3-1～3-3, 4-1～4-3, 4-5～4-6)

2. 到達目標 (SBOs)

医師と同様な立場で診断・治療に参加することを通して、脳神経外科の代表的疾患について治療計画を作成できる。(1-1～1-2, 2-1～2-7, 3-1～3-3, 3-5～3-6, 4-1～4-7)

関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療法 (医療制度) について説明できる。(1-1～1-2, 3-3, 3-5～3-7, 4-4)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

児玉南海雄 監修：標準脳神経外科学 (医学書院)

太田 富雄 編集：脳神経外科学 (金芳堂)

田崎 義昭 著：ベッドサイドの神経の診かた (南山堂)

山浦 昌 編集：脳神経外科手術アトラス (医学書院)

Albert L. Rhoton 著：RHOTON Cranial anatomy and surgical approaches 南江堂

宜保浩彦ら 編集：臨床のための脳局所解剖学

松谷 雅生 著：脳腫瘍治療学 金芳堂

木内 博之ら監修：プライム脳神経外科 三輪書店

滝 和郎ら 編集：完全版 脳血管内治療学 メディカ出版

小宮山 正樹 著：詳細版 脳脊髄血管の機能解剖 メディカ出版

5. 成績評価の方法

学生各自に指導医を充て、指導医と共に担当症例を受け持つ。担当症例のうち、1例の症例報告を作成し、実習のレポートとする。また、担当症例について学んだことを報告し、質疑応答を行い、総合的に成績を評価する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

実習開始前に配布する資料がある。各期の代表者は前週のうちに、当科の学生担当に連絡して資料を受け取ること。

実習初日は8:20までに第1病棟4Fカンファレンスルームに集合すること。

学生の集合を待ってカンファレンスを開始することはしない。

学外実習があるが、公共交通機関を用いて移動すること。

脳神経外科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第1回	月曜日 [8:20-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急 神経内科合同カンファレンス
第2回	火曜日 [7:45-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カルテ回診 術後カンファレンス 手術・血管内治療・病棟実習・神経救急 (脳神経セミナー 月1回開催)
第3回	水曜日 [8:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 血管撮影読影会 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急
第4回	木曜日 [7:45-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学・関連病院実習】 カルテ回診 術前カンファレンス 午後から大曲厚生医療センター 11:30 大曲の医局集合
第5回	金曜日 [8:20-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カンファレンス 病棟実習・神経救急
第6回	月曜日 [8:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カルテ回診 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急 神経内科合同カンファレンス
第7回	火曜日 [7:45-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カルテ回診 術後カンファレンス 手術・血管内治療・病棟実習・神経救急 (脳神経セミナー)
第8回	水曜日 [8:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 血管撮影読影会 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急
第9回	木曜日 [7:45-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【関連病院実習】 平鹿総合病院 10:00 平鹿の医局集合
第10回	金曜日 [8:20-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カンファレンス 病棟実習・神経救急
第11回	月曜日 [8:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カルテ回診 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急 神経内科合同カンファレンス
第12回	火曜日 [7:45-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カルテ回診 術後カンファレンス 手術・血管内治療・病棟実習・神経救急 (脳神経セミナー)
第13回	水曜日 [8:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 血管撮影読影会 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急
第14回	木曜日 [7:45-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【関連病院実習】 由利組合総合病院 10:30 由利の医局集合

脳神経外科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 15 回	金曜日 [8:20-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カンファレンス 病棟実習・神経救急
第 16 回	月曜日 [8:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カルテ回診 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急 神経内科合同カンファレンス
第 17 回	火曜日 [7:45-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カルテ回診 術後カンファレンス 手術・血管内治療・病棟実習・神経救急 (脳神経セミナー)
第 18 回	水曜日 [8:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 血管撮影読影会 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急
第 19 回	木曜日 [7:45-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カルテ回診 術前カンファレンス 血管内治療・病棟実習・神経救急
第 20 回	金曜日 [8:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【関連病院実習】 秋田県立循環器脳脊髄センター 9:30 総合案内集合
第 21 回	月曜日 [8:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カルテ回診 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急 神経内科合同カンファレンス
第 22 回	火曜日 [7:45-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カルテ回診 術後カンファレンス 手術・血管内治療・病棟実習・神経救急 (脳神経セミナー)
第 23 回	水曜日 [8:00-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 血管撮影読影会 カンファレンス 手術・病棟実習・神経救急
第 24 回	木曜日 [7:45-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カルテ回診 術前カンファレンス 血管内治療・病棟実習・神経救急
第 25 回	金曜日 [8:20-17:00] 副題 脳神経外科学 CC2 担当 各指導教官	【大学】 カンファレンス レポート作成、実習報告会

分 類：臨床医学VI(CC2)

授業科目名：整形外科学・リハビリテーション科 臨床実習 (Orthopedics・Rehabilitation Medicine)

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-12

1. 主任教員

宮腰尚久 (教授、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9:00-17:00)

2. 担当教員

宮腰尚久 (教授、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9:00-17:00)

本郷道生 (教授、保健学科 理学療法学専攻、6532)

粕川雄司 (准教授、リハビリテーション科、6148、オフィスアワー：9:00-17:00)

野坂光司 (講師、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9:00-17:00)

永澤博幸 (医学部講師、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9:00-17:00)

齊藤英知 (助教、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9:00-17:00)

木島泰明 (助教、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9:00-17:00)

白幡毅士 (助教、高度救命救急センター、6148、オフィスアワー：9:00-17:00)

土江博幸 (助教、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9:00-17:00)

工藤大輔 (助教、リハビリテーション科、6148、オフィスアワー：9:00-17:00)

木村竜太 (助教、整形外科学講座、6148、オフィスアワー：9:00-17:00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

【授業のねらい】

臨床実習CC1で、医師として求められる基本的な資質・能力(医学モデル・コア・カリキュラムA項目)、人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療(同D項目)を中心に学習したところであるが、CC2では発展的項目として、診療チームの一員として患者さんへの診療を通して、医師としてのリサーチマインドおよびプロフェッショナルリズムの習得を目指した学習を行う。また、関連する医療倫理、医療行動科学、医療安全、医療法(制度)、EBMについて学ぶ。

【授業の概要】

医学教育モデル・コア・カリキュラムで示された以下の項目を中心に、病棟実習、外来実習、手術実習、講義を通じて学習する。4ないし5週間の実習期間中に、脊椎、膝関節、股関節、上肢外傷、下肢外傷、骨軟部腫瘍、リハビリテーションの各診療グループの一員として日々の診療に従事し学習をする。

A-1-2 患者中心の視点

・インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの意義と必要性を説明できる。(1-2)

A-1-3 医師としての責務と裁量権

・診療参加型臨床実習において患者やその家族と信頼関係を築くことができる。(1-1,1-2,2-1~2-7)

A-2-1 課題探求・解決能力

・課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。(5-1~5-5)

A-2-2 学修の在り方

・講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(5-1~5.5, 6-1,6-2)

A-3-1 全人的実践的能力

・病歴を適切に聴取するとともに患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を行える。(2-1~2-8, 4-1~4-5)

A-4-1 コミュニケーション

・コミュニケーションを通じて良好な人間関係を気づくことができる。(2-1~2-8,4-7)

A-4-2 患者と医師の関係

・患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取り扱いができる。(1-1,1-2,3-5,4-5)

- A-5-1 患者中心のチーム医療
 - ・医療チームの構成や各構成員の役割分担と連携・責任体制を説明し、チームの一員として参加できる。(2-5,2-6,3-6,4-7)
- A-6-1 安全性の確保
 - ・実際の医療には、多職種が多段階の医療業務内容に関与していることを具体的に説明できる。(2-5,2-6,3-5,3-6,4-5,4-7)
- A-6-2 医療上の事故等への対処と予防
 - ・医療上の事故等と合併症の違いを説明できる。(2-5,2-6,3-5,3-6,4-7)
- A-6-3 医療従事者の健康と安全
 - ・標準予防策の必要性を説明し、実行できる。(3-4,3-5,4-4,4-6)
- A-7-1 地域医療への貢献
 - ・地域医療に積極的に参加・貢献する。(3-7,4-8)
- A-8-1 医学研究への志向の涵養
 - ・生命科学の講義・実習で得た知識を基に、診療で経験した病態の解析ができる。(5-1～5-5,6-1,6-2)
- A-9-1 生涯学習への準備
 - ・臨床実習で経験したことを省察し、自己の課題を明確にする。(6-1,6-2)

- B-1-1 統計の基礎
 - ・データの記述と要約ができる。(3-2,5-2,5-3)
- B-1-3 根拠に基づいた医療 (EBM)
 - ・根拠に基づいた医療 (EBM) の5つのステップを列挙できる。(3-3,4-4)
- B-1-8 保健・医療・福祉・介護の制度
 - ・障害者福祉の現状と制度を説明できる。(3-7)
- B-3-1 医学研究と倫理
 - ・医学研究と倫理を説明できる。(1-1)

- G-1-1-(1) 医師として求められる基本的な資質・能力 (1-1,1-2,2-1～2-8)
- G-1-1-(2) 診療の基本 (2-1～2-8,3-1～3-7)
- G-1-1-(3) 学生を信頼し任せられる役割 (4-1～4-8)
- G-2-35 腰背部痛 (3-1～3-3,4-1～4-6)
- G-2-36 関節痛・関節腫脹 (3-1～3-3,4-1～4-6)
- G-2-37 外傷・熱傷 (3-1～3-3,4-1～4-6)
- G-3-1 一般手技 (4-6)
- G-3-3 外科手技 (4-6)

関連するプロフェッショナリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法(制度)、EBMについて説明できる。(1-1,1-2,2-1～2-8,3-6,4-8,5-1～5.5,6-1,6-2)

【授業の進め方】

1. 病棟実習
日々の病棟回診に帯同し、創処置や身体診察、術後安静度の検討などを主治医とともにを行いディスカッションをする。各自1～2例の症例検討を通じて学習目標を達成する。担当症例について画像検査所見の検討、医療面接および身体診察を行う。文献的考察を加えてレポートを作成し、担当教員の指導を受け、カンファランスで担当症例発表を行う。
2. 外来実習
医療面接および身体診察や画像所見読影の基本、リハビリテーションの実際などを実習する。指導医、療法士の患者への対応を観察し、接遇の仕方を学ぶ。
3. 手術実習
手術に参画し、局所解剖の理解を深めるとともに、指導医のもとで Student Doctor に認められた医行為(簡単な縫合など)を行い、基本的臨床手技の習得に努める。
4. 研究活動実習

診療の合間には研究活動にも参加可能である。生体力学研究や骨代謝、再生医学の実験など現在進行中のものを自分の目で見て興味をもってもらうことが目標である。

5. 地域医療実習

希望により医学部附属病院以外の施設にて、手術実習を中心とした研修を行うことが可能である。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

【整形外科】

標準整形外科学（医学書院）

TEXT 整形外科学（南山堂）

整形外科学・外傷学（文光堂）

整形外科 MOOK シリーズ（金原出版）

新図説臨床整形外科講座（メジカルビュー社）

図説整形外科診断治療講座（メジカルビュー社）

最新整形外科学体系（中山書店）

【リハビリテーション科】

リハビリテーション医学・医療コアテキスト第2版（公益社団法人日本リハビリテーション医学会 監修，医学書院発行，定価 4,400 円（本体 4,000 円+税 10 %）

整形外科 術後理学療法プログラム 第3版（メジカルビュー社）

5. 成績評価の方法

臨床実習に無断欠席した者、レポートを提出しない者は臨床実習を完了したことにはならない。

レポート提出は、Word 形式または PDF 形式の添付ファイルとしてメールにて送信する。

提出先メールアドレス：seikei@doc.med.akita-u.ac.jp

CC-EPOC による成績評価を行う。評価項目は、実習前の学習態度、医師・患者関係、時間管理・服装・態度、職種間の連携に関するスキル、診療態度・学習意欲に関して、診療・スキルへの姿勢、および総合評価である。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

【注意事項】

1. 時間厳守

初日は朝 8 時 00 分:1 病棟 8 階カンファレンスルームに集合

初日以降の集合場所および集合時刻は、所属した診療グループの指示に従うこと。

2. レポート

担当した症例のうち 1 症例につきレポート（所定のレポート用紙にまとめる）を作成し、実習終了後 2 週までにメールにて提出すること。

3. 臨床現場における服装に考慮すること。

4. 次ページの授業展開（第 1 回～第 5 回）は週間スケジュールです。この週間スケジュールを 4 ないし 5 回繰り返すこととなります。

整形外科学・リハビリテーション科 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 オリエンテーション、病棟実習、術 前術後カンファランス、総回診、抄 読会 担当 宮腰・本郷・粕川・野坂・永澤・木島	【実習初日は 8:00 まで 1 病棟 8 階カンファランズルームに集合】 【実習初日以外の月曜日は各診療グループ毎に行動します。】 (初日のみ)オリエンテーション 病棟実習/外来実習 【午後】 術前術後カンファランス、総回診 抄読会
第 2 回 火曜日 [8:30-17:00] 副題 各診療グループ毎に 病棟実習/外来実習/手術実習 担当 本郷・野坂・齊藤・土江	各診療グループ毎に行動します。 【午前】 病棟実習/外来実習/手術実習 【午後】 外来実習/手術実習
第 3 回 水曜日 [8:30-17:00] 副題 各診療グループ毎に 病棟実習/外来実習 担当 白幡・土江・工藤・木村	各診療グループ毎に行動します。 【午前】 病棟実習/外来実習 【午後】 外来実習/検査手技実習
第 4 回 木曜日 [8:30-17:00] 副題 各診療グループ毎に 病棟実習/外来実習/手術実習 担当 本郷・粕川・野坂・齊藤・木村	各診療グループ毎に行動します。 【午前】 病棟実習/外来実習/手術実習 【午後】 外来実習/手術実習
第 5 回 金曜日 [8:30-17:00] 副題 各診療グループ毎に 病棟実習/外来実習/手術実習 担当 永澤・木島・白幡・工藤	各診療グループ毎に行動します。 【午前】 病棟実習/外来実習/手術実習 【午後】 外来実習/手術実習

分 類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：皮膚科学・形成外科学 臨床実習 (Clinical Clerkship in Dermatology and Plastic Surgery)

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-13

1. 主任教員

河野 通浩 (教授、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

2. 担当教員

河野 通浩 (教授、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

手塚 崇文 (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

野口 奈津子 (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

加藤 真紀 (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

山川 岳洋 (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

能 登 舞 (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

豊島 あや (助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153、オフィスアワー：9:00-17:00)

橋田 直久 (非常勤講師、元町形成外科、018-829-3003)

渡邊 理子 (非常勤講師、秋田赤十字病院形成外科、018-829-5000)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

(1) 担当教官の指導のもと、病棟・外来・手術業務を学修する。【(1-1)、(1-2)、(2-1) から8)、(3-1) から7)、(4-1) から8)、(5-1) から5)、(6-1)、(6-2)】

(2) 形成外科の開業医院・総合病院での実習で、レーザー治療や手術療法について学修する。【(1-1)、(1-2)、(2-1) から8)、(3-1) から7)、(4-1) から8)、(5-1) から5)、(6-1)、(6-2)】

(3) 皮膚疾患の症例発表を経験する。【(2-1) から8)、(3-1) から7)、(4-1) から8)、(5-1) から5)】

(4) (1)～(3)を通じて、実践的に医の倫理、医療安全、EBM、医療制度などを含めた医のプロフェッショナリズムを学ぶ。【(1-1)、(1-2)、(2-1) から8)、(3-1) から7)、(4-1) から8)】

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

皮膚疾患を有する患者の病歴・身体所見を的確に記載できる。【(4-1) から8)】

皮膚疾患の診断がついたら、その疾患について学び、適切な治療方針を組み立てられる。【(3-1) から7)、(4-1) から8)、(6-1)、(6-2)】

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

- ・シンプル皮膚科学 (眞鍋 求/梅林芳弘, 南江堂)
- ・あたらしい皮膚科学 (清水 宏, 中山書店)
- ・皮膚外科学 (日本皮膚外科学会)

5. 成績評価の方法

実習：「態度、出席、症例発表」

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

一般的な皮膚疾患に関しては指定教科書に沿って指導する。

症例発表の疾患については、指導医とともに論文検索、資料収集を行う。

担当教員の予定により、若干変更する場合がある。

皮膚科学・形成外科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第1回	月曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～ オリエンテーション (皮膚科医局)(2-5) 9:10～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00～17:00 手術実習 (手術室) (4-6)
第2回	火曜日 [9:00-] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00～ 外来実習 (3F・皮膚科外来) (2-1,7) 15:00～病棟カンファレンス・教授回診 (4F・皮膚科病棟) (4-5)
第3回	水曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00～17:00 外来実習 (2-7)
第4回	木曜日 [8:45-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	8:45～17:00 手術実習 (手術室)(4-6)
第5回	金曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7) 13:00～17:00 外来実習 (3F・皮膚科外来) (2-1,7)
第6回	月曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～ オリエンテーション (皮膚科医局)(2-5) 9:10～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00～17:00 手術実習 (手術室) (4-6)
第7回	火曜日 [9:00-] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00～ 外来実習 (3F・皮膚科外来) (2-1,7) 15:00～病棟カンファレンス・教授回診 (4F・皮膚科病棟) (4-5)
第8回	水曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00～17:00 外来実習 (2-7)
第9回	木曜日 [8:45-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	8:45～17:00 手術実習 (手術室)(4-6)
第10回	金曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7) 13:00～17:00 外来実習 (3F・皮膚科外来) (2-1,7)
第11回	月曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～ オリエンテーション (皮膚科医局)(2-5) 9:10～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00～17:00 手術実習 (手術室) (4-6)
第12回	火曜日 [9:00-] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00～ 外来実習 (3F・皮膚科外来) (2-1,7) 15:00～病棟カンファレンス・教授回診 (4F・皮膚科病棟) (4-5)
第13回	水曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00～17:00 外来実習 (2-7)
第14回	木曜日 [8:45-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	8:45～17:00 手術実習 (手術室)(4-6)
第15回	金曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7) 13:00～17:00 外来実習 (3F・皮膚科外来) (2-1,7)
第16回	月曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～ オリエンテーション (皮膚科医局)(2-5) 9:10～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00～17:00 手術実習 (手術室) (4-6)
第17回	火曜日 [9:00-] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00～ 外来実習 (3F・皮膚科外来) (2-1,7) 15:00～病棟カンファレンス・教授回診 (4F・皮膚科病棟) (4-5)

皮膚科学・形成外科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 18 回	水曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00～17:00 外来実習 (2-7)
第 19 回	木曜日 [8:45-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	8:45～17:00 手術実習 (手術室)(4-6)
第 20 回	金曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7) 13:00～17:00 外来実習 (3F・皮膚科外来) (2-1,7)
第 21 回	月曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～ オリエンテーション (皮膚科医局)(2-5) 9:10～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00～17:00 手術実習 (手術室) (4-6)
第 22 回	火曜日 [9:00-] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00～ 外来実習 (3F・皮膚科外来) (2-1,7) 15:00～病棟カンファレンス・教授回診 (4F・皮膚科病棟) (4-5)
第 23 回	水曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7)(4-2,3) 13:00～17:00 外来実習 (2-7)
第 24 回	木曜日 [8:45-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	8:45～17:00 手術実習 (手術室)(4-6)
第 25 回	金曜日 [9:00-17:00] 副題 臨床実習 担当 各指導教官	9:00～12:00 病棟実習 (4F・皮膚科病棟) (2-1,7) 13:00～17:00 外来実習 (3F・皮膚科外来) (2-1,7)

分 類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：腎泌尿器科学 臨床実習 (Clinical Practice of Urology)

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-14

1. 主任教員

羽 瀧 友 則 (教授、腎泌尿器科学講座、6154、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

2. 担当教員

羽 瀧 友 則 (教授、腎泌尿器科学講座、6154、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

成田伸太郎 (准教授、腎泌尿器科学講座、6155、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

齋 藤 満 (准教授、血液浄化療法部、6435、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

沼 倉 一 幸 (講師、腎泌尿器科学講座、6460、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

奈 良 健 平 (助教、腎泌尿器科学講座、3404、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

山 本 竜 平 (助教、腎泌尿器科学講座、3404、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

小 林 瑞 貴 (助教、腎泌尿器科学講座、3404、オフィスアワー：月～金 8:30-17:00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 診療参加型臨床実習 CC2 の概要・ねらい

各科実習期間が4週から5週となるCC2では、1年間のCC1の経験を踏まえ、より本格的な泌尿器科の診療参加型臨床実習を行う。

教員・医員・研修医の3～4名からなる診療チームの中に入り、そのチームの受け持ち患者をすべて受け持ち、すべての検査や治療に参加する。

指導医の監督の下に、日々の回診、カルテへの記載、プレゼンテーション、および各種検査、各種カンファレンスへの参加など実際の診療に参加しながら、担当患者の臨床推論・治療の過程を実践的に学ぶことにより、将来、何科の医師になっても必要な泌尿器科領域の基本的な診療能力を実践修得する。

病棟回診、カンファレンスのプレゼンテーションも学生が行う、

CTなど検査の同意、インフォームドコンセントも指導医のもと学生に行っていただく場合がある。スケジュールは診療チームの予定により異なる。

2. 学修目標

・腎・尿路系の構造と機能を理解し、主な腎・尿路系疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

・生殖系の構造と機能を理解し、生殖器に問題を有する患者の診断と治療に関する知識を学ぶ。

・副腎の内分泌・代謝系の構成と機能を理解し、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

また、上記1の概要・ねらいを中心に実習を進めるが、本診療科で特に経験保証する症候・病態、各種手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態・臨床推論 (3-1～3-7, 4-1～4-8)

・症候

(1) 脱水 (2) 浮腫 (3) 血尿・タンパク尿 (4) 尿量・排尿の異常 (5) 腹痛 (6) 腹部膨隆 (腹水を含む)・膨満・腫瘍

・病態・臨床推論

(1) 腎・尿路系の位置・形態と血管分布・神経支配を説明できる。

(2) 腎で産生される又は腎に作用するホルモン・血管作動性物質 (エリスロポエチン、ビタミンD、レニン、アンギオテンシンII、アルドステロン) の作用を説明できる。

(3) 蓄排尿の機序を説明できる。

(4) 腎・尿路系の画像診断の適応と異常所見を概説できる。

(5) 糸球体濾過量 (実測、推算) を含む腎機能検査法を概説できる。

- (6) 腎生検の適応と禁忌を説明できる。
- (7) 尿流動態検査を説明できる。
- (8) 高・低 K 血症（原因疾患、症候、治療）を概説できる。
- (9) 高・低 Ca 血症（原因疾患、症候、治療）を概説できる。
- (10) アシドーシス・アルカローシス（代謝性・呼吸性）の定義、病態生理と診断を説明できる。
- (11) アシドーシス・アルカローシス（代謝性・呼吸性）の治療を概説できる。
- (12) 急性腎不全（急性腎障害）の病因、症候、診断と治療を説明できる。
- (13) 慢性腎不全（慢性腎臓病 (chronic kidney disease **CKD**)) の病因、症候、診断と治療を説明できる。
- (14) 慢性腎臓病 **CKD** 重症度分類を説明できる。
- (15) 慢性腎不全の合併症である腎性貧血、ミネラル骨代謝異常を概説できる。
- (16) 透析導入基準（慢性腎不全）を説明できる。
- (17) 腎不全の治療（血液透析・腹膜透析・腎移植）を説明できる。
- (18) 高血圧による腎障害（腎硬化症）を概説できる。
- (19) 腎血管性高血圧症を概説できる。
- (20) 腎尿路の主な先天異常（多発性嚢胞腎、膀胱尿管逆流）を概説できる。
- (21) 腎外傷の症候、診断と治療を説明できる。
- (22) 尿路結石の病因、症候、診断と治療を説明できる。
- (23) 尿路の炎症（膀胱炎・前立腺炎・尿道炎）の病因、診断と治療を説明できる。
- (24) 神経因性膀胱を概説できる。
- (25) 腎癌の症候、病理所見、診断、治療を説明できる。
- (26) 膀胱癌を含む尿路上皮癌の症候、診断、治療を説明できる。
- (27) 生殖腺の発生と性分化の過程を説明できる。
- (28) 男性生殖器の発育の過程を説明できる。
- (29) 男性生殖器の形態と機能を説明できる。
- (30) 精巣の組織構造と精子形成の過程を説明できる。
- (31) 陰茎の組織構造と勃起・射精の機序を説明できる。
- (32) 精巣と前立腺の検査法（尿路造影、超音波検査、コンピュータ断層撮影 **CT**、磁気共鳴画像法 **MRI**）の適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
- (33) 血中ホルモン（卵巣刺激ホルモン (follicle-stimulating hormone **FSH**)、黄体形成ホルモン (luteinizing hormone **LH**)、プロラクチン、ヒト絨毛性ゴナドトロピン (human chorionic gonadotropin **hCG**、エストロゲン、プロゲステロン) 測定値を評価できる。
- (34) 勃起不全と射精障害を概説できる。
- (35) 精巣機能障害を概説できる。
- (36) 男性不妊症を概説できる。
- (37) 前立腺肥大症の診断と治療を説明できる。
- (38) 停留精巣、陰嚢内腫瘍を概説できる
- (39) 前立腺癌の症候、病理所見、診断、治療を説明できる。
- (40) 精巣腫瘍の症候、診断、治療を説明できる
- (41) 副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。
- (42) 男性ホルモン・女性ホルモンの合成・代謝経路と作用を説明できる。
- (43) 褐色細胞腫の病態、症候、画像所見、病理所見、診断、治療法を説明できる。
- (44) 性感染症の原因微生物を説明できる
- (45) 梅毒の症候と診断と治療を説明できる。
- (46) 淋菌感染症の診断と治療を説明できる。
- (47) 性器クラミジア、性器ヘルペス、尖圭コンジローマの診断と治療を説明できる。
- (48) 移植と組織適合性の関係を説明できる。
- (49) 移植後の拒絶反応、移植片対宿主病の病態生理と発症時の対応を説明できる。
- (50) 免疫抑制薬の種類、適応と副作用を説明できる。

2) 基本的臨床手技 (4-1~4-8)

- (1) 体位交換、移送ができる。
- (2) 皮膚消毒ができる。
- (3) 中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助する。
- (4) 腰椎穿刺を見学し、介助する。
- (5) 尿道カテーテルの挿入と抜去を実施できる。
- (6) ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助する。
- (7) 全身麻酔、局所麻酔、輸血を見学し、介助する。
- (8) 診療録 (カルテ) を作成する。
- (9) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査手技 (4-6)

エックス線撮影、コンピュータ断層撮影 **CT**、磁気共鳴画像法 **MRI**、核医学検査、内視鏡検査、腹部超音波検査を見学し、介助する。

4) 外科手技 (4-6)

- (1) 無菌操作を実施できる。
- (2) 手術や手技のための手洗いができる。
- (3) 手術室におけるガウンテクニックができる。
- (4) 基本的な縫合と抜糸ができる。
- (5) 創の消毒やガーゼ交換ができる。
- (6) 手術、術前・術中・術後管理を見学し、介助する。

5) 救急処置 (4-6)

- (1) 身体徴候、バイタルサインから緊急性の高い状況であることを判断できる。
- (2) 一次救命処置を実施できる。
- (3) 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

6) シミュレーション教育 (4-6)

- (1) シミュレータを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。
- (2) da vinci シミュレータを用いて、ロボット支援術の仕組みを学び体験する

7) 医療行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (医療制度)、EBMI について (3-5~3-7)

- (1) 各種検査治療のインフォームドコンセント
- (2) 困難な患者、急変患者・家族への説明
- (3) 各種侵襲的な検査・治療時の安全性の配慮

8) プロフェッショナリズムの自覚 (1-1~1-2,6-1)

- (1) 医の倫理と医師の職責の理解
- (2) 患者中心の医療の理解
- (3) 自己研鑽と生涯学習への意欲

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

Campbell 's Urology 11th ed. Alan J. Wein, et al. (eds), Saunders

ベッドサイド泌尿器科学改訂第4版 吉田修 南江堂
講義録泌尿器科学 荒井陽一,小川修 メジカルビュー社
腎移植のすべて 高橋公太 メジカルビュー社

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問、ミニ CEX、出席

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ・ 実習前に泌尿器科を回る学生は、齋藤満まで連絡する事。
- ・ 本学のクリニカルクラークシップガイドの実習直前に必ず復習してくる事項【必修(コア)事項】を学習してくる事。
- ・ 経験記録、手帳の記載を行うこと。
- ・ CC2 では、より本格的に主治医チームの一員として、病棟患者さんをしっかり受けもちながら、その合間にできるだけ外来の新患、再来患者さんの診療や各種検査・治療に参加し、臨床推論・検査・治療の過程を実践的に学んでいただきます。

腎泌尿器科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [7:30 - 18:00] 副題 X線読影、カンファランス、血液透 析実習、検査実習 担当 全教官	07:25 - カンファランスルーム (第二病棟二階から第一病棟に向かって渡り 廊下を渡った階段を過ぎたら右に入って右手) 集合 07:30 - 09:00 X線読影、泌尿器科病棟カンファランス 09:00 - 09:30 オリエンテーション 09:30 - 15:00 患者回診、検査実習、手術実習、症例呈示準備 16:00 - 17:00 総回診 17:10 - 18:30 症例検討会・症例呈示
第 2 回 火曜日 [7:30 - 18:00] 副題 手術実習 担当 全教官	08:00 - 08:30 腎疾患カンファランス 08:30 - 09:00 小講義 09:15 - 17:00 回診および手術実習
第 3 回 水曜日 [7:30 - 18:00] 副題 病棟回診、外来実習、検査実習、手 術実習 担当 全教官	08:00 - 09:00 病棟カンファランス、抄読会 09:15 - 17:00 回診および検査実習、手術実習、外来実習:miniCEX
第 4 回 木曜日 [7:30 - 18:00] 副題 手術実習 担当 全教官	08:00 - 09:00 病理カンファランス (または病棟カンファランス) 09:15 - 17:00 回診および手術実習
第 5 回 金曜日 [7:30 - 18:00] 副題 外来実習、病棟実習、検査実習 全教官 担当 全教官	09:00 - 12:00 外来・病棟実習 13:30 - 17:00 検査実習

分類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：小児科学 臨床実習 (Pediatrics)

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-15

1. 主任教員

高橋勉 (教授、小児科学、6157)

2. 担当教員

高橋勉 (教授、小児科学、6157)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい

チームの一員として病棟や外来患者さんへの診療を通して、将来、どのような分野の医師にも必要な小児科領域を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実践力を習得する。

また、関連するプロフェッショナリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法 (制度)、EBM について学ぶ。

2. 概要 (大まかな学習目標 (項目))

・患者および保護者と良好な人間関係を確立できる。(2-1~2-8)

・問題解決に必要な情報を適切に収集できる。

*患者および保護者から必要な身体的・精神的・社会的情報を得ることができる。(2-1~2-8)

*患者および保護者の立場を考慮しつつ、視診・聴診・触診・打診等により必要な情報を得ることができる。(2-1~2-8, 4-1~4-2)

・収集した情報を適切に記載し、問題点を把握できる。(2-1~2-8, 3-1~3-7)

・問題解決のための診断・治療計画を立案できる。(4-2)

・小児科における特性を理解し、実践することができる。

*年齢による疾患の特殊性を理解する。(3-2~3-4)

*検査結果の年齢による違いを解釈できる。(3-3, 4-2)

*小児における診療技術の特殊性を理解する。(4-3)

*乳幼児健康診査や予防接種への参加を通じ、正常小児の成長発達および子どもの健康支援と予防医療の重要性を理解する。(3-4, 4-8)

・適切なプレゼンテーションができる。

*症例を適切に要約し、場面に応じて提示できる。(2-4, 4-5)

*問題提示に対して、他者と適切な討論ができる。(2-5)

*文献検索等を通じ、問題解決のための資料が作成できる。(4-5)

1) 病棟実習

各学生は4つの診療チーム (総合、循環器、新生児、血液・腫瘍) のいずれかに2週間配属され、指導医のもと数名の病棟患者さんを担当する。指導医の監督の下に、日々、病棟担当患者さんの回診を行い、病状や身体所見をカルテに記載する (指導医の確認必須)。医療面接や身体診察による課題抽出、文献検索による臨床推論、検査・治療方針の提案、カンファランス時等の各種プレゼンテーション、患者・家族への説明への参加など、チームの一員としてEBMに基づいた基本的な診療を実践的に学ぶ。

2) 外来実習・各種検査など

このような病棟の担当患者診療の合間には、外来の新患、再来患者さんの診療や、各種の検査・治療に参加しながら、診療チームの一員として臨床推論・検査・治療の過程を実践的に学ぶ。

3. (詳細な) 学修目標

1) 症候・病態 臨床推論 (3-1～3-2)

発熱、全身倦怠感、食思(欲)不振、体重減少・体重増加、ショック、心停止、意識障害・失神、けいれん、めまい、脱水、浮腫、発疹、咳・痰、血痰・咯血、呼吸困難、胸痛、動悸、胸水、嚥下困難・障害、腹痛、悪心・嘔吐、吐血・下血、便秘・下痢、黄疸、腹部膨満(腹水を含む)・腫瘍、貧血、リンパ節腫脹、尿量・排尿の異常、血尿・タンパク尿、月経異常、不安・抑うつ、もの忘れ、頭痛、運動麻痺・筋力低下、腰背部痛、関節痛・関節腫脹、外傷・熱傷

2) 基本的臨床手技 (3-3, 4-2, 4-6) 粋

体位交換, 移送, 皮膚消毒, 外用薬の貼付・塗布, 気道内吸引, ネプライザー, 静脈採血, 末梢静脈確保, 胃管挿入, 尿道カテーテル挿入・抜去, 注射(皮内・皮下・筋肉内・静脈内), 診療記録, 小児からの採血, カニューレ交換, 浣腸

3) 検査・治療手技 (4-2)

脳波検査(判読), 筋電図, 眼球に触れる検査, 超音波検査(判読), X線検査, CT・MRI・核医学・内視鏡検査, 尿検査, 血液塗抹標本の作製と観察, 微生物学的検査(グラム染色を含む), 妊娠反応検査, 超音波検査(心臓血管・腹部), 心電図, 経皮的酸素飽和度モニター, 病原体抗原の迅速検査, 簡易血糖測定, アレルギー検査(塗布), 発達テスト, 知能テスト, 心理テスト, 処方薬(内服薬)・注射・点滴などのオーダー, 食事指示, 安静度指示, 定型的な術前・術後管理の指示, 酸素投与量の調整, 診療計画の作成, 健康教育

4) 医学行動科学, 医療倫理, 医療安全, 医療法(医療制度), EBM (3-5～3-7, 4-4)

- (1) 治療の立案・実施に可能な範囲で参加する。
- (2) 保護者から必要な情報を得たり対応したりすることに可能な範囲で参加する。
- (3) 小児の成長・発達の評価に可能な範囲で参加する。
- (4) どのように小児科にコンサルテーションすればよいかわかる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

Nelson Textbook of Pediatrics, Oski's Essential Pediatrics

5. 成績評価の方法

実習評価票(各施設からの情報を含む)

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

実習初日は10時よりオリエンテーション(医局1または共用室)

小児科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第1回	月曜日 [10:00 - 17:00] 副題 オリエンテーション 担当 担当者	10:00-12:00 オリエンテーション 13:30-17:00 病棟実習または自習
第2回	火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 大学病院実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第3回	水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 大学病院実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第4回	木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 秋田県立医療療育センター実習 担当 施設内全教員	8:30-17:00 施設内実習 (事前に配布されたスケジュール)
第5回	金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 秋田県立医療療育センター実習 担当 施設内全教員	8:30-17:00 施設内実習 (事前に配布されたスケジュール)
第6回	月曜日 [8:30 - 17:00] 副題 大学病院実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第7回	火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 総合病院実習1 担当 全教員	8:30-17:00 各施設ごとの実習内容
第8回	水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 総合病院実習1 担当 全教員	8:30-17:00 各施設ごとの実習内容
第9回	木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 総合病院実習1 担当 全教員	8:30-17:00 各施設ごとの実習内容
第10回	金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 総合病院実習1 担当 全教員	8:30-17:00 各施設ごとの実習内容
第11回	月曜日 [8:30 - 17:00] 副題 大学病院実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第12回	火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 総合病院実習2 担当 全教員	8:30-17:00 各施設ごとの実習内容
第13回	水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 総合病院実習2 担当 全教員	8:30-17:00 各施設ごとの実習内容
第14回	木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 総合病院実習2 担当 全教員	8:30-17:00 各施設ごとの実習内容
第15回	金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 総合病院実習2 担当 全教員	8:30-17:00 各施設ごとの実習内容
第16回	月曜日 [8:30 - 17:00] 副題 大学病院実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第17回	火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 大学病院実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習

小児科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 18 回	水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 大学病院実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 19 回	木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 大学病院実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 20 回	金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 大学病院実習 担当 全教員	8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 21 回	月曜日 [8:30 - 17:00] 副題 大学病院実習 担当 全教員	(4 週間実習の場合は無し) 8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 22 回	火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 大学病院実習 担当 全教員	(4 週間実習の場合は無し) 8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 23 回	水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 大学病院実習 担当 全教員	(4 週間実習の場合は無し) 8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 24 回	木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 大学病院実習 担当 全教員	(4 週間実習の場合は無し) 8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習
第 25 回	金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 大学病院実習 担当 全教員	(4 週間実習の場合は無し) 8:30-12:00 病棟実習 13:30-17:00 病棟実習または自習

分 類：臨床医学 VI (CC2)
授業科目名：産婦人科学 臨床実習 (Obstetrics and Gynecology)
対象学年：5年次選択
時間割コード：71644006-16

1. 主任教員

寺田 幸弘 (教授、産婦人科学講座、6160)

2. 担当教員

寺田 幸弘 (教授、産婦人科学講座、6160)

熊澤由紀代 (准教授、産婦人科学講座、6163)

清水 大 (准教授、産婦人科学講座、6163)

三浦 広志 (講師、産婦人科学講座、6163)

白澤 弘光 (講師、産婦人科学講座、6163)

牧野 健一 (助教、産婦人科学講座、6163)

菅原 多恵 (助教、産婦人科学講座、6163)

小野寺洋平 (助教、産婦人科学講座、6163)

藤嶋 明子 (助教、産婦人科学講座、6163)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

産婦人科の診療の基本を理解する。

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

講義の知識を臨床に応用できる。

(2-1～2-7、3-1～3-6、4-1～4-7、5-1～5-4、6-1～6-2)

3. 関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、医療安全、EBM、
医療法 (医療制度) について説明できる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

NEW エッセンシャル産科学・婦人科学 第3版

Williams Obstetrics 第25版

Berek & Novak's Gynecology 第15版

5. 成績評価の方法

レポート発表による評価

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

・集合時間 8:45

・集合場所 第二病棟5階カンファレンスルーム前

※2週目以降は第二病棟カンファレンスルーム

※2週以降繰り返し

※月曜日に担当教員を決め指導する

産婦人科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教官	8 : 45～オリエンテーション 教授回診・医局会 病棟実習
第 2 回 火曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教官	病棟実習と手術見学
第 3 回 水曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教官	病棟実習と手術見学
第 4 回 木曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教官	病棟実習
第 5 回 金曜日 [8:30-17:00] 副題 担当 各担当教官	病棟実習と手術見学

分類：臨床医学 VI (CC2)
授業科目名：眼科学 臨床実習 (ophthalmology)
対象学年：5年次選択
時間割コード：71644006-17

1. 主任教員

岩瀬 剛 (教授、眼科学講座、6167)

2. 担当教員

岩瀬 剛 (教授、眼科学講座、6167)
西山 俊吾 (医員、眼科学講座、6167)
佐藤真理子 (医員、眼科学講座、6167)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

これまでの実習で習得した基本的能力をさらに展開させるために、学生が自ら選択した診療科において診療チームに参加し、医師として必要な知識、技能、態度を学ぶ。

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

- (1) 医療面接が適切にできる。
- (2) 理学的所見が正しくとれる。
- (3) 診療記録を正しく記載できる。
- (4) Common Disease の診断、治療計画の立案、実施に参加できる。
- (5) 救急患者の重症度を適切に把握し、初期治療を介助できる。
- (6) 受け持ち患者の病態を適切に把握し、説明ができる。
- (7) 各種検査の適応、検査法及び結果の解釈を理解し、説明ができる。
- (8) チーム医療の一員として、他職種の人とコミュニケーションを保てる。
- (9) 患者と良好なコミュニケーションを保てる。
- (10) 診断、治療に関しての evidence を検索できる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

現代の眼科学 (改訂第13版 所敬 監修 吉田晃敏/谷原秀信 編) 金原出版
標準眼科学 (第12版 木下茂/中澤満/天野史郎 編) 医学書院

5. 成績評価の方法

レポート (選択した疾患についての発表)

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ・初日は8時45分に1病棟7階に集合してください。
- ・大学の他に、他施設での実習を予定しております。施設は臨床配属決定後にお知らせします。
- ・第2週目以降も第1週と同じスケジュールですが、各担当教員の指示を受けてください。

眼科学 臨床実習 (ophthalmology)

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [8:45-17:00] 副題 オリエンテーション 担当 各担当教官	オリエンテーション 病棟における教授回診の見学 外来診察の見学・実習（細隙灯顕微鏡による前眼部の観察、視野データの判読）
第 2 回 火曜日 [8:15-17:00] 副題 手術見学 担当 各担当教官	眼科手術の見学 網膜硝子体手術、白内障手術、緑内障手術
第 3 回 水曜日 [8:15-17:00] 副題 手術説明・同意取得の見学 担当 各担当教官	病棟での術後患者の診察見学 術前患者の説明・同意取得の見学 外来診察・処置の見学（レーザー治療、抗 VEGF 硝子体注射）
第 4 回 木曜日 [8:15-17:00] 副題 手術見学 担当 各担当教官	眼科手術の見学 網膜硝子体手術、白内障手術、緑内障手術 実習
第 5 回 金曜日 [15:00-17:00] 副題 総括 担当 各担当教官	実習の総括

分類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：耳鼻咽喉科・頭頸部外科学／歯科口腔外科学 臨床実習 (Further Clinical Clerkship of Otorhinorharyngology,Head&Neck)

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-18

1. 主任教員

山田武千代 (教授、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6168)

2. 担当教員

山田武千代 (教授、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6168)

鈴木真輔 (准教授、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6169)

川崎洋平 (講師、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6171)

小泉 洸 (助教、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6171)

椎名和弘 (助教、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、6171)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

感覚器官を取り扱う耳鼻咽喉科・頭頸部外科学領域の診療の流れを理解し、色々な機器を用いての診療・検査の要点を理解してもらう。また、当該領域の画像読影の基本を取得してもらう。手術に入り、その実際を体験して頂く。手術を中心に患者及び医療従事者における医療事故防止の実際を学ぶ (医療安全)。高額な抗体療法を施行するにあたり、医療費助成制度について理解する (医療法)。外来や手術サンプルを利用した臨床研究や層別化医療にたけた医師の対応と EBM の重要性について学習する。

(3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

耳鼻咽喉科領域の臨床解剖の要点を説明できる。各種の神経耳科検査、鼻腔通気検査、音声検査、各種画像検査等について基本的な所見を説明できる。

(4-1,2,3,4,5,6)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

新耳鼻咽喉科学 (南山堂)

標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 (医学書院)

T E X T耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 (南山堂)

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学MOOK (金原出版)

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問、レポート、出席で総合評価する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

初日は7:45まで第2病棟7階カンファレンス室に集合

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学／歯科口腔外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [8:00] 副題 担当	オリエンテーション、耳鼻咽喉科診療の実際、手術実習 17：00～放射線症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 2 回 火曜日 [8:00] 副題 担当	抄読会、画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 3 回 水曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、手術実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 4 回 木曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 5 回 金曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、外来実習、手術実習 17：00～手術症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 6 回 月曜日 [8:00] 副題 担当	オリエンテーション、耳鼻咽喉科診療の実際、手術実習 17：00～放射線症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 7 回 火曜日 [8:00] 副題 担当	抄読会、画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 8 回 水曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、手術実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 9 回 木曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 10 回 金曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、外来実習、手術実習 17：00～手術症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 11 回 月曜日 [8:00] 副題 担当	オリエンテーション、耳鼻咽喉科診療の実際、手術実習 17：00～放射線症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 12 回 火曜日 [8:00] 副題 担当	抄読会、画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 13 回 水曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、手術実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 14 回 木曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 15 回 金曜日 [8:30] 副題 担当	画像読影、外来実習、手術実習 17：00～手術症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 16 回 月曜日 [8:00] 副題 担当	オリエンテーション、耳鼻咽喉科診療の実際、手術実習 17：00～放射線症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 17 回 火曜日 [8:00] 副題 担当	抄読会、画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学／歯科口腔外科学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 18 回 副題 担当	水曜日 [8:30]	画像読影、手術実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 19 回 副題 担当	木曜日 [8:30]	画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 20 回 副題 担当	金曜日 [8:30]	画像読影、外来実習、手術実習 17:00～手術症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 21 回 副題 担当	月曜日 [8:00]	オリエンテーション、耳鼻咽喉科診療の実際、手術実習 17:00～放射線症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 22 回 副題 担当	火曜日 [8:00]	抄読会、画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 23 回 副題 担当	水曜日 [8:30]	画像読影、手術実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 24 回 副題 担当	木曜日 [8:30]	画像読影、外来、病棟診療実習 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)
第 25 回 副題 担当	金曜日 [8:30]	画像読影、外来実習、手術実習 17:00～手術症例検討会 (3-1,2,3,4,5,6) (4-1,2,3,4,5,6)

分類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：麻酔・蘇生・疼痛管理学 臨床実習 (Anesthesia and Intensive Care Medicine)

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-19

1. 主任教員

新山 幸俊 (教授、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6172、オフィスアワー：8:30-17:00)

2. 担当教員

新山 幸俊 (教授、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6172、オフィスアワー：8:30-17:00)

木村 哲 (病院准教授、医療安全管理部、6173、オフィスアワー：8:30-17:00)

安部 恭子 (助教、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6175、オフィスアワー：8:30-17:00)

佐藤 浩司 (助教、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6175、オフィスアワー：8:30-17:00)

中島 麻衣子 (助教、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6175、オフィスアワー：8:30-17:00)

山本 夏子 (助教、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6175、オフィスアワー：8:30-17:00)

堀越 雄太 (助教、救急・集中治療医学講座、6175、オフィスアワー：8:30-17:00)

小玉 早穂子 (助教、麻酔・蘇生・疼痛管理学講座、6175、オフィスアワー：8:30-17:00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. ねらい

1)CC2では、CC1の経験を踏まえ、より本格的な麻酔科の診療参加型臨床実習を行う(3-1~3-7, 4-1~4-7)。

2)麻酔記録の入力や種々の手技の介助など、指導医の麻酔管理を補助しながら、チームの一員として麻酔科診療に参加する(2-1~2-8, 4-5~4-7)。

3)CC1の学生を指導することにより、自身の知識、理解をより深める(6-1~6-2)。

4)実習期間中1週間は、県内関連病院(秋田厚生医療センター、市立秋田総合病院、中通総合病院、大曲厚生医療センター、由利組合総合病院)で実習を行い、地域医療の実際を体感する(covid-19の感染状況次第では行われないこともあります)(2-1~2-7, 3-6~3-7, 4-7~4-8)。

5)指定された症例シナリオに沿って鑑別診断、対処法などを学び、グループとしてプレゼンテーションを行う(2-4, 3-1~3-3, 4-1~4-5, 6-1~6-2)。

2. 学修目標

1)症候・病態 臨床推論(3-1~3-4, 3-6, 4-1~4-4)

(1)高血圧・低血圧、(2)不整脈、(3)低酸素血症、(4)高二酸化炭素血症、(5)ショック、(6)心停止、(7)アシドーシス・アルカローシス、(8)電解質異常、(9)高血糖・低血糖、(10)気道確保困難、(11)術後急性痛、(12)慢性痛

2)基本的臨床手技(4-1, 4-5, 4-6)

(1)体位交換、移送ができる。(2)皮膚消毒ができる。(3)末梢静脈ラインの確保を見学し、介助できる。(4)動脈血採血・動脈ラインの確保を見学し、介助できる。(5)動脈血採血・検査を実施できる。(6)中心静脈カテーテル挿入を見学する。(7)胃管を挿入・抜去できる。(8)静脈内注射を実施できる。(9)全身麻酔、局所麻酔、輸血を見学し、介助できる。(10)診療録(麻酔記録)を作成できる。(11)各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助できる。

3)検査手技(4-2, 4-5, 4-6)

(1)手術室の標準的バイタルサインモニタ(心電図、非観血的動脈圧、経皮的酸素飽和度、カプノグラム、bispectral Index、深部温など)を装着できる。(2)動脈血液ガス分析を実施できる。

4)外科手技(4-1~4-8)

(1) 無菌操作を実施できる。(2) 手技のための手洗いができる。(3) 手術室におけるガウンテクニックを見学し、介助できる。(4) 手術、術前・術中・術後管理を見学し、介助できる。(5) 神経ブロックを見学し、介助できる。

5) 救命処置 (3-1～3-7, 4-1～4-7)

(1) 身体徴候、バイタルサインから緊急性の高い状況であることを判断できる。(2) 一次救命処置を実施できる。(3) 二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

6) 麻酔科診療実習 (2-1～2-7, 3-1～3-7, 4-1～4-7)

(1) 麻酔管理中に遭遇する種々の症候・病態 (上記 2. 学修目標 - 1)) に対する臨床推論、対応を指導医の診療を通して学ぶ。(2) 指導医の責任のもと、可能な範囲で実際の麻酔管理に参加する。

7) シミュレーション教育 (3-1～3-6, 4-1～4-7, 6-1～6-2)

(1) 高機能麻酔シミュレータを用いて反復練習することで、臨床技能を磨く。(2) シナリオを用いたトレーニングを通して、状況判断、意思決定能力を獲得する。(3) シミュレータを用いて静脈ライン確保、動脈穿刺、エコーガイド下区域麻酔、硬膜外麻酔を経験する。(4) 振り返りによって自己省察能力を高める。

8) コンピテンシー教育 (1-1～1-2, 2-4～2-6, 3-1 3-7, 4-1～4-7, 5-1～5-4, 6-1～6-2)

(1) 麻酔という患者の意識が消失してコミュニケーションが図れない環境において、患者の代弁者としてふるまうことで医師としての矜持 (倫理、医療行動) を学ぶ。(2) 麻酔関連の合併症が生じた場合の対応を医療安全の概念を踏まえて理解する。(3) 外科医、看護師、臨床工学技士など多職種が業務を行う中でプロフェッショナルリズムとチーム医療を学ぶ。(4) 最近の麻酔および周術期管理に関するエビデンスやガイドラインを学ぶ。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

臨床麻酔科学書 (中山書店)

標準麻酔科学 第7版 (医学書院)

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問、OSCE、プレゼンテーション、レポート (感想文)、2 sentences、出席など

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

1. CC2 では、CC1 よりさらに積極的な診療への参加が求められます。

2. 本学のクリニカルクラークシップガイドにおける実習直前事項を学習してきてください。

3. 経験手技、手帳の記載を行ってください。

4. ペインクリニック外来実習 (水曜日、木曜日) に参加してもらいます。

5. 関連病院麻酔科での実習を行います (covid-19 の感染状況次第では行われなくてもあります)。

6. 実習内容や日程は変更されることがあります。必ず事前に連絡します。

7. 初日は7時45分、手術室内カンファレンスルームに集合してください。

麻酔・蘇生・疼痛管理学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容	
第1回	月曜日 [7:45 - 17:00] 副題 オリエンテーション 手術麻酔症例実習 担当 新山 幸俊、安部 恭子ら	07:45 - 08:45 08:45 - 10:00 10:00 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (総説抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 オリエンテーション 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第2回	火曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 実技 担当 新山 幸俊、佐藤 浩司ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 14:30 14:30 - 17:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 昼食 実技 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第3回	水曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 担当 山本 夏子、中島 麻衣子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (症例検討、症例提示) 手術麻酔症例実習 ペインクリニック外来実習 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第4回	木曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 担当 木村 哲、山本 夏子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 ペインクリニック外来実習 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第5回	金曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 Surgical anesthesia case training 担当 堀越 雄太、小玉 早穂子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 昼食 プレゼンテーション準備
第6回	月曜日 [7:45 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 担当 安部 恭子、佐藤 浩司ら	07:45 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (総説抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第7回	火曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 麻酔シミュレータ実習 担当 安部 恭子、堀越 雄太ら	08:00 - 08:45 08:45 - 09:30 09:00 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 麻酔シミュレータ実習 (OSCE) 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第8回	水曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 担当 山本 夏子、中島 麻衣子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (症例検討、症例提示) 手術麻酔症例実習 ペインクリニック外来実習 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第9回	木曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 担当 木村 哲、山本 夏子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 ペインクリニック外来実習 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第10回	金曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 担当 堀越 雄太、小玉 早穂子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 昼食 プレゼンテーション準備
第11回	月曜日 [7:45 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 担当 安部 恭子、佐藤 浩司ら	07:45 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (総説抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第12回	火曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 麻酔シミュレータ実習 担当 安部 恭子、堀越 雄太ら	08:00 - 08:45 08:45 - 09:30 09:00 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 麻酔シミュレータ実習 (OSCE) 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備

麻酔・蘇生・疼痛管理学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容	
第 13 回	水曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 笑気実習 担当 新山 幸俊、小玉 早穂子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 09:30 09:30 - 11:00 11:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 笑気実習 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第 14 回	木曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 担当 木村 哲、山本 夏子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第 15 回	金曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 担当 堀越 雄太、小玉 早穂子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 昼食 プレゼンテーション準備
第 16 回	月曜日 [7:45 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 術前診察実習 担当 安部 恭子、佐藤 浩司ら	07:45 - 08:45 08:45 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (総説抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習、術前診察実習 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第 17 回	火曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔麻酔 術前診察実習 シミュレータ実習症例実習 担当 佐藤 浩司、堀越 雄太ら	08:00 - 08:45 08:45 - 09:30 09:30 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 麻酔シミュレータ実習 (OSCE) 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第 18 回	水曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 術前診察実習 担当 山本 夏子、中島 麻衣子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (症例検討、症例提示) 手術麻酔症例実習、術前診察実習 (ペインクリニック外来実習) 昼食 手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第 19 回	木曜日 [8:00 - 17:00] 副題 手術麻酔症例実習 (ペインクリニック外来実習) 術前診察実習 術後診察実習 担当 木村 哲、山本 夏子ら	08:00 - 08:45 08:45 - 12:00 (09:00 - 12:00) 12:00 - 13:00 13:00 - 17:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習、術前診察実習 (ペインクリニック外来実習) 昼食 術後診察実習、手術麻酔症例実習、手術患者の術前評価・麻酔計画・準備
第 20 回	金曜日 [8:00 - 12:00] 副題 総括 プレゼンテーション 担当 新山 幸俊、堀越 雄太ら	08:00 - 08:45 08:45 - 10:00 10:00 - 12:00	カンファレンス (論文抄読、症例提示) 手術麻酔症例実習 総括、学習内容プレゼンテーション、感想文提出

分 類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：放射線医学 臨床配属 臨床実習 (Practice of Radiology)

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-20

1. 主任教員

森 菜緒子 (教授、北臨床棟 1 階放射線医学、6302、オフィスアワー：北臨床棟 1 階放射線科カンファレンスルーム、12 時～13 時)

2. 担当教員

森 菜緒子 (教授、北臨床棟 1 階放射線医学、6302、オフィスアワー：北臨床棟 1 階放射線科カンファレンスルーム、12 時～13 時)

和田 優貴 (講師、北臨床棟 1 階放射線医学、6179)

大谷 隆浩 (助教、北臨床棟 1 階放射線医学、6179)

高木 倫子 (助教、北臨床棟 1 階放射線医学、6179)

松田 雅純 (助教、北臨床棟 1 階放射線医学、6179)

戸沢 智樹 (助教、北臨床棟 1 階放射線医学、6179)

今野 素子 (助教、北臨床棟 1 階放射線医学、6179)

熊谷 聡 (助教、北臨床棟 1 階放射線医学、6179)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

放射線診療について学習する (3-3, 4-3)

自ら課題を見つけ、自己学習によって解決できるようになる

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

患者ごとに最適となる検査法がなにか選択できる (4-2)

患者紹介のプレゼンテーションができる (4-5)

診療録の記載ができる (4-5)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

標準放射線医学 (医学書院)、臨床放射線腫瘍学 (南江堂)、新臨床 X 線診断学 (医学書院)

5. 成績評価の方法

出席・態度・症例発表により評価する

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

*コメント 初回集合場所：附属病院 1 階 MRI 棟読影室 (8:50)

実習スケジュールの詳細は、オリエンテーションにて伝える

キーワード：放射線診療

放射線医学 臨床配属 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [08:50-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 08:50 オリエンテーション (病院1階MRI棟読影室) 13:15 教授回診 診断実習 (治療) 08:50 オリエンテーション (病院1階MRI棟読影室) 13:15 教授回診 病棟実習
第2回 火曜日 [08:00-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第3回 水曜日 [08:00-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第4回 木曜日 [08:30-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第5回 金曜日 [08:30-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第6回 月曜日 [08:50-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) (病院1階MRI棟読影室) 13:15 教授回診 診断実習 (治療) (病院1階MRI棟読影室) 13:15 教授回診 病棟実習
第7回 火曜日 [08:00-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第8回 水曜日 [08:00-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習

放射線医学 臨床配属 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 9 回 木曜日 [08:30-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第 10 回 金曜日 [08:30-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第 11 回 月曜日 [08:50-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) (病院 1 階 MRI 棟読影室) 13:15 教授回診 診断実習 (治療) (病院 1 階 MRI 棟読影室) 13:15 教授回診 病棟実習
第 12 回 火曜日 [08:00-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第 13 回 水曜日 [08:00-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第 14 回 木曜日 [08:30-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第 15 回 金曜日 [08:30-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第 16 回 月曜日 [08:50-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) (病院 1 階 MRI 棟読影室) 13:15 教授回診 診断実習 (治療) (病院 1 階 MRI 棟読影室) 13:15 教授回診 病棟実習

放射線医学 臨床配属 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 17 回 火曜日 [08:00-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第 18 回 水曜日 [08:00-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第 19 回 木曜日 [08:30-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習
第 20 回 金曜日 [08:30-17:00] 副題 放射線診断と治療 担当 各担当教員	(診断) 診断実習 (治療) 病棟実習

分 類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：総合診療・検査診断学 臨床実習 (Clinical Clerkship for General Internal Medicine and Clinical Laboratory Medicine) -

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-21

1. 主任教員

植木重治 (教授、総合診療・検査診断学講座、6209、オフィスアワー：8:30~17:00)

2. 担当教員

植木重治 (教授、総合診療・検査診断学講座、6209、オフィスアワー：8:30~17:00)

嵯峨知生 (病院教授、附属病院感染制御部、6248、オフィスアワー：8:30~17:00)

守時由起 (准教授、総合診療・検査診断学講座、6209、オフィスアワー：8:30~17:00)

嵯峨亜希子 (助教、総合診療・検査診断学講座、6209、オフィスアワー：8:30~17:00)

藤岡優樹 (助教、附属病院中央検査部、6209、オフィスアワー：8:30~17:00)

佐々木智子 (特任助教、総合診療医センター、6209、オフィスアワー：8:30~17:00)

引地悠 (医員、附属病院総合診療部、6209、オフィスアワー：8:30~15:00)

渡部健 (医員、男鹿なまはげ地域医療・総合診療連携講座、6209、オフィスアワー：8:30~17:00)

長谷川諒 (医員、附属病院総合診療部、6209、オフィスアワー：8:30~17:00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

診療の多様性を理解し、および多職種連携の重要性について理解する。(2-1~2-7, 3-1~3-7, 4-1~4-2, 4-7~4-8, 5-1~5-3, 6-1~6-2)

本領域に関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、医療安全、医療法 (制度)、EBM、基本手技について説明・実践できる。(1-1~1-2, 3-3, 3-5, 3-7, 4-4~4-6)

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

- 1) 高次医療機関における総合診療の目的・役割について説明できる。
- 2) 総合病院における救急総合診療の目的・役割について説明できる。
- 3) 在宅医療の目的・役割について説明できる。
- 4) ホスピスにおける緩和医療の目的・役割について説明できる。
- 5) 地域における精神医療の目的・役割について説明できる。
- 6) 多職種連携の重要性について説明できる。
- 7) 総合診療部で経験した症例のプレゼンテーションができる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

ハリソン内科学書

新・総合診療医学家庭医療学編

新・総合診療医学病院総合診療医学編

臨床に役立つ検査値の読み方・考え方：河野・西崎編、総合医学社

臨床検査のABC：日本医師会編、医学書院

異常値の出るメカニズム：河合・尾形・伊藤編、医学書院

標準臨床内科学：猪狩・中原編、医学書院

新臨床内科学：阿部他編、医学書院

臨床検査法提要：金井編、金原出版

5. 成績評価の方法

出席、発表、実習態度を強く重視する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

診断学や一般内科を中心に予習をお願いします。

採血があるかもしれないので体調を整えておくこと。

総合診療・検査診断学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第1回 副題 担当	月曜日 [8:50-17:10] オリエンテーション・総合診療・検査診断学実習	8:45 臨床南棟 4F 医局集合 総合診療実習
第2回 副題 担当	火曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第3回 副題 担当	水曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第4回 副題 担当	木曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第5回 副題 担当	金曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第6回 副題 担当	月曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第7回 副題 担当	火曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第8回 副題 担当	水曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第9回 副題 担当	木曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第10回 副題 担当	金曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第11回 副題 担当	月曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第12回 副題 担当	火曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第13回 副題 担当	水曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第14回 副題 担当	木曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第15回 副題 担当	金曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第16回 副題 担当	月曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第17回 副題 担当	火曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習

総合診療・検査診断学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 18 回 副題 担当	水曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第 19 回 副題 担当	木曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習
第 20 回 副題 担当	金曜日 [8:50-17:10] 総合診療・検査診断学実習 各指導教官	総合診療実習

分 類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：救急・集中治療医学 臨床実習 (Emergency&Critical Care Medicine)

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-22

1. 主任教員

中永 士師明 (教授、救急・集中治療医学講座、6183、オフィスアワー：8：30-17：00)

2. 担当教員

中永 士師明 (教授、救急・集中治療医学講座、6183、オフィスアワー：8：30-17：00)

奥 山 学 (准教授、救急集中治療医学講座、6184、オフィスアワー：8：30-17：00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

救急外来診療、ICU・病棟での入院患者診療に診療チームの一員として参加し、指導医とともに診療し、カルテを記載し、翌朝のカンファレンスで症例プレゼンテーションを行う。これを指導医のフィードバックを受けながら毎日繰り返す。

診療を通して、診療技能、コミュニケーション能力、多職種連携能力を習得する。カルテを記載しながら、自分の診療を振り返り、疑問点を明らかにして教科書やITツールを利用してその場で医学知識を取得し正確なカルテ記載を行うことを心がける。これにより専門知識に基づいた問題解決能力、リサーチマインド、診療現場における情報・科学技術の活用能力を習得する。診療終了後に再び振り返り、得られた経験を一般化するために教科書またはITツールを用いて新たな知識の取得と知識の整理を行い、翌日のカンファレンスでプレゼンテーションする。これによって得られた知識は徐々に体系化され自分のものになり、次の診療に活かしていくことが出来る。この経験学習サイクルは医師に必須の生涯にわたって共に学ぶ姿勢に他ならない。

また、救急外来では軽症から重症まで専門臓器にとらわれない様々な病態と様々な社会的背景をもつ方々を診療し、ICUでは重症患者に対してEBMに基づいた臓器横断的な集中治療を行う。加えて終末期医療について深く考えなければならず、総合的に患者・生活者をみる姿勢を習得することができる。

救急・集中治療医学の臨床実習を上記のような姿勢で行うことでプロフェッショナルリズムも身につけていくことが出来ると考えている。

1) 救急外来

担当医と共に救急患者の病歴聴取、身体診察を行い、鑑別診断を考え、各種検査オーダー、方針決定、安定化処置を行う。SOAP形式でカルテを記載する。(1-1,2 2-1,2,3,4,5,6,7,8, 3-1,2,3,4, 4-1,2,3,4,5,6,7,8, 5-1,2,3, 6-1,2)

2) 病棟・ICU

担当医と共にICU入室患者及び一般病棟入院患者の診療を行い、by system方式でカルテを記載する。(1-1,2 2-1,2,3,4,5,6,7,8, 3-1,2,3,4, 4-1,2,3,4,5,6,7,8, 5-1,2,3, 6-1,2)

3) カンファレンス

前日に担当した患者の症例プレゼンテーションを行う。その準備過程で疾患、病態に関して調べ考察することで知識を整理すると共に症例プレゼンテーションの技術を習得する。(1-1,2, 3-1,2,3,4,5, 4-3,4,5, 5-1,2,3,4,5, 6-1,2)

2. 学修目標

- ・バイタルサインや身体徴候から緊急性の高い状態にある患者を認識できる
- ・頻度や緊急性の高い患者に対する初期対応(二次救命処置を含む)の実施を補助できる
- ・医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる
- ・病歴(主訴、現病歴、常用薬、アレルギー歴、既往歴、家族歴、嗜好、生活習慣、社会歴・職業歴、生活環境、家庭環境、海外渡航歴、システムレビュー)を聞き取り、情報を取捨選択し整理できる
- ・患者に関わる人達から必要な情報を得ることができる
- ・患者の状態に応じた診察ができる

- ・ 部位毎の身体診察ができる
- ・ 適切に患者の情報を収集し、問題志向型医療記録（SAOP）を作成できる。
- ・ 主要症候（下記）について鑑別診断を検討し、診断の要点を説明できる
- ・ 主要症候（下記）について初期対応を計画し、専門的診療が必要かどうかを考えることができる。
- ・ 自己学習や協同学習の場に適切な ICT(e ラーニング、モバイル技術等)を活用できる。
- ・ 臓器不全(多臓器不全、サイトカインストーム、播種性血管内凝固症候群)について理解する
- ・ 集中治療及び集中治療室の概要を理解する
- ・ 侵襲(手術、外傷、熱傷)で生じる生体侵襲と生体反応を理解する
- ・ 人工呼吸管理・体外式膜型肺・補助循環・急性血液浄化法が必要な病態とその意義を理解する
- ・ 重症患者に対する体温管理(体温維持療法を含む)及び栄養管理を理解する
- ・ 集中治療後症候群について概念を理解する
- ・ 人生の最終段階における医療(エンド・オブ・ライフ・ケア)について理解する
- ・ ACP、事前指示書遵守、延命治療、蘇生不要指示、尊厳死と安楽死、治療の中止と差し控え等について理解する

1. 発熱 2. 全身倦怠感 3. 食思(欲)不振 4. 体重減少 5. 体重増加 6. 意識障害 7. 失神 8. けいれん 9. めまい 10. 浮腫 11. 発疹 12. 咳・痰 13. 血痰・咯血 14. 呼吸困難 15. 胸痛 16. 動悸 17. 嚥下困難 18. 腹痛 19. 悪心・嘔吐 20. 吐血 21. 下血 22. 便秘 23. 下痢 24. 黄疸 25. 腹部膨隆・腫瘍 26. リンパ節腫脹 27. 尿量・排尿の異常 28. 血尿 29. 月経異常 30. 不安・抑うつ 31. 認知機能障害 32. 頭痛 33. 運動麻痺・筋力低下 34. 歩行障害 35. 感覚障害 36. 腰背部痛 37. 関節痛・関節腫脹

本科目は実務経験のある教員による授業科目です

4. 教科書・参考書

Up To Date

5. 成績評価の方法

出席、診療手技、カルテ記載内容、症例プレゼンテーション

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- 1) 毎朝 8 時 ICU カンファランス室集合
- 2) 半袖の白衣を着用すること。ICU では感染制御の観点から長袖の白衣の着用を禁止しています。
- 3) 他施設での実習をする場合があります。

救急・集中治療医学 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第1回	月曜日 [8:00-1700] 副題 臨床実習 担当 中永 士師明、奥山 学	1) 救急患者の初期診療を学ぶ 2) ICU入室患者の全身管理を学ぶ 3) 症例プレゼンテーションを行う
第2回	火曜日 [8:00-1700] 副題 臨床実習 担当 中永 士師明、奥山 学	1) 救急患者の初期診療を学ぶ 2) ICU入室患者の全身管理を学ぶ 3) 症例プレゼンテーションを行う
第3回	水曜日 [8:00-1700] 副題 臨床実習 担当 中永 士師明、奥山 学	1) 救急患者の初期診療を学ぶ 2) ICU入室患者の全身管理を学ぶ 3) 症例プレゼンテーションを行う
第4回	木曜日 [8:00-1700] 副題 臨床実習 担当 中永 士師明、奥山 学	1) 救急患者の初期診療を学ぶ 2) ICU入室患者の全身管理を学ぶ 3) 症例プレゼンテーションを行う
第5回	金曜日 [8:00-1700] 副題 臨床実習 担当 中永 士師明、奥山 学	1) 救急患者の初期診療を学ぶ 2) ICU入室患者の全身管理を学ぶ 3) 症例プレゼンテーションを行う

分類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：代謝・内分泌内科学（糖尿病・内分泌代謝科） 臨床実習（Metabolism and Endocrinology）－代謝・内分泌内科学－

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-23

1. 主任教員

脇 裕 典（教授、代謝・内分泌内科学、6769、オフィスアワー：12:00-13:00）

2. 担当教員

脇 裕 典（教授、代謝・内分泌内科学、6769、オフィスアワー：12:00-13:00）

藤田浩樹（准教授、代謝・内分泌内科学、6769、オフィスアワー：12:00-13:00）

森 井 宰（講師、代謝・内分泌内科学、6769、オフィスアワー：12:00-13:00）

佐藤雄大（助教、代謝・内分泌内科学、6769、オフィスアワー：12:00-13:00）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

1. 診療参加型臨床実習 CC2 の概要・ねらい

各科実習期間が4～5週間となるCC2では、1年間のCC1の経験を踏まえ、より本格的な糖尿病・内分泌内科の診療参加型臨床実習を行う。将来、どのような分野の医師になっても必要な糖尿病・内分泌内科領域の基本的な診療能力を修得する。

1) 病棟診療

各学生は2つの診療チーム（A、B）のいずれかに4～5週間配属され、指導医のもとで配属されたチームのすべての受け持ち患者さんを担当する。指導医の監督のもとに、毎日担当患者さんの診察を行い、所見を電子カルテに記載する（指導医の確認必須）。また、ウィークリーサマリーを作成し、毎週水曜日の病棟カンファレンスでプレゼンテーションする。実習期間中、副腎静脈サンプリング目的の入院があった場合には見学し、介助する。診療チームの一員として、EBMおよび診療ガイドラインに基づいた基本的な診療を実践的に学ぶ。（1～6）

2) 外来診療、外来検査への参加

実習期間中、4～5名の外来新患患者さんの初診を行い、病歴・診察所見を電子カルテに記載する（指導医の確認必須）。毎週水曜日の外来新患カンファレンスで担当した患者さんについてプレゼンテーションする。また、毎週水曜日の頸部エコー検査と内分泌負荷試験、毎週火・木曜日の午後に行っている甲状腺細胞診検査に交代で参加する。実習期間中の予約外ならびに救急患者さんの診療を見学し、介助する。診療チームの一員として、臨床推論・検査・治療の過程を実践的に学ぶ。（1～6）

2. 学習目標

上記1の概要・ねらいを中心に実習を進めるが、本診療科で特に経験保証する症候・病態、各種手技等の内容を下記に示す。

1) 症候・病態、臨床推論（3-1～3-5、4-1～4-6）

(1) 口渇・多飲・多尿、(2) 甲状腺腫、(3) 肥満・やせ

2) 基本的臨床手技（3-1～3-3、3-5、4-1～4-7）

(1) 皮膚消毒ができる。

(2) 注射（皮内、皮下、筋肉、静脈内）を実施できる。

(3) 診療録（カルテ）を作成する。

(4) 各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。

3) 検査手技 (3-1~3-3、4-1~4-3)

- (1) 尿検査 (尿沈渣を含む) を実施できる。
- (2) POCT 器で血糖測定ができる。
- (3) 頸部の超音波検査を実施できる。
- (4) 甲状腺細胞診検査を見学し、介助する。
- (5) 副腎静脈サンプリング検査を見学し、介助する。

4) プロフェッショナリズム、医療行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (医療制度)、EBM について (2-1~2-8、3-3、3-5、3-7)

- (1) 各種検査・治療のインフォームドコンセント。
- (2) 困難な患者、急変患者の家族への説明。
- (3) 患者さんの生活環境 (家庭、職場) に配慮した診療計画を検討できる。総合的にみることができる。
- (4) 各種侵襲的な検査・治療時の安全性への配慮。
- (5) 各種診療ガイドラインを適宜参照し、活用できる。ICT を活用して検索できる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

内科学 (朝倉書店)

糖尿病専門医研修ガイドブック (診断と治療社)

内分泌代謝科専門医研修ガイドブック (診断と治療社)

5. 成績評価の方法

態度 (実習評価票)

口頭試問 (外来新患・病棟カンファレンスで担当患者さんの症例発表・ディスカッション)

CC-EPOC 入力状況

ミニ CEX (担当患者さんの診察状況を評価)

症例検討会でのプレゼンテーション

出席

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

実習開始までに、3 年次臨床医学 II (加齢と老化、内分泌・栄養・代謝) および CC1 の講義プリントの内容を復習して下さい。

代謝・内分泌内科学（糖尿病・内分泌代謝科） 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第1回	月曜日 [9:00 - 17:00] 副題 オリエンテーション 担当 各指導教官	オリエンテーション 病棟実習 集合場所：医局 集合時間：9時00分
第2回	火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第3回	水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第4回	木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第5回	金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第6回	月曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第7回	火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第8回	水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第9回	木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第10回	金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第11回	月曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第12回	火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第13回	水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第14回	木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第15回	金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第16回	月曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第17回	火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習

代謝・内分泌内科学（糖尿病・内分泌代謝科） 臨床実習

授 業 展 開		授 業 内 容
第 18 回	水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第 19 回	木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第 20 回	金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第 21 回	月曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第 22 回	火曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第 23 回	水曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第 24 回	木曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習
第 25 回	金曜日 [8:30 - 17:00] 副題 糖尿病・内分泌代謝科実習 担当 各指導教官	病棟実習

分類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：小児外科学 臨床実習 (Clinical clerkship in pediatric surgery)

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-24

1. 主任教員

水野大 (病院教授、小児外科学講座、3447、オフィスアワー：水曜日 15時～16時)

2. 担当教員

水野大 (病院教授、小児外科学講座、3447、オフィスアワー：水曜日 15時～16時)

森井真也子 (医学部講師、小児外科学講座、6141、オフィスアワー：火曜日 15時～16時)

渡部亮 (助教、小児外科学講座、6142、オフィスアワー：火曜日 15時～16時)

東紗弥 (医員、小児外科学講座、6141、オフィスアワー：木曜日 15時～16時)

山形健基 (医員、小児外科学講座、6143、オフィスアワー：金曜日 15時～16時)

林海斗 (医員、小児外科学講座、6141、オフィスアワー：木曜日 15時～16時)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の狙い (大まかな全体目標)

チームの一員として病棟や外来患者さんへの診療を通して、将来どのような分野の医師にも必要な小児領域、特に外科疾患を中心とした症候や病態の臨床推論、鑑別診断、検査・治療方針決定等の実践力を習得する。また、関連するプロフェッショナルリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法 (制度)、EBM について実践的に学ぶ。

2. 概要 (大まかな学習目標)

小児外科疾患の診療に関する基本的な知識と技能を習得するために、指導医を中心とした医療チームの一員として能動的に実習に取り組む。(1-1～1-2、2-1～2-6、3-7、5-1～5-4、6-1～6-2)

臨床実習の中で自ら情報を収集し、患者さんと親御さんのニーズ・問題点の抽出、整理、解釈を行い (臨床的推論)、解決法 (診断、治療) を立案するための基本的訓練を行う (problem based learning ; PBL) (1-1～6-2)

診療チームの日常診療に参加し、小児外科疾患の診察、検査、治療の実際を体験し、ポートフォリオを作成する。(1-1～1-2、2-1～2-5、4-1～4-7)

1) 病棟診療

各学生は2週間配属され、指導医の下、病棟の入院患者さんを毎日回診して、診療内容をカルテに記載する。指導医の監督のもとに医療面接、身体診察を行うとともに処置を見学して、問題を抽出し、作業仮説を立ててEBMに基づいた検証を繰り返す。臨床推論に基づいて、診断、鑑別に必要な検査を立案し、患者さんの状態を勘案して治療方針の選択を試みる。他科頼診券、紹介状などの作成、症例検討会でのプレゼンテーション、患者・家族への説明への参加など、診療チームの一員として基本的な診療を実践的に学び、医師としてのプロフェッショナルリズムを身につけるために必要な知識、学習プロセスを身につける。(1-1～1-2、2-1～2-7、3-1～3-7、4-1～4-8)

2) 外来診療

外来診療への参加機会は手術や検査のない時間に限られるが、医療面接、身体診察を見学し、小児の特殊性を理解する。(2-1～2-7、3-1～3-3、3-5～3-6、4-1～4-2、4-6)

3) 各種検査・手術など治療への参加

診療チームの一員として各種検査、手術をはじめとする治療に参加あるいは見学しながら臨床推論・検査・手術の実際を経験し、検査成績の評価を自ら試みるとともに、治療 (手術) の目的、妥当性について理解する。(3-1～3-3、3-5～3-6、4-1～4-7)

3. 詳細な学習目標・項目

上記1のねらい・概要を中心に実習をすすめるが、本診療科で経験し得る症候、病態、各種手技などの内容を下記に示す。

1) 症候・病態 臨床推論 (3-5、4-1~4-6)

(1) 腹痛 (2) 呼吸困難 (3) 発熱 (4) 悪心・嘔吐 (5) 食欲不振 (6) 嚥下障害 (7) 吐血・下血
(8) 便秘・下痢 (9) 腹部膨満 (10) 腫瘤 (11) 黄疸 (12) 脱水

2) 基本的臨床手技 (3-1~3-3、3-5、4-1~4-7)

(1) 体位変換、移送ができる (2) 皮膚消毒ができる (3) 静脈採血を見学する (4) 末梢静脈の血管確保を見学する (5) 中心静脈カテーテル挿入を見学する (6) 胃管の挿入と抜去を介助する (7) 尿道カテーテルの挿入と抜去を見学し、介助する (8) ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助する (9) 全身麻酔、局所麻酔、輸血を見学する (10) 診療録を作成する (11) 各種診断書・証明書の作成を見学する

3) 検査・治療手技 (3-1~3-3、4-1~4-7)

(1) 腹部の超音波検査を見学し、介助する。
(2) エックス線撮影、コンピューター断層撮影 (CT)、核磁気共鳴画像検査 (MRI)、核医学検査、内視鏡検査、直腸肛門内圧検査を見学し介助する。
(3) 無菌操作を実施できる。
(4) 手術や主義のための手洗いができる。
(5) 手術室におけるガウンテクニックができる。
(6) 基本的な抜糸ができる。
(7) 創の消毒やガーゼ交換ができる。
(8) 手術、術前・術中・術後管理を見学する。

4) プロフェッショナリズム、医学行動科学、医療倫理、医療安全、医療法 (制度)、EBM について (1-1~1-2、2-1~2-7、3-1~3-7、4-1~4-7、5-1~5-5)

(1) 各種検査・治療のインフォームドコンセントを見学する。
(2) 疾患の病態や疫学を理解する。
(3) インペアメント、ディスアビリティ、ハンディキャップを説明できる。
(4) 患児の生活環境などを総合的にみて診療計画を検討できる。
(5) 感染防止対策を説明できる。
(6) 身体障害者福祉法を概説できる。
(7) 各種診療ガイドラインなど必要な情報を ICT を活用して検索できる。
(8) 文献から得られた情報の批判的吟味ができる。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

3年次「成長と発達」講義資料
標準小児外科学 (医学書院)
スタンダード小児外科手術 (メジカルビュー)
スタンダード小児内視鏡外科手術 (メジカルビュー)
Swenson 's Pediatric Surgery
Journal of Pediatric Surgery

5. 成績評価の方法

態度、口頭試問 (実習中随時行われる質疑応答)、CC-EPOC 入力状況、ミニ CEX、レポート、出席で総合評価する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

基礎医学で学ぶ人体発生学、解剖学、生理学を復習しておくこと。

3年時に講義した成長と発達を復習しておくこと。

適宜、診療録を記載し、指導医によるフィードバックを確認して追記・訂正を行うこと。

実習終了後に自己評価表、臨床実習評価シート、レポートを医局秘書に提出する。

実習初日は朝8時15分に1病棟5階ナースステーションに集合する事。

小児外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [8:15-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	オリエンテーション(8:15～) 朝回診(8:20～) 手術(9:00～) 夕回診(16:00～) 抄読会・症例検討会(16:30～17:30)
第2回 火曜日 [8:15-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診(8:15～) 検査、定期入院患者の診察 夕回診(16:00～) 小児科、産科との合同カンファランス(17:00～17:30)
第3回 水曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診(8:15～) 手術(9:00～) 夕回診(16:00～)
第4回 木曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診(8:15～) 検査 夕回診(16:00～)
第5回 金曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診(8:15～) 検査、定期入院患者の診察 夕回診(16:00～)
第6回 月曜日 [8:15-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診(8:15～) 手術(9:00～) 夕回診(16:00～) 抄読会・症例検討会(16:30～17:30)
第7回 火曜日 [8:15-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診(8:15～) 検査、定期入院患者の診察 夕回診(16:00～) 小児科、産科との合同カンファランス(17:00～17:30)
第8回 水曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診(8:15～) 手術(9:00～) 夕回診(16:00～)
第9回 木曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診(8:15～) 検査 夕回診(16:00～)
第10回 金曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診(8:15～) 検査、定期入院患者の診察 夕回診(16:00～)
第11回 月曜日 [8:15-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診(8:15～) 手術(9:00～) 夕回診(16:00～) 抄読会・症例検討会(16:30～17:30)
第12回 火曜日 [8:15-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診(8:15～) 検査、定期入院患者の診察 夕回診(16:00～) 小児科、産科との合同カンファランス(17:00～17:30)
第13回 水曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診(8:15～) 手術(9:00～) 夕回診(16:00～)
第14回 木曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診(8:15～) 検査 夕回診(16:00～)
第15回 金曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診(8:15～) 検査、定期入院患者の診察 夕回診(16:00～)

小児外科学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 16 回 月曜日 [8:15-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 手術 (9:00～) 夕回診 (16:00～) 抄読会・症例検討会 (16:30～17:30)
第 17 回 火曜日 [8:15-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00～) 小児科、産科との合同カンファランス (17:00～17:30)
第 18 回 水曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 手術 (9:00～) 夕回診 (16:00～)
第 19 回 木曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 検査 夕回診 (16:00～)
第 20 回 金曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00～)
第 21 回 月曜日 [8:15-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 手術 (9:00～) 夕回診 (16:00～) 抄読会・症例検討会 (16:30～17:30)
第 22 回 火曜日 [8:15-17:30] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00～) 小児科、産科との合同カンファランス (17:00～17:30)
第 23 回 水曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 手術 (9:00～) 夕回診 (16:00～)
第 24 回 木曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 検査 夕回診 (16:00～)
第 25 回 金曜日 [8:15-17:00] 副題 小児外科学臨床実習 担当 担当指導医	朝回診 (8:15～) 検査、定期入院患者の診察 夕回診 (16:00～)

分類：臨床医学 VI (CC2)
授業科目名：病理部 臨床実習 (Surgical pathology)
対象学年：5年次選択
時間割コード：71644006-25

1. 主任教員

南條 博 (病院教授、病理部、6182)

2. 担当教員

南條 博 (病院教授、病理部、6182)

廣嶋 優子 (助教、病理部、6200)

畠山 遥 (医員、病理部、6061)

三浦 将仁 (医員、病理部、6061)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

直接患者の治療方針に関わる外科病理学の実際について取得し、医療における病理診断科の役割と意義を理解する。加えて、種々の臓器病変の病理組織学的診断について修練する。また、関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、医療安全、EBM、医療法 (医療制度) について説明できる。

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

外科病理の医療に果たす役割を理解する。(3-1~3-4, 4-1~4-7)

臨床医との連携の重要性を理解する。(3-1~3-4, 4-1~4-7)

代表的な病変の肉眼的所見を的確に表現できる。(3-1~3-3, 4-1~4-7)

典型的な組織病変を理解できる。(3-1~3-4, 4-1~4-7)

病理組織標本の作成過程を理解できる。(3-1~3-3)

病理組織検査、細胞診検査、フローサイトメトリーの意義を説明できる。(3-1~3-3)

病理診、細胞診の適切な検体の取扱い、標本作製および診断過程が説明できる。(3-1~3-3)

外科手術材料症例の標本から肉眼所見を採り、的確に標本切り出しを行える。(3-1~3-3, 4-1~4-7)

外科手術材料症例の組織標本から疾患の診断ができる。(3-1~3-3, 4-1~4-7)

TNM 分類の観点から腫瘍性疾患の概要を把握できる。(3-1~3-3, 4-1~4-7)

免疫組織化学染色法、in situ hybridization 法、がん遺伝子パネル検査などの分子病理学的アプローチについて理解する。(3-1~3-3)

術中迅速診断の利点、限界を説明できる。(3-1~3-4, 4-1~4-7)

デジタル画像を用いた病理診断 (遠隔診断を含む) の利点、限界を説明できる。(3-1~3-4, 4-1~4-7)

病理診断に必要な臨床情報の適切な提供法を説明できる。(3-1~3-4, 4-1~4-7)

患者の入院診療録から病態、臨床病理学的な検討課題を説明できる。(3-1~3-4, 4-1~4-7)

生命科学の講義・実習で得た知識を基に、診療で経験した病態の解析ができる。(4-1~4-7, 5-1~5-5)

患者や疾患の分析を基に、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。(4-1~4-7, 5-1~5-5)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

5. 成績評価の方法

出席率、実習態度学習意欲 (積極性) レポート

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

集合場所：病理診断科

集合時間：8：30（初日）

病理部 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第1回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第2回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、畠山 遥	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第3回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎、臨床病理カンファレンス
第4回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第5回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、三浦 将仁	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第6回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第7回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、畠山 遥	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第8回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎、臨床病理カンファレンス
第9回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎、臨床病理カンファレンス
第10回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、鈴木 麻弥	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第11回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第12回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、畠山 遥	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第13回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎、臨床病理カンファレンス
第14回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第15回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、三浦 将仁	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第16回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第17回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、畠山 遥	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎

病理部 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
第 18 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎、臨床病理カンファレンス
第 19 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎、臨床病理カンファレンス
第 20 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、三浦 将仁	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 21 回 月曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 22 回 火曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、畠山 遥	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 23 回 水曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎、臨床病理カンファレンス
第 24 回 木曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、廣嶋 優子	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎
第 25 回 金曜日 [9:00-17:00] 副題 担当 南條 博、三浦 将仁	迅速診断、切り出し、組織診断と細胞診の基礎

分 類：臨床医学 VI (CC2)

授業科目名：臨床腫瘍学 臨床実習 (Clinical Oncology -principles & practice-, face to face) ーがん薬物療法の実際ー

対象学年：5年次選択

時間割コード：71644006-27

1. 主任教員

柴田浩行 (教授、臨床腫瘍学講座、6262、オフィスアワー：17：00)

2. 担当教員

柴田浩行 (教授、臨床腫瘍学講座、6262、オフィスアワー：17：00)

福田耕二 (講師、臨床腫瘍学講座、6263、オフィスアワー：17：00)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

医療行動科学、医の倫理、医療安全、エビデンス、医療制度を理解したうえで、以下の項目について、進行がん患者に対する治療の実際を体験し、必要な知識、技術を習得する。とくにがんの発生メカニズム、がんの病態を理解し、がんの組織型や病期ごとの治療法やケアの方法について総合的に理解する (1-1, 1-2, 3-1～3-7, 4-1～4-8)。

進行がん患者に対する治療の実際を体験し、必要な知識、技術を習得する (4-1～4-7)。

1-1. 主訴からの診断推論を組み立てる、又はたどる (4-1～4-3)。

1-2. 疾患の病態や疫学を理解する (3-1～3-4)。

1-3. 腫瘍内科的治療の立案・実施に可能な範囲で参加する (4-1～4-3)。

1-4. 複数の臓器にまたがる問題を統合する視点を獲得する (3-1～3-3, 4-1～4-7)。

1-5. 基本的な内科的診察技能について学ぶ (4-1～4-7)。

1-6. 他科との連携、コンサルテーションについて理解する (4-7, 4-8)。

2. 実習内容・具体的到達目標・学修目標

＞がん薬物療法の治療方針の立て方 (標準治療、他)、実際 (外来化学療法、入院化学療法) について学習する (4-1～4-3)。

2-1. 基本的臨床手技の目的、適応、禁忌、合併症と実施法について理解し、指導医の指導・監督の下で自ら実施する。

＞化学療法の有害事象への対処や症状緩和の方法について学習する (4-1～4-7)。

2-1-1. 外来化学療法のシステムについて理解する (レジメン管理、有害事象の管理) (2-5, 2-6, 4-4, 4-7)。

2-1-2. 化学療法における薬剤師、看護師とのチーム医療の実際を理解する (4-7)。

2-2. 臨床推論：症候・病態ごとに頻度・重症度を考慮し、想定すべき鑑別診断を行う。鑑別診断を想定しながら必要な病歴聴取・身体診察を行う (3-1～3-7, 4-1～4-7)。

2-3. 緩和ケアの実際について学習する (1-2, 3-3)。

2-4. チーム医療の進め方について学習する (4-7)。

2-5. 進行がん患者とのコミュニケーションスキルについて学習する (2-1～2-8, 4-1)。

特に以下の点について重点的に学ぶ。

2-5-1. がん薬物療法の実際に際してのインフォームド・コンセントが取れる (4-1～4-4)。

2-5-2. 進行がん患者に対するコミュニケーション・スキルを習得する (4-1)。

2-5-3. SPIKES プロトコールに基づく悪い知らせ (がんの告知) の伝え方ができるようになる (1-2, 4-1～4-5)。

2-6. 医師として求められる基本的な資質・能力を常に意識しながら、臨床実習を行う (4-1～4-7)。

2-7. 医学研究への志向の涵養

医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲を涵養する(5-1～5-5)。

2-7-1. 研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを理解する(1-1, 1-2)。

2-7-2. 生命科学の講義・実習で得た知識を基に、診療で経験した病態の解析ができる(3-1～3-7, 4-1～4-4)。

2-7-3. 患者や疾患の分析を基に、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解を深める(5-1～5-5)。

2-7-4. 抽出した医学・医療情報から新たな仮説を設定し、解決に向けて科学的研究に参加する(5-1～5-5)。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

新臨床腫瘍学(南江堂、改訂第6版、2021年)

入門腫瘍内科学(篠原出版新社、改訂第3版、2020年)

Cancer: Principles & Practice of Oncology, 9th edition (Wolters Kluwer/ Lippincott Williams & Wilkins)

5. 成績評価の方法

出席、ミニテスト

出席、ミニテストで習熟度を確認する。

学生は個別に入院患者を1名以上受け持つ。

毎朝のカンファランスで司会を分担しつつ、受け持ち患者の病状の報告を行う。

その際に、随時、口頭試問を課す。

外来新患を受け持ち、病歴を要約する。翌日の朝のカンファランスで治療方針を含むプレゼンテーションする。

CC1の医学生の指導についても評価の対象とする。

受け持ち症例を学会の症例報告形式でまとめ、日本語、または英語で論文化する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

午前8:00に第二病棟6階ナースステーション前に集合。

第2週目以降も同様のスケジュールで行う。

優秀な症例報告は日本内科学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会で発表の機会を与える。

授 業 展 開	授 業 内 容
<p>第 1 回 月曜日 [8:00-17:00] 副題 がん薬物療法の実際 担当 柴田、福田</p>	<p>1) 進行がん患者の診療 (コミュニケーション、診察、検査、治療) 1. 抗腫瘍薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 2. 分子標的薬の薬理作用と有害事象を説明できる。 2) 進行がん患者の初診 (告知、問診、病歴聴取、治療の説明 (IC)) 以下のポイントに留意する 1. 問題の同定から治療やマネジメントに至るプロセスを列挙できる。 2. 情報収集には医療面接、身体診察、検査の3つの方法があることを理解する。 3. 診断仮説を想起するためには、解剖学、病理学、生理学、生化学等の基礎医学や疾患頻度が重要であることを理解する。 4. 診断仮説を検証するために、診断仮説に基づいた情報収集を実施できる。 5. 状況に応じ、診断プロセスと治療やマネジメントが並行して行われることを理解する。 6. 治療やマネジメントに関して意思決定するために、患者側と情報共有や折り合わせをする。 7. コンサルテーションや紹介の必要な状況を説明できる。 3) 外来患者の診療 (外来化学療法とエマージェンシー) 1. 血算、凝固・線溶系検査、尿・糞便検査、生化学検査の目的と適応を理解し結果を解釈する。 2. 染色体・遺伝子検査の目的と適応を理解し、結果を解釈する。 3. 病理組織検査、細胞診検査、フローサイトメトリーの意義を理解し、結果を解釈する。 ・下記の症状のある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 また、どのような病態であるのかの臨床推論を行う。 1. 発熱、2. 全身倦怠感、3. 食思不振、4. 脱水、5. 発疹、6. 咳・痰、7. 血痰・咯血、8. 呼吸困難、9. 胸水、10. 腹痛、11. 悪心・嘔吐、12. 吐血・下血、13. 便秘・下痢、14. 黄疸、15. 腹部膨隆 (腹水)・腫瘍、16. 貧血、17. リンパ節腫脹、18. 尿量・排尿の異常、19. 血尿・タンパク尿、20. 頭痛、21. 運動麻痺・筋力低下、22. 腰背部痛。 4) 進行がん患者の治療に必要な知識と手技 1. 経静脈栄養と経管・経腸栄養の適応、方法と合併症、長期投与時の注意事項を説明できる。 2. 血液製剤及び血漿分画製剤の種類と適応を説明できる。 3. リハビリテーション・チームの構成を理解し、がんリハにおける医師の役割を説明できる。 4. 緩和ケアを概説できる。 5. 全人的苦痛を説明できる。 6. 緩和ケアにおいて頻度の高い身体的苦痛、心理社会的苦痛を列挙することができる。</p> <p>1) 進行がん患者の診療 (コミュニケーション、診察、検査、治療) 2) 進行がん患者の初診 (告知、問診、病歴聴取、治療の説明 (IC)) 3) 外来患者の診療 (外来化学療法とエマージェンシー) 1. 適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。 2. 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。 3. 病歴 (主訴、現病歴、常用薬、アレルギー歴、既往歴、家族歴、嗜好、生活習慣、社会歴・職業歴、生活環境、家庭環境、海外渡航歴、システムレビュー) を聴き取り、情報を取捨選択し整理できる。 4. 診察時に患者に適切な体位を説明できる。 5. 診察で得た所見、診断、必要な検査を上級医に説明、報告できる。 適切に患者の情報を収集し、問題志向型医療記録 POMR を作成できる。 6. 診療経過を主観的所見・客観的所見・評価・計画 SOAP で記載できる。 7. 症例を適切に要約する習慣を身に付け、状況に応じて提示できる。 8. プライバシー保護とセキュリティに充分配慮できる。</p>

臨床腫瘍学 臨床実習

授 業 展 開	授 業 内 容
<p>第 2 回 火曜日 [8:00-17:00] 副題 がん薬物療法の実際 担当 柴田、福田</p>	<p>1) 進行がん患者の診療 (コミュニケーション、診察、検査、治療) 2) 進行がん患者の初診 (告知、問診、病歴聴取、治療の説明 (IC)) 3) 外来患者の診療 (外来化学療法とエマージェンシー) 1. 適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。 2. 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。 3. 病歴 (主訴、現病歴、常用薬、アレルギー歴、既往歴、家族歴、嗜好、生活習慣、社会歴・職業歴、生活環境、家庭環境、海外渡航歴、システムレビュー) を聴き取り、情報を取捨選択し整理できる。 4. 診察時に患者に適切な体位を説明できる。 5. 診察で得た所見、診断、必要な検査を上級医に説明、報告できる。 適切に患者の情報を収集し、問題志向型医療記録 POMR を作成できる。 6. 診療経過を主観的所見・客観的所見・評価・計画 SOAP で記載できる。 7. 症例を適切に要約する習慣を身に付け、状況に応じて提示できる。 8. プライバシー保護とセキュリティに充分配慮できる。</p>
<p>第 3 回 水曜日 [8:00-17:00] 副題 がん薬物療法の実際 担当 柴田、福田</p>	<p>臨床修練 (外来、入院) 1) 進行がん患者の診療 (コミュニケーション、診察、検査、治療) 2) 進行がん患者の初診 (告知、問診、病歴聴取、治療の説明 (IC)) 3) 外来患者の診療 (外来化学療法とエマージェンシー) 1. 患者の立場を尊重し、信頼を得ることができる。 2. 患者の安全を重視し、有害事象が生じた場合は適切に対応ができる。 3. 患者のプライバシー、羞恥心、苦痛に配慮し、個人情報等を守秘できる。 4. 感染を予防するため、診察前後の標準予防策ができる。 5. 身だしなみ、言葉遣い及び態度等に気を配ることができる。 6. 患者の状態から診察が可能かどうかを判断し、状態に応じた診察ができる。 7. 身長・体重を測定し、body mass index の算出、栄養状態を評価できる。 8. 上腕で触診、聴診法により血圧を測定できる。 9. 両側の橈骨動脈で脈拍を診察できる。 10. 呼吸数を測定し、呼吸の異常の有無を確認できる。 11. 腋窩で体温を測定できる。 12. 下肢の動脈の触診等、下腿の血圧測定 (触診法)、大腿の血圧測定 (聴診法) を実施できる。 13. 7 全身の外観 (体型、栄養、姿勢、歩行、顔貌、皮膚、発声) を評価できる。 14. 眼 (視野、瞳孔、対光反射、眼球運動・突出、結膜) の診察ができる。 15. 頭頸部リンパ節の診察ができる。 16. 胸部の視診、触診、打診ができる。 17. 呼吸音と副雑音の聴診ができる。 18. 腹部の視診、聴診ができる。 19. 圧痛、腹膜刺激徴候、筋性防御の有無を判断できる。 20. 腹水の有無を判断できる。 21. 腸雑音、血管雑音の聴診ができる。</p>
<p>第 4 回 木曜日 [8:00-17:00] 副題 がん薬物療法の実際 担当 柴田、福田</p>	<p>臨床修練 (外来、入院)、緩和ケアチーム 1) 進行がん患者の治療に必要な手技の実習 1. 血管穿刺のシミュレータを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。 2. 体位交換、移送ができる。 3. 皮膚消毒ができる。 4. 外用薬の貼付・塗布ができる 5. 静脈採血を実施 6. 末梢静脈の血管確保を実施できる。 7. 中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助する。</p>

授 業 展 開	授 業 内 容
<p>第 5 回 金曜日 [8:00-17:00] 副題 がん薬物療法の実際 担当 柴田、福田</p>	<p>1) 進行がん患者の診療（コミュニケーション、診察、検査、治療） 1. 抗腫瘍薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 2. 分子標的薬の薬理作用と有害事象を説明できる。 2) 進行がん患者の初診（告知、問診、病歴聴取、治療の説明（IC）） 以下のポイントに留意する 1. 問題の同定から治療やマネジメントに至るプロセスを列挙できる。 2. 情報収集には医療面接、身体診察、検査の3つの方法があることを理解する。 3. 診断仮説を想起するためには、解剖学、病理学、生理学、生化学等の基礎医学や疾患頻度が重要であることを理解する。 4. 診断仮説を検証するために、診断仮説に基づいた情報収集を実施できる。 5. 状況に応じ、診断プロセスと治療やマネジメントが並行して行われることを理解する。 6. 治療やマネジメントに関して意思決定するために、患者側と情報共有や折り合わせをする。 7. コンサルテーションや紹介の必要な状況を説明できる。 3) 外来患者の診療（外来化学療法とエマージェンシー） 1. 血算、凝固・線溶系検査、尿・糞便検査、生化学検査の目的と適応を理解し結果を解釈する。2. 染色体・遺伝子検査の目的と適応を理解し、結果を解釈する。 3. 病理組織検査、細胞診検査、フローサイトメトリーの意義を理解し、結果を解釈する。 ・下記の症状のある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。 また、どのような病態であるのかの臨床推論を行う。 1. 発熱、2. 全身倦怠感、3. 食思不振、4. 脱水、5. 発疹、6. 咳・痰、7. 血痰・咯血、8. 呼吸困難、9. 胸水、10. 腹痛、11. 悪心・嘔吐、12. 吐血・下血、13. 便秘・下痢、14. 黄疸、15. 腹部膨隆(腹水)・腫瘤、16. 貧血、17. リンパ節腫脹、18. 尿量・排尿の異常、19. 血尿・タンパク尿、20. 頭痛、21. 運動麻痺・筋力低下、22. 腰背部痛。 4) 進行がん患者の治療に必要な知識と手技 1. 経静脈栄養と経管・経腸栄養の適応、方法と合併症、長期投与時の注意事項を説明できる。 2. 血液製剤及び血漿分画製剤の種類と適応を説明できる。 3. リハビリテーション・チームの構成を理解し、がんリハにおける医師の役割を説明できる。 4. 緩和ケアを概説できる。 5. 全人的苦痛を説明できる。 6. 緩和ケアにおいて頻度の高い身体的苦痛、心理社会的苦痛を列挙することができる。</p> <p>1) 進行がん患者の診療（コミュニケーション、診察、検査、治療） 2) 進行がん患者の初診（告知、問診、病歴聴取、治療の説明（IC）） 3) 外来患者の診療（外来化学療法とエマージェンシー） 1. 適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。 2. 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。 3. 病歴（主訴、現病歴、常用薬、アレルギー歴、既往歴、家族歴、嗜好、生活習慣、社会歴・職業歴、生活環境、家庭環境、海外渡航歴、システムレビュー）を聴き取り、情報を取捨選択し整理できる。 4. 診察時に患者に適切な体位を説明できる。 5. 診察で得た所見、診断、必要な検査を上級医に説明、報告できる。 適切に患者の情報を収集し、問題志向型医療記録 POMR を作成できる。 6. 診療経過を主観的所見・客観的所見・評価・計画 SOAP で記載できる。 7. 症例を適切に要約する習慣を身に付け、状況に応じて提示できる。 8. プライバシー保護とセキュリティーに充分配慮できる。</p>

分類：臨床医学 VI (CC2)
授業科目名：地域医療実習 (Community medicine training)
対象学年：5年次必修
時間割コード：71644006-28

1. 主任教員

学務委員長 ()

2. 担当教員

学務委員長 ()

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

ねらい

これからの社会では、どのような分野や医療機関の医師にとっても、医療連携を必要とするすべての患者さんや家族が、心身ともに安心して医療を継続的に受けられるように、診療を行う各地区における地域包括ケア・医療連携を考慮した全人的医療が必須となる。

本プログラムは、学内における1年間の診療参加型臨床実習(CC1)が終了した後に、1~2名単位で4~5週間にわたり、県内2次医療圏の各地域医療機関における診療参加型臨床実習を行う。これによりCC1の経験を生かして、基本的な診療能力を向上するとともに、地域包括ケアシステムと多職種連携の重要性、地域医療の魅力とやりがいを理解し、将来、医師として様々な形で地域医療連携に関わっていくための総合的な診療実践力を修得する。さらには、これらの実習経験を通じて、医師のプロフェッショナリズム、医の倫理、医療行動科学、医療安全、EBM、医療制度についての実践力を向上する。

学修目標 (1-1~1-2、2-1~2-8、3-1~3-7、4-1~4-8、5-1~5-5、6-1~6-2)

1. 地域医療・プライマリケアにおける主要症候・病態に対して十分な医療面接、身体診察による臨床推論、初期対応ができる。
2. 系統だった臨床検査、画像検査が適切に提案できる。
3. 正確で系統だった症例提示とカルテ記載ができる。
4. 一般的な急性・慢性疾患や病態に対して治療方針の提案など適切に対応できる。
5. EBMの意義を正確に理解して問題解決のために実践できる。
6. 患者・家族とラポールを形成するような人間関係が構築できる。
7. 在宅医療・地域包括ケアにおける広義のチーム医療・多職種連携の重要性を理解し実践できる。
8. 死生観やACP (Advance Care Planning) について理解し、地域包括ケアの際に検討できる。
9. 予防医学に関する知識があり実践できる。
10. 介護保険等の一般的な書類を記載し、指導医に提案できる。
11. 地域医療の魅力とやりがいを理解し実践できる。
12. ICTを活用した的確な情報収集ができる
13. 地域医療実習経験を通じて、医師のプロフェッショナリズム、医の倫理、医療行動科学、医療安全、医療制度、EBMに関する実践力、様々な患者背景を考慮した総合的な診療能力を幅広く向上する。

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

実習手引き※後日配付

各病院における推薦図書など

5. 成績評価の方法

各受入病院の臨床教授等による評価, 提出実習レポート評価, 実習出席状況及び実習態度を評価する。CC-EPOC の入力状況も評価対象となる。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

※本科目は「秋田大学 COC キャリア認証プログラム」に定める「地域志向科目」である

地域医療実習

授業展開	授業内容
------	------

分類：臨床医学V

授業科目名：秋田県研修病院実習（clinical clerkship in training hospitals in Akita Prefecture）－卒後臨床研修病院における診療参加型

対象学年：5年次必修

時間割コード：71643002-30

1. 主任教員

学務委員長 ()

2. 担当教員

学務委員長 ()

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

ねらい

学内における1年間の診療参加型臨床実習（CC1）の終了後、5年次後期からのCC2開始時に、医学教育の集大成として第一線の臨床現場である秋田県内の卒後臨床研修に関わる医療機関で臨床実習する。この実習により、地域医療連携を含めた医師としての幅広い経験を積み、将来、どの分野に進んでも大切な総合的な診療能力を向上させるとともに、卒後臨床研修に向けての学修意識を高める。さらに、実習経験を通じて、プロフェッショナルリズム、医の倫理、医療行動科学、医療安全、医療制度、EBMに関する実践力を幅広く向上する。

学修目標

秋田県内の卒後臨床研修病院を中心とした実習協力病院で3週間の地域実習を5年生全員が同時に行う。CC1の経験を生かし、上級医の指導の下で研修医とともに主治医チームの一員として診療に参加するなど、学生実習で認められる範囲で積極的に入院あるいは外来診療・地域医療連携（地域包括ケア）を経験し、総合的な診療能力および患者や各医療従事者とのコミュニケーション力を向上させる。さらに、この時期に、各医療機関における卒後臨床研修を意識した実習を経験することにより、その後、CC2期間の診療参加型臨床実習に取り組むモチベーションを上げる。（1-1～1-2、2-1～2-8、3-1～3-7、4-1～4-8、5-1～5-5、6-1～6-2）

1. 主要症候や病態に対して十分な医療面接、身体診察による臨床推論および初期対応ができる。
2. 系統だった臨床検査、画像検査が適切に提案できる。
3. 正確で系統だった症例提示とカルテ記載ができる。
4. 一般的な急性・慢性疾患や病態に対して治療方針の提案など適切に対応できる。
5. EBMの意義を正確に理解して問題解決のために実践できる。
6. 患者さんとラポールを形成するような人間関係が構築できる。
7. 広義のチーム医療、多職種連携の重要性を理解し実践できる。
8. 地域医療連携、地域包括ケア、予防医学に関する知識があり実践できる。
9. 各種医療制度を理解し、介護保険等、一般的な書類記載内容について指導医に提案できる。
10. 卒後臨床研修を意識して診療参加型臨床実習を充実することができる。
11. ICTを活用した的確な情報収集ができる
12. これらの実習経験を通じて、医師のプロフェッショナルリズム、医の倫理、医療行動科学、医療安全、医療制度、EBMに関する実践力、様々な患者背景を考慮した総合的な診療能力を幅広く向上する。

4. 教科書・参考書

手引き※後日配付予定

各病院における推薦図書

5. 成績評価の方法

各受入病院の臨床教授等による評価、提出実習レポート評価、実習出席状況及び実習態度を評価する。CC-EPOCの入力状況も評価対象となる。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

※本科目は「秋田大学 COC キャリア認証プログラム」に定める「地域志向科目」である。

秋田県研修病院実習

授業展開	授業内容
------	------

